Boxoft Image To PDF Demo. Purchase from www.Boxoft.com to remove the watermark

Scanned by Melora for History of Hyrule

historyofhyrule.com
melorasworld@gmail.com

Hey everyone! I'd personally be really happy to see you make scanlations or take portions of this and make fun things and posts with it. The only things I ask are:

1. Try to link back to **historyofhyrule.com**, somewhere, somehow, for credit. This is so people can find more info and other works, reach me if they have questions, or want to contribute other content. It’s actually how I’ve found out about so many of these things and been able to get them to you in turn.

2: Please don’t just re-upload the whole set somewhere else. This is in case it's re-released officially so I, and my site, don't come into conflict with any publishers or artists for making scans. (Or, if you do use the whole set, because you've made scanlations, just don’t use them commercially and take the full set of my scanned images down if you ever hear about a re-release.) In the 20 years I've been doing this I have never once left scans up if something comes back into print again. I only do the scanning work I do because, as an enthusiast, I don't want something that is actually out of print and rare to be lost forever.

Thank you for understanding!
-Melora

双葉文庫

ファミコン冒険ゲームブック③

ゼルダの伝説/蜃気楼城の戦い

樋口明雄 / S・ハード

双葉社

Legend of Zelda; The Mirage Castle
by Studio Hard Co., Ltd. and
Akio Higuchi
Copyright ©1986 Studio Hard Co., Ltd.
Illustration by Yuko Tanaka
Character and Basic Licenser
©Nintendo 1986
First Published by Futaba-sha Book Co., Ltd.
3-28 Higashi-Gokencho, Shinjuku, Tokyo, Japan

ゼルダの伝説／蜃気楼城の戦い

CONTENTS

プロローグ……4

ゲームの進め方……8

ゲーム……18

エピローグ……266

ハイラル地方地図……270

蜃気楼城（ミラージュ●キャッスル）内見取図……272

作者あとがき……274

バトル記号表……276

冒険記録紙……277

プロローグ

それは未来でもなく、過去でもない。

また、地球上でなく、かといって宇宙に散在する無数の星々の中の、いかなる世界の事でもない。

それは君たちの心の中。いつも夢見がちで、冒険の世界に心を翔(と)ばす事の好きな君たちの、空想の中に存在する世界。

その広大な世界の片隅に、ハイラルと名づけられた地方がある。この地方の平和は、トライフォース〝黄金の三角形〟と呼ばれる不思議な秘宝によって守られていた。

ある時、闇の世界からやってきた大魔王ガノンが、トライフォースを強奪(ごうだつ)。そのためハイラル地方は、怪物の徘徊(はいかい)する魔境と化した。さらにこの国の王女ゼルダ姫もガノンにとらえられ、デスマウンテン地下の迷宮に閉じ込められてしまったのだ。

風雲急(ふううんきゅう)をつげるハイラル地方。ある日そこへやってきた少年リンク。この勇敢(ゆうかん)な剣士は、

ハイラルの苦境を知るや、美しい姫君とトライフォースを取り返すべく、魔王の牙城へと乗り込んでいった。

様々な危機を乗り越え、彼はついにゼルダ姫を救出、トライフォースを取り戻した。

――と、以上が前回のあらすじ。さて、この物語は、ここから始まる新しい冒険だ。

ハイラル地方に訪れたつかの間の平和。

それは突如、魔界からやってきた新たなる敵、魔将軍ガイアによって破られた。

黒い竜巻と化し、王国を襲ったガイアは、国王グレアムII世の眼前で、あっという間に宮殿を破壊し〝知恵〟と〝力〟のトライフォースを奪い去った。そして、ガイアは奪ったトライフォースをそれぞれふたつ、合計4つのパーツに分けてハイラル地方のどこかにかくしてしまったのだ。

さて、リンク少年とゼルダ姫。ガノンを倒して以来、ふたりは惹かれ合っていた。

しかし残忍なガイアは、彼らにも呪いをかけてしまったのだ!

呪い――それはクリスタルムーンと呼ばれる水晶球に込められていた。リンクは夜の間、この水晶球に閉じ込められ、ゼルダは昼の間、閉じ込められる。ふたりは夜明けと夕暮れの一瞬に入れ代わる。いつも一緒にいながら、お互いに会う事はできないのだ。

こうしてふたりは、再び魔境と化したハイラル地方を舞台に、危難にみちた旅をする事

になった。
めざすは蜃気楼城（ミラージュ・キャッスル）。ハイラルのあちこちに、幻のようにこつ然と現われては消える、伝説の城だ。魔将軍（ゼネラル）ガイアは、その城の迷宮の奥にいる。
ガイアを倒すため、旅の途中で集めなければならないものがある。それは、トライフォースの4つのパーツといくつかの小道具（アイテム）。そして蜃気楼城の場所を探すための情報だ。最初にふたりが持てる武器は、剣、弓矢、バクダン（5個）しかない。
旅にはもうひとり——ファニーという小さな妖精が同行した。お互いの情報を交換できないリンクとゼルダの連絡係。彼女は、ときにはふたりを助け、またときには励ましてくれるに違いない。ファニーはその名の通り——Funny（愉快の意）——陽気な妖精なのだ。
呪いのかかったハイラルは、刻々と滅亡に向かいつつある。木々は枯れ、陽光は陰（かげ）り、水は干上（ひあ）がっていく。果たしてふたりは、敵の城にたどりつき、ガイアを倒せるだろうか。
すべては君の勇気と判断力にかかっている。
では、冒険の世界への扉を開いてくれ——

ゲームの進め方

●リンクとゼルダのふたりを交互に演じます

この本は、リンクとゼルダのW(ダブル)キャラクターで展開するニュータイプのゲームブックです。あなたは昼と夜の入れ代わりにしたがって、**リンク(昼)になったり、ゼルダ(夜)に代わったりしながら**ゲームを進めていって下さい。

どちらかひとりだけでは蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)を見つけ出すことはできません。ふたりの情報を集めて初めてたどりつけるのです。

ふたりが目指す蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)は、所定まらぬ漂流城です。どこに現われるかわかりません。なるべく多くの情報を集めておかなければ探し出せません。

情報を教えてくれるのは洞窟や木の洞(うろ)に住むおじいさんとおばあさん。うまく見つけて聞き出して下さい。

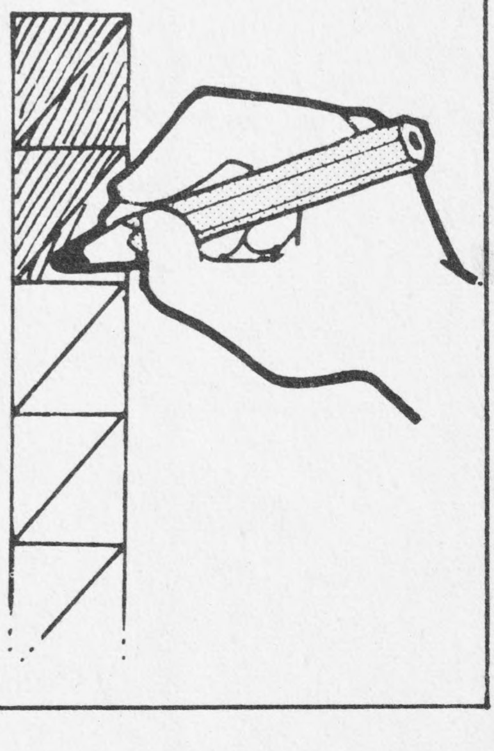
また270ページにある地図も重要なヒントになります。選択に迷ったら地図を開いてみましょう。

●経過日数のチェック

このゲームには、日数制限があります。与えられた日数は**10日間**。ゲーム進行中、昼と夜が入れ換わるたびに２７８ページの**経過日数ゲージ**をチェックしながらゲームを進めます。四角いマス目ひとつが１日です。日がたつごとにぬりつぶして下さい。(図１) 10日をオーバーしてしまうと蜃気楼城（ミラージュ・キャッスル）の扉はかたく閉ざされるのです。

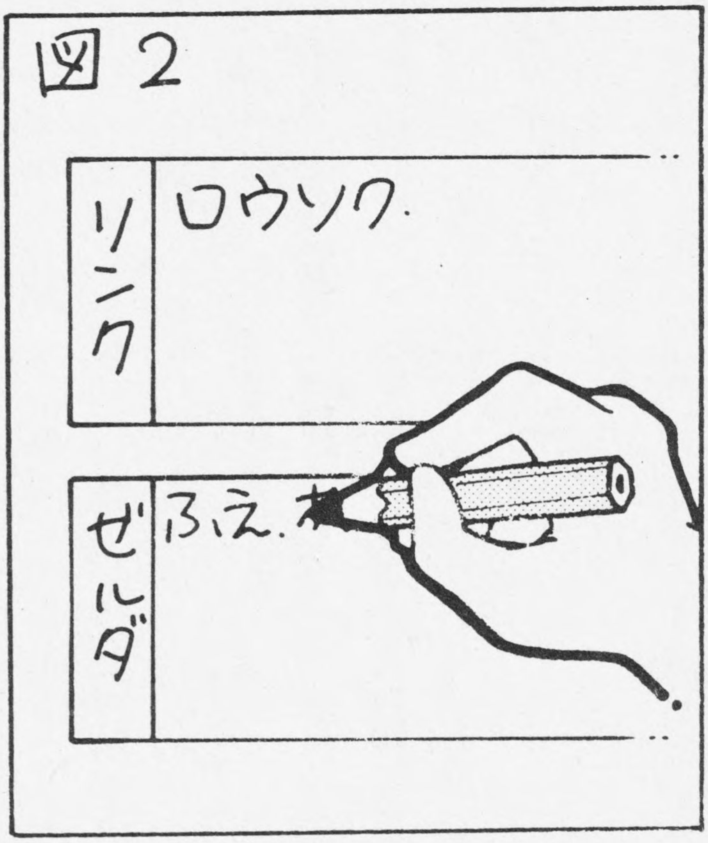
道中には、ところどころにワープゾーンがあり、後ろにもどされたり、前に飛んだりします。後ろにもどされると、それだけ余分な日数がかかってしまいます。今まで経過した日数に、もどった場所からかかる日数をプラスしていって下さい。

図１



●アイテムチェック

このゲームブックでは、リンクとゼルダが別々に小道具（アイテム）を取っていきます。敵を倒したり商人から買ったりして得た小道具（アイテム）は、リンクが取ったものはリンク、ゼルダが取ったも



のはゼルダしか使えません。**リンクとゼルダ、それぞれのパートで別々に取る**ようにして下さい。重複して取ってもかまいません。なるべく多くの小道具を取っていった方が有利になるでしょう。ただし、ゲームを進めていくと、同じ項目を何度か通る事があります。その場合、前に一度小道具を取っていれば、二度取ることはできません。そのまま無視して進んで下さい。

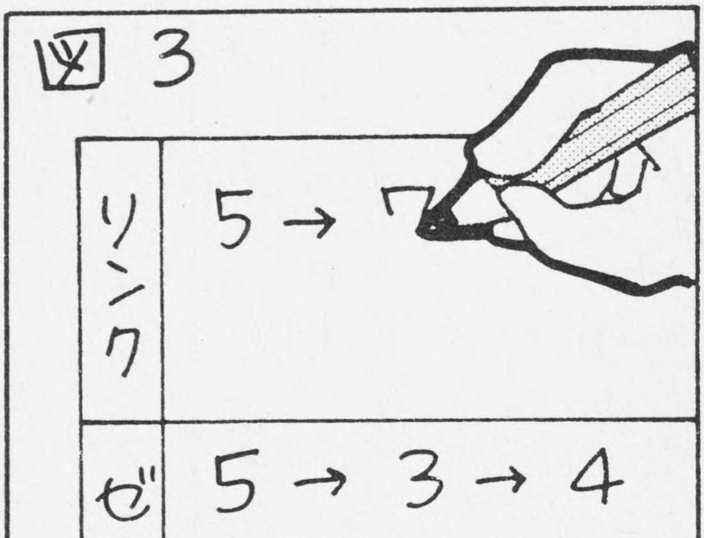
277ページに、リンクとゼルダ、それぞれの**アイテムチェックシート**があります。手に入れるたびに書き入れていって下さい。(図2)

商人が売っている小道具は、場所によって値段が違います。なるべく安い品物を探した方が得ですが、高くてもそこで手に入れなければならない物もあります。よくカンを働かせて買うかどうか決めて下さい。また、お金があれば同時にいくつ買ってもかまいません。

●ルピーのチェック

商人から小道具を買う時に必要なのが、この国の通貨ルピーです。

最初、リンクとゼルダがそれぞれに持っているのは**20ルピー**。小道具を買うたびに、その品物の値段の分だけマイナスしていって下さい。また敵を倒すと落ちている場合もあります。その時は得た数の分だけプラスします。
278ページに**ルピーチェックシート**があります。増えたり減ったりするたびに必ず書き入れて下さい（図3）

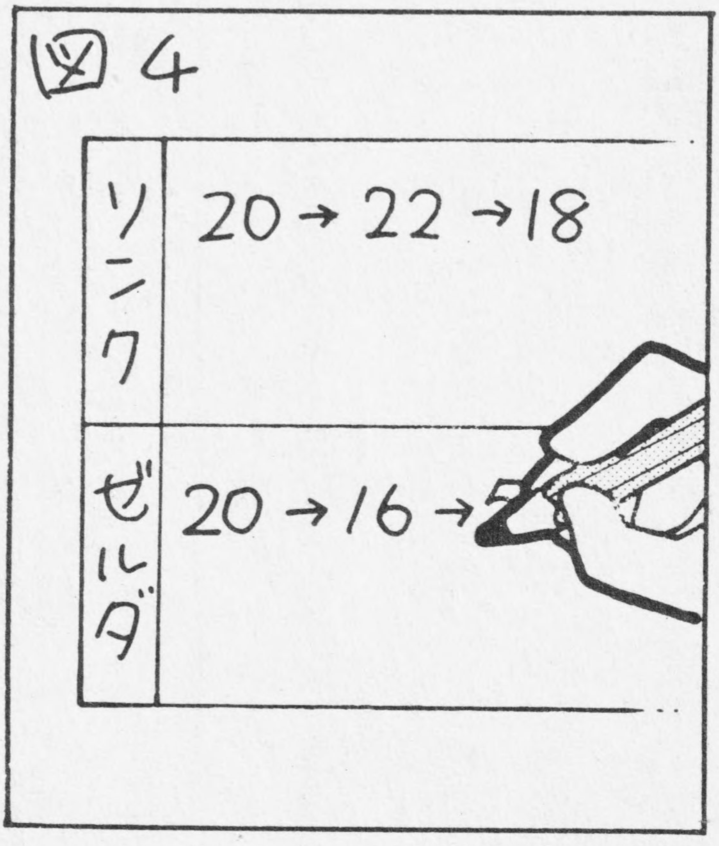


●LIFE（ライフ）エネルギー♡のチェック

リンクとゼルダのLIFEエネルギー（生命値）はハートの数で表わされています。その数はバトルの勝敗によって変化します。敵に勝てば増え、負ければ減っていきます。
また、戦わずに逃げ出した場合にも減る事があります。
ハートが減り続け、0になると、それは死を意味し、残念ながらゲームオーバーです。
でも、0になる前に妖精の泉にうまくたどりつければ、泉から特別な力を得たファニーがハートを満杯にしてくれます。
持てるハートの数には上限があります。最初に与えられているハートは**5個**。途中、何

か所かに隠されている**命の器**をひとつ取ると、そのたびに持てるハートの数が増えていきます。ファミコン版ゲームでは、1個ずつしか増えませんが、このゲームブックでは一度に**4個**ずつ増えます。

ハートの数はたえず変化します。必ず279ページの**LIFEエネルギー♡チェックシート**に記入して数を確認して下さい。(図4)



●バクダンのチェック

ふたりが得る小道具(アイテム)のひとつにバクダンがあります。簡単な武器ですが、敵を倒すだけではなく行き止まりの壁をこわして、路(みち)を開くこともできる便利品です。

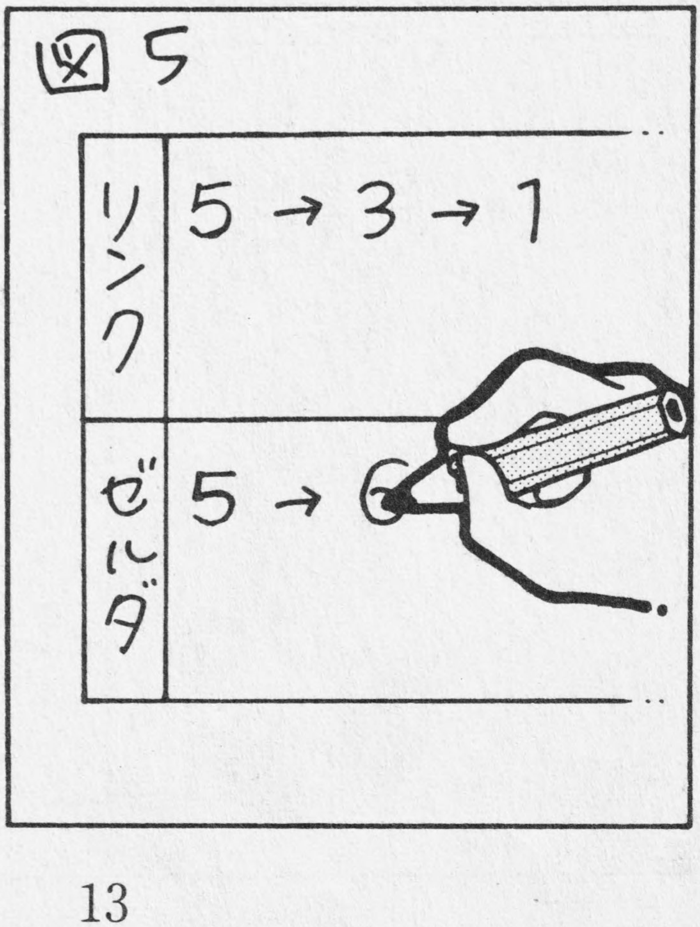
バクダンも、ハートと同じく、持てる数に限りがあります。最初に与えられているバクダンの数は**5個**。それが**命の器**をひとつ取るたびに、持てるバクダンの数が4個ずつ増えていくのです。例えば、途中でバクダンを5個見つけたとします。その時、すでにバクダンを3個持っていて、持てる数の上限が5個なら、2個しか拾えません。それが命の器をひとつ取ると、持てる数の上限が9個になるので5個全部拾えるようになるのです。

２７８ページに**バクダンチェックシート**があります。こちらも忘れずにチェックしておきましょう。(図５)

ルピー、ハート、バクダンは、リンクとゼルダが別々に持っているものです。それぞれのパートでの増減は、もう一方にはまったく影響しません。いくらリンクがハートを取っても、ゼルダのハートがなくなればそれでゲームは終ってしまうのです。この３つのチェック表はどれも**ふたり分**用意してあります。必ず**別々に記入**して下さい。

また、これらの増減がある項目を何回か通る場合があります。その時は、指示通り何度でも、増やしたり減らしたりして下さい。

チェックが必要な項目には、ゲーム番号の下にチェックのマーク[C]が入っています。このマークのついた項目に来たらよく注意してチェックもれのないようにしましょう。



●ステップメモ

何かの拍子で本が閉じてしまったり、途中でゲームを中断したりして、自分のたどって来たルートがわからなくなってしまうことがあります。そんなことのないように、1から順に、通った項目をメモしておきましょう。リンクが通ったルートと、ゼルダが通ったルートの区別がつきやすいよう、えんぴつの色を変えていくと便利ですよ。279ページのステップメモを活用して下さい。

●バトルの方法

ゲーム中、ふたりはさまざまな敵に出会います。すかさずバトルとなりますが、それには3つの方法があります。①小道具(アイテム)で戦う場合②バトルポイントで戦う場合③その両方が組み合わされている場合です。

さて、**バトルポイントを使う場合**ですが、これまでのゲームブックとはルールが違うので、次の説明をよく読んで下さい。

バトルポイントで戦う場合は、文章の最後にA~Oまでのアルファベットで記号がついています。これがこの項目のバトルを表わすバトル記号です。

次に、リンク（あるいはゼルダ）と敵の名前があります。その下の（　）に**1~5**までの好きな数字をその場の思いつきでひとつ書き入れて下さい。同じ数字を入れてもかまいません。書き入れた数字は両者のポイントになります。

その後276ページの**バトル記号表**を開きます。その表から、バトル記号を探し出して下さい。そのワクの数字を基本ポイントにプラスします。両者の数値を比べて、**9以下でより9に近い方が勝ち**です。ぴったり9になった場合も、

9の勝ちです。ただし9をひとつでも越えたら、越えた方の負けとなります。

例をあげましょう。バトルナンバーAの戦闘で、リンクの基本ポイントを(4)、敵を(3)と設定したとします。

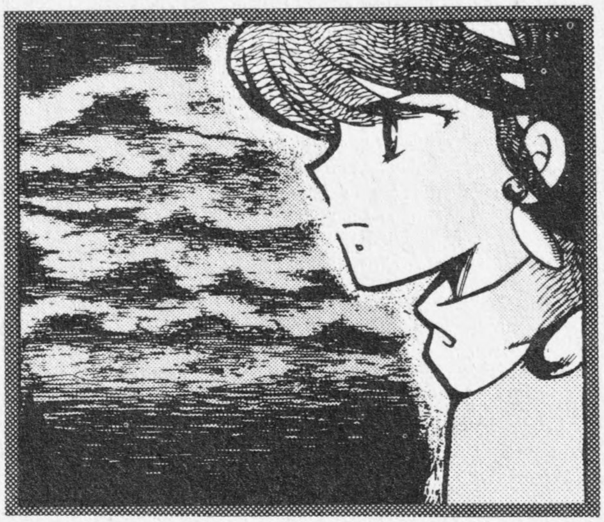
次に276ページのバトル記号表を見ます。Aのワクの数字は、リンク5、敵4ですから、4＋5＝9VS3＋4＝7で9になったリンクの勝ちとなるわけです。

両者とも9を越えた場合、あるいは引き分けだった場合は、バトル記号表の次のワクでもう一度勝負しなおして下さい。これを決着がつくまでくり返します。(Aの次はB、Bの次はC、Cの次はD……ときて、Oの次はAにもどって勝負します)

さあ、いよいよ冒険の始まりです。リンクとゼルダはそれぞれ、剣と矢、バクダン5個を装備して、旅立ちます。ふたりが力を合わせて戦う時がきたのです。敵の牙城(がじょう)目指してスタート!! 健闘を祈ります。

ゼルダの伝説

―蜃気楼城の戦い―



1

白い霧（きり）が木々の間を流れていた。

草花はすっかり枯れ、荒涼（こうりょう）とした原野。かつてここは広大な樹海で、色とりどりの光を放（はな）つ妖精たちが木々の間を飛びまわっていたと、誰が信じるだろうか？

ところどころに立つ枯木は、不気味に枝をくねらせている。霧の中でそれらは蒼白（あおじろ）い影となって揺（ゆ）らいでみえた。

トライフォースが奪われて以来、このハイラル地方は刻一刻と死滅（しめつ）してゆくようだ。急がなきゃならない。

ぼくは足を早め、石ころだらけの大地を歩いた。いつ濃霧の中から魔物が出現してもいいように、右手は腰の剣にかかっている。ガイアに破壊された宮殿を発（た）つ時、王に授（さず）けられた名剣だ。とはいえ、ホワイトソードでないのがちょっと不安だ。

名匠（めいしょう）によって鍛（きた）えられ、研（と）ぎ澄（す）まされた鋼鉄剣も、すべての魔物を倒せるわけじゃない。

セラミック鋼から作ったホワイトソードなら、たいていの魔物を倒せる。ましてやザーレの森に棲（す）むドラゴンの骨から削（けず）り出したマジカルソードなら、無敵だ。

旅の途中、それらの剣を探すのも、ガイアを倒すためには絶対に必要なことだった。

首にかけた水晶球・クリスタルムーンをのぞいてみる。会う事もできないゼルダ姫の面影が浮かぶ。彼女は女の身でありながら、夜という危険な世界の旅人となる。

『大丈夫よ』ふいに心の中でファニーの声がする。『あたしがちゃんと見守ってあげる』テレパシーで話しかけているのだ。

この小さな妖精は、居ごこちがいいのか、腰につけたポーチの中にいつも入っている。蓋(ふた)を開けると小さな顔がのぞいた。

とにかく急がねば。ぼくはなおも足を早める。霧はいつまでたっても晴れず、無限の果てまで続いているように思える。

⇩23へ

2 Ⓒ

オクタロックの弱点、小さな眼をねらい、剣を突き出そうとした。その時、足元に伸びていた触手が、あっという間にぼくをからめ取った。（LIFEエネルギー♡1個失う）

とっさに剣を持ち変え、巻きついた触手をきり離す。ドサリと地面に落ちたぼく。間髪(かんぱつ)を容(い)れず伸びてきた2本目をさけ、急いで逃げ出していった。

⇩5へ

3

しばらく歩くと、巨大なシュロの木が立っていた。その根元に洞(うろ)があり、明かりが灯(とも)っている。

●入ってみる……………⇩151へ

●入らない………………⇩159へ

4

この場を去る事にした。

台地を降り、しばらく歩く。目の前に大きなトネリコの木があったので登ってみた。

さすがに見晴らしがいい。北には広い海が見えた。東は平野が続いている。そして南は——暗雲におおわれた、殺伐(さつばつ)とした荒野だ。

ぼくは木を降り、進み始めた。

●北へ…………⇩127へ　●東へ…………⇩264へ　●南へ…………⇩269へ

5

森の中を進んでいく。

どこまで歩いても、地中から同じような形をした岩が突き出している。これは何なのだろう？

ぼくは、はたと足を止めた。目の前の繁みの中から1匹のモリブリンが現われたのだ。思わず剣に手を伸ばす。だが様子が変だ。

よく見ると、そのモリブリン。まるで戦う気がないらしい。情けなく両手を合わせ、もみ手をくり返している。

●近づいてみる…………⇩103へ　●無視する…………⇩91へ

4〜5

5●木々の間から姿を現わしたモリブリン。だが様子がおかしい。両手を合わせ、もみ手をしている……。

6 C

すごいスピードで飛んでくる、グリオークの首。ぼくはそれを剣で斬りつけた。強烈な手応え。だがどうした事だ。ホワイトソードは、その首に対して何の効果もない！
勝ち誇ったように、そいつは火の球を吐いた。とっさにかわしたものの、熱波が押し寄せてくる。（LIFEエネルギー♡2個失う）
なおも飛んでくる火の球。それはぼくのホワイトソードを、ぐにゃりと溶かした！
（アイテムチェックシートからホワイトソードを消す）

●なおも戦う ……………⇩205へ
●逃げる ……………⇩164へ

7

次の部屋へ。
城塞を守る騎士、タートナックが3人いる。剣と盾、そして甲冑で武装した強敵だ。
出口は東西にあるが、まずこいつを倒さなきゃ！

●バクダン（1個）を使うなら ………⇩117へ
●剣で戦うなら ………⇩153へ

8

もう一度銀の矢を引き、射た。

またもやそれは、一直線にガイアの額へ。
だが奴は片手をスッと出し、飛んで来る矢をつかんだ。
床の上に2本の矢が落ちる。ガイアは、ゆっくりとイスから立ち上がった！
笑顔はすっかり消え去り、険悪な表情をあらわしている。
そしてこちらへ一歩踏み出した――。

☆バトルA
基本ポイント　リンク（　）　ガイア（　）
276ページのバトル記号表を見て、Aの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……⇩143へ　●負けた……⇩24へ

9

ぼくは出口を選んだ。

●西の扉から……⇩222へ　●南の扉から……⇩161へ
●バクダンを使って北の壁から……⇩188へ
●バクダンを使って東の壁から……⇩25へ

10

ぼくは嫌な予感がして、とっさに駆け出した。木々の間を抜け、斜面を滑(すべ)り降りる。長い坂だった。ところどころに突き出した岩に何度も体をぶつけ、うめきながら下へ降りてゆく。ふいに、ぼくは空中へ投げ出された。カラカラに渇(かわ)いた地面に落下し、激しく腰を打ちつける。

⇩250へ

11

その部屋はまっ暗だった。

ライクライク——盾(たて)を食う怪物が飛びはねているのがかすかに見える。ローソクはあるか？

●YES……⇩35へ

●NO……⇩111へ

12

☆バトルG

基本ポイント　リンク（　）　モリブリン（　）

276ページのバトル記号表を見て、Gの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……⇩247へ

●負けた……⇩78へ

13

せめてバクダンを持っていれば、このドラゴンに一矢報いてやれたかもしれない。

だが今のぼくには、何の戦法も残されていなかった。グリオークはカッと口を開け、灼熱の火球を吐き出した。直撃を食らったぼくの肉体は、一瞬にして蒸発した。

END

14

それからぼくは、この洞窟のある岩石地帯を後にした。

●東へ行く……⇩274へ
●西へ行く……⇩275へ
●南へ行く……⇩41へ
●北へ行く……⇩257へ

15

ぼくは持っていたローソクを点けた。

アクオメンタス！　口からビームを放つ一角獣だ。ヤツはぼくを見るなり、低い声でひと声吠えた。

LIFEエネルギーは満杯？

●ＹＥＳ……………⇩１９９へ　●ＮＯ……………⇩１５８へ

１６

ぼくは引き返し、谷底に向かった。
崖の壁面にある細い路を、どこまでも下ってゆく。心なしか寒さも緩（ゆる）んできているようだ。雪もほとんどなくなっている。
谷底へ着くと、岩をくり抜いた洞窟を見つけた。

●入る……………⇩５１へ　●入らない……………⇩２１０へ

１７

岩穴を出るか、それとも奥へ進む？

●出る……………⇩７９へ　●奥へ進む……………⇩２４４へ

１８

ぼくは身をすくめながら、ひたすら歩き続けた。いつ雷（かみなり）がぼくに落ちるかと不安でならない。
上空の黒雲を見ると、その暗いカーテンの中を何か細長いものが動いている。身をくね

15〜18

18●雷（かみなり）の平原。上空を見ると、黒いカーテンのような暗雲の中に何かいる。それは黄金色の巨大な竜だ！

らせ、雲と雲の間をゆっくりと渡っている。
それは黄金色（こがねいろ）に光る竜だった。そう、雷を発生させているのはこの巨竜なのだ！
空にいる敵を討（う）つには矢がいる。それも飛距離と威力（いりょく）が3倍という銀の矢が！

●銀の矢を持っている……⇩204へ

●剣で戦うしかない……⇩228へ

●武器はすべて捨てている……⇩89へ

19

出口は北と南。どちらへ行けばいい？

●北へ行く……⇩70へ

●南へ行く……⇩223へ

20

しばらく旅を続けたぼくは、野原の真ん中で立ち止まった。
「ファニー、遠くに何があるか見てくれるか？」
『うん。いいよ』肩にとまっていた彼女は、返事をして羽ばたき、空高く舞い上がった。
やがて降りてきて彼女は言った。
『地平線ばかりよ、リンク。南は不気味な雲が渦巻いてるわ。どうする？』
「うん……」ぼくは考えた。

●東へ行く……………⇩257へ　●南へ行く……………⇩275へ

21

単純に扉から出ず、どこかの壁にバクダンを使ってみたらどうか？

●バクダンを持っている……⇩252へ　●持っていない…………⇩208へ

22

扉は北と西にあった。

●北の扉から出る…………⇩69へ　●西の扉から出る…………⇩189へ

23

ぼくは足をとめた。

白い霧の向こうで、何かが動いた。毒々しい赤い色が、枯木の向こうに一瞬見え、すぐに白い世界に消えた。

剣をさやから抜く。手のひらが汗ばんでいる。ゆっくりと歩いていった。

ふいにズルリと音がした。重たく湿り気のあるものが、地面をはう音。

ぼくは緊張した。濃霧の中で赤い塊（かたまり）がうごめいた。怪物ダコ・オクタロックだ！

そいつはなんと、頭だけでもゾウほどの大きさがあった。見た事もないほどの巨大さだ。足は12本。根元へ行くほど大きな吸盤がビッシリと並んでいる。そのすこし上の方に花びらのように突き出した口があり、せわしなく伸縮をくり返している。

鋭い音がして、近くの枯木がへし折れた。赤い足が3本ばかり、その木に巻きついていた。

と、突然オクタロックは口から岩石を吐き出した！

危ないッ。ぼくはとっさに身をかわした。身につけた武器を確かめてみる――。

●弓を使って戦う……………………⇩101へ

●強力な武器がないので逃げる事にする…………⇩82へ

24

ガイアはその場で両手を天に向け、かざした。

一瞬後、この大広間全体が火炎地獄となった。

灼熱の炎の中、ぼくはなすすべもなくひと握りの灰と化した。ゼルダはそれをぼんやりながめている。

END

25 Ⓒ

東の壁にバクダンを仕掛けた。
爆音と共に、岩の塊が飛び散った！（バクダン一個失なう）
そこにはポッカリと穴が開いていた。

⇩130へ

26 Ⓒ

階段を上り終え、膝を突いて深呼吸。
頂上は人が数人立てるひろさの平面だった。とはいえ、下界を見下ろすと、景色がぐるぐるまわって見える。相当な高さだった。
風にさらわれないよう、身を低くして様子をさぐる。足元の――透明な水晶の床の下に、黄金の光！　トライフォースだ。
ぼくは剣を使い、それを掘り出そうと試みる。だが刃をいっこうに受けつけない。
ぼくは剣を大きくふりかざした。
トライフォースの上に思いきりたたきつける！
無数の宝石が砕け散った。一念が通じたらしい。ぼくは水晶の床の割れ目から、トライフォースを取る。〝力〟の断片だ！（力のトライフォース入手。チェックリストに記入。ただし、一度ここを通った人は取れません。）

⇩62へ

27

次の部屋に入った。
とたんに異様な光景が目に入る。その部屋の中を、何かが輪になって飛びまわっている。目玉の化け物、パタラだ。輪の中心にひとまわり大きな目玉がいる。それがボスだ。
ぼくは剣をぬく。
こいつをやっつけないと、ゴールまで行けそうもない。

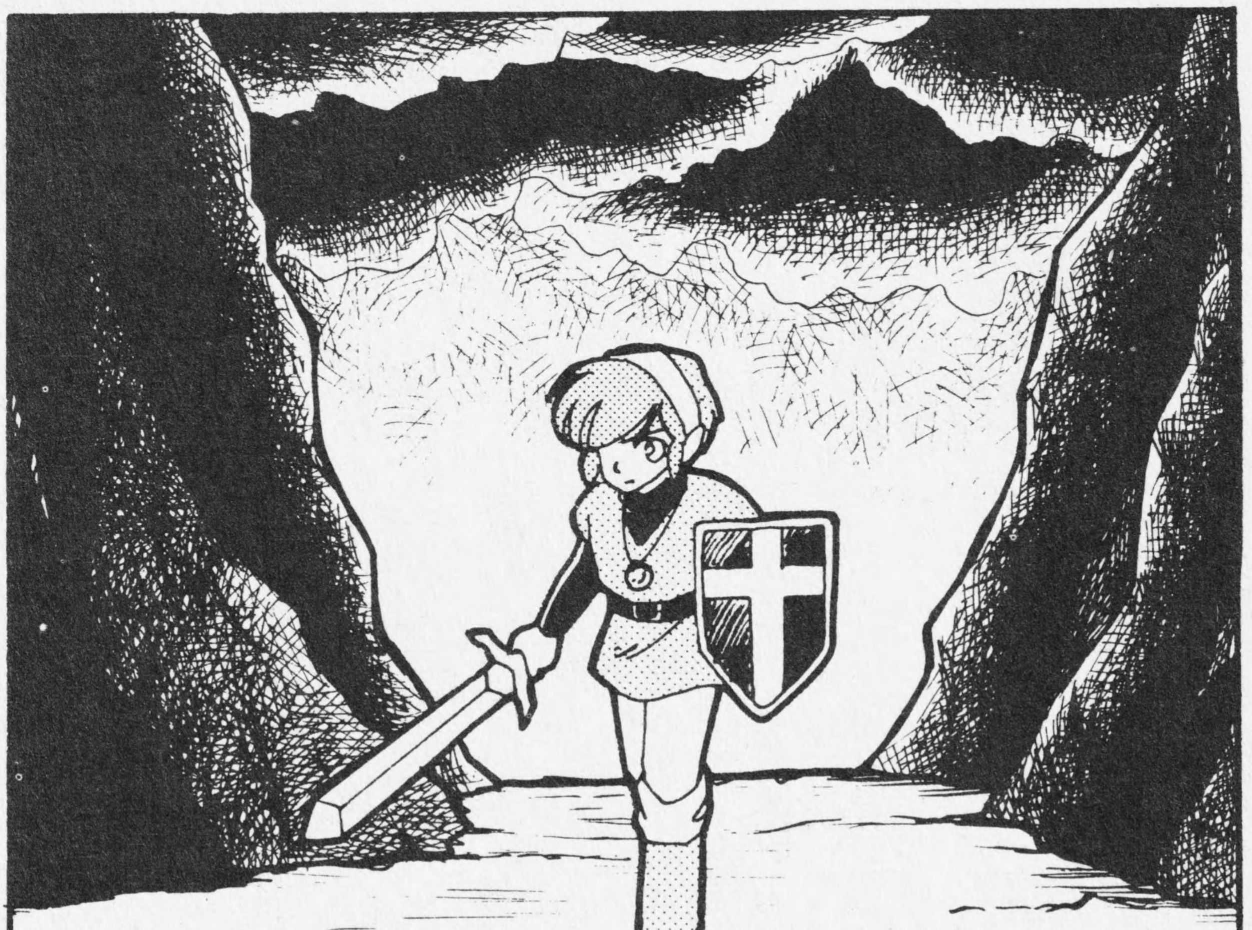
☆バトルK
基本ポイント　リンク（　）　パタラ（　）
276ページのバトル記号表を見て、Kの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……………⇩171へ　●負けた……………⇩251へ

28

ぼくは荒野を歩いた。
ファニーが飛びながらついてくる。
やがて道は登りになった。つま先上がりの坂を登りきると、黒雲の下、石化したアモスの像が10体。2列になって並んでいる。
アモスとは甲冑（かっちゅう）を着た兵士。普段は石になり、このように整然と並んで立っている。と

27～28



28●ぼくは岩だらけの台地へ来た。黒く渦巻く雲のたれこめるもと、石化したアモスの像が並んでいた！

ころが何かのきっかけで動き出すのだ。
アモスの方へ飛んでいこうとしたファニーを、ぼくはあわてて止めた。さわらぬ神に何とやら、だ。
だが待てよ。虎穴に入らずんば虎子を得ずともいうな。どうする?
●アモスの像に触れてみる……………………⇩170へ
●像を迂回して、その向こうへ行く……⇩73へ　●やはりこの場を去る……⇩4へ

29

まっすぐ歩き続けた。
すると前方で、道がふた股に分かれている。右と左、どっちへ行こうか。
●右へ行く…………⇩149へ　●左へ行く…………⇩56へ

30 C

巨大なハサミの攻撃をかわす。間合いを取り、すかさず剣で突く。テスチタートは苦しまぎれに、ハサミから光球を放ってくる。だが当たりはしない。
その食肉植物にトドメを刺した時、ぼくは岩でできた床の上に、ルピーを5つ見つけた。
(5ルピー得る)　⇩17へ

31 Ⓒ

ぼくは老婆に矢をやった。
するると彼女は、革の袋をぼくによこした。中を見ると、銀の矢数十本とバクダン10個が入っている。（銀の矢とバクダン入手。アイテムチェックシートに記入）
「それをあんたにやるがや。それからもうひとつ、とっておきの情報だ。この悪魔の塔の頂上に、トライフォースゆーもんが隠されとーがや。行ってみれ」
ぼくは老婆に頭を下げ、歩き出した。

⇩79へ

32 Ⓒ

バクダン3個に火をつけ、次々と投げつけた。すさまじい爆発音と共に、部屋中火の海となった。崩(くず)れた天井から石のかたまりが降りそそぎ、床には巨大な穴が開く。
ゴーマは跡かたもなかった。（バクダン3個失う）
ところでぼく。この勇敢(ゆうかん)なリンク様がどうなったかというと……。実は隣の部屋にちゃんと逃げていたのさ。（LIFEエネルギー♡1個得る）
ぼくは——

- ●北の扉から逃げていた……⇩122へ
- ●南の扉から逃げていた……⇩94へ
- ●東の扉から逃げていた……⇩137へ

33

やがて霧が晴れてきた。
ぼくは池のほとりに立っていた。
ファニーがポーチの中から頭を出した。
『ここは昔、あたしたちの仲間がたくさん住んでいたの。でも今はもう死んだ池にすぎないわ』
水はどんよりと濁り、時々底からガスの泡がポコポコと湧き出している。
ぼくとファニーが、肩を落としてその場を去ったのは、いうまでもない。

●東へ進む……⇩41へ　●西へ進む……⇩127へ
●北へ進む……⇩275へ　●南へ進む……⇩264へ

34 C

ぼくはバクダンに火を点け、蛇どもの真ん中に転がした。（バクダン2個失う）
大音響と共に、ロープは吹っ飛んだ。そしてその余波は、洞窟の天井を崩壊させていた。
逃げるヒマもなかった。ぼくの頭上に、崩れた巨大な岩が降りそそぐ。
LIFEエネルギー♡は5個以上ある？

●YES……⇩195へ　●NO……⇩155へ

35

ぼくはローソクを点け、闇にかざした。
何と！　部屋にいるのは、ライクライクだけじゃなかった。壁の近くに、恐ろしい化け物・ウィズローブがいたのだ！
⇩138へ

36

その答えは「影」だ。
きみは正解だったか？

●正解……⇩192へ
●違っていた……⇩115へ

37

ぼくは剣をぬき、オクタロックに立ち向かった。迫り来る触手を斬り払い、弱点の眼を狙う！

☆バトル０
基本ポイント　リンク（　）　オクタロック（　）
２７６ページのバトル記号表を見て、０の数字の基本ポイントにプラス。

●勝った……⇩５８へ
●負けた……⇩２へ

38 C

剣をにぎる手に力をこめ、ぼくはアモスの群(む)れに飛びかかった。
勝負は一瞬のうちに終わった。10体のアモスの死体の中、ぼくはひとり肩で息をしながら立っている。(LIFEエネルギー♡1個得る。2ルピー得る)
その時、目の前に地下への入口があるのを見つけた。さっきまでアモスの像があった場所に、その四角い穴は開いていた。

●入る……………⇩92へ　●入らない……………⇩4へ

39

イチかバチか。運が悪きゃ雷(かみなり)に打たれて死ぬまでの事さ。
ぼくは金属の小道具(アイテム)を身につけたまま、薄暗い平原に踏み込んでいった。上空で轟(とどろ)く雷鳴は、いよいよ激しくなってくる。
目の前には、黒焦(くろこ)げになった立木が何本もある。突如(とつじょ)、雷がはげしく鳴った。

●LIFEエネルギー♡5個以上⇩18へ　●LIFEエネルギー♡4個以下⇩163へ

40

魔将軍(ゼネラル)ガイアを倒すには、姫の力も必要なんだ!

ぼくはゼルダを救出しようと思った。
そのためには――

●マジカルロッドを使う　………⇩64へ

●ふえを使う　………………⇩176へ

41

断崖の中腹にある細くけわしい路。
時折、下から吹きつけてくる風に、何度もバランスを崩しそうになる。足元を見ると、はるか下方の渓流が揺いでみえる。
道は葛折りに曲がりながら、崖の上まで続く。登り終え、ため息をついて眼下の地獄を見下す。それからまた歩き出した。
低い丘を越えた時、目の前に奇妙な光景が現われた。
角柱が何本も、それぞれ寄り沿うようにして立っている。その1本1本は、天をも突かんばかりに大きい。まさにそれは空を支える巨大な柱の群れだった。
近づいてみてさらに驚いた。その角柱は、全て水晶だったのだ。
その水晶の林の手前、地面にポッカリと開いた穴。
ぼくは――

●その穴に入っていく　………⇩134へ

●入らない　………………⇩132へ

42 C

けんめいに戦った。

でも多勢に無勢だ。ぼくは2体のアモスをやっつけたけど、他のアモスたちが2度もぼくを斬(き)りつけた。（LIFEエネルギー♡2個失う）

よろめきながら、ぼくはその場を逃げ出した。

●北へ行く…⇩127へ　●南へ行く…⇩269へ　●東へ行く……⇩264へ

43 C

LIFEエネルギーは満杯。

ぼくは剣を抜き、ロープたちに向けた。気合いと共に念じる。同時に剣先から放(はな)たれたビームが、蛇どもを次々と断ち切っていく。

勝負はあっという間に終わっていた。（2ルピー得る）

⇩86へ

44 C

飛びかかってきたバイアを、一刀のもとに斬(き)った。するとそいつはポンと音をたて、煙に包まれた。その中からコウモリが2匹。

バイアは2匹のキースになった！

剣をふりまわすが、キースはそれをたくみにかわし、首筋に噛みついてきた。（LIFEエネルギー♡1個失う）ぼくはあわてて逃げ出した。

⇩128へ

45 C

バクダン5個。出血大サービスだ。（バクダン5個失う）

突進してくるドドンゴの前に、ぼくは次々と転がしていく。するとどうだ。あいつめ、それをエサと間違えてかたっぱしから食っちまったじゃないか！

しばらくして、ズンと鈍い音がした。同時にドドンゴは口から火柱を吐き出した。それだけじゃなかった。怪物はそのまま後ろ向きに天井をぶち抜き、城の外へ飛んでいった。

ぼくは呆然として、天井の大穴を見つめた。（LIFEエネルギー♡2個得る）

⇩22へ

46

ぼくはまた霧の荒野を歩き始めた。次第に霧は晴れだした。

東に険しい山並みが見える。南を見ると、だだっ広い空が果てしなく続いている。そして後ろを振り返ると、枯木の間を、乳白色の濃霧が渦巻いているのが見えた。

東と南、どっちへ行こう？

●東へ歩きだす　…………………⇩226へ　●南へ歩きだす　…………………⇩254へ

47

ぼくはまた旅を続けた。

●南へ行く　…⇩261へ　●北へ行く　…⇩273へ　●西へ行く……⇩258へ

48 C

思いがけない苦戦だった。
ウィズローブは現われては消え、四方八方から呪文を放(はな)ってきた。
剣を突いたとたん、奴はまた消えた。そのとたん、背後から呪文が！　ぼくはうめいて倒れる。（LIFEエネルギー♡1個失う）
ぼくを倒したと思ったのだろう。その時、敵にスキが生じた。
ぼくは気力をふりしぼり、目の前の扉に突進した。

●東の扉へ　……………⇩27へ　●西の扉へ　……………⇩65へ

49

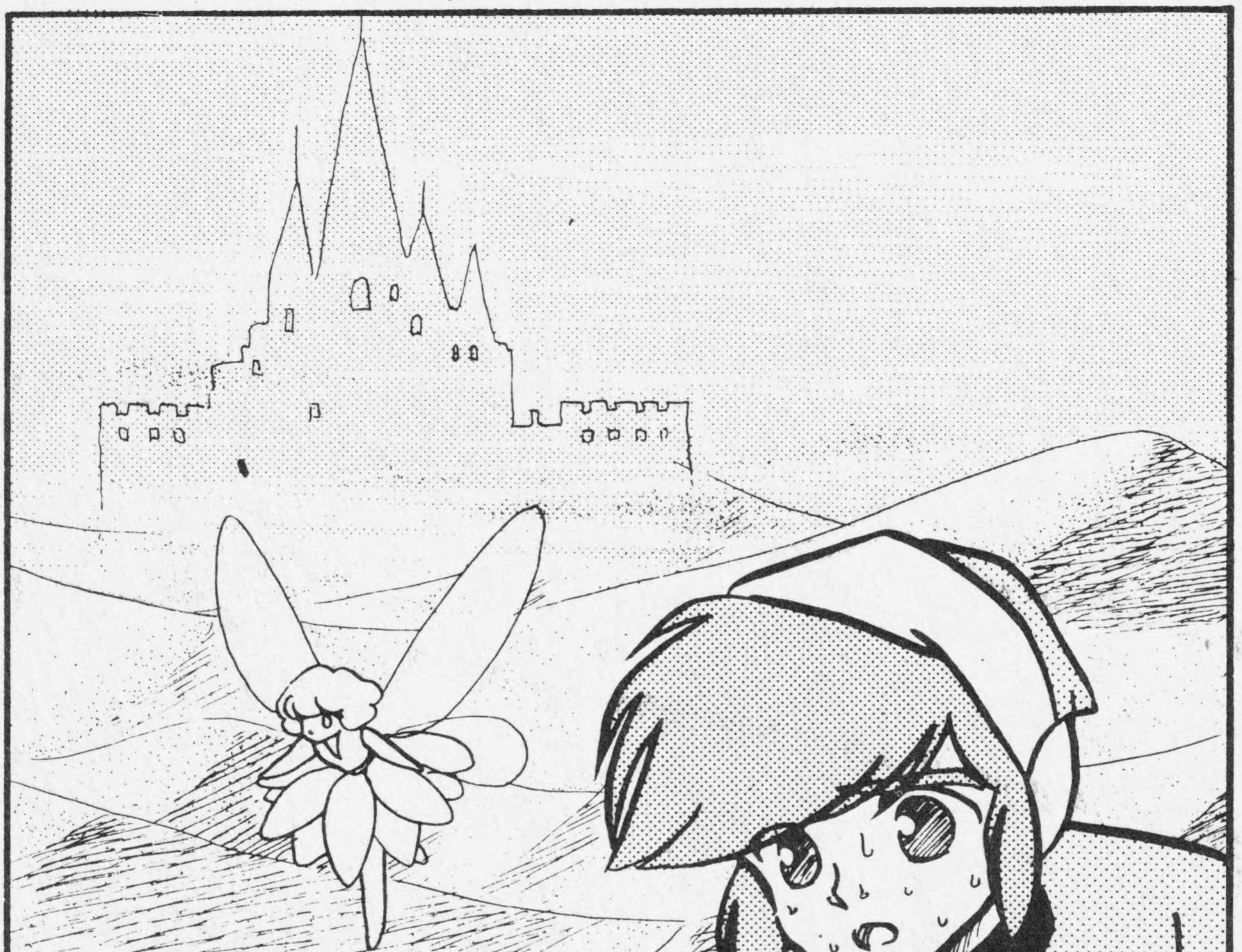
ぼくはスラリと剣を抜いた。
モリブリンめざして走り出したとたん、風を切って飛んできたものがある。矢だ！

それはぼくの耳元をかすめて後ろへ抜けていった。しまった。ヤツらの武器は飛び道具だ。
ぼくは剣を地に突き立て、敵と同じ武器をかまえた。弓に矢をつがえ、力一杯引き絞る。

●マジックシールドがあれば　⇩249へ
●なければ……………………⇩84へ

50

果てしなく広がる熱砂(ねっさ)。
ぼくは砂漠のド真ん中にいる。水の妖精ファニーはしきりにのどの渇(かわ)きを訴えている。が、オアシスなんてどこにもない。
ぼくはよろめくように歩いた。頭上の太陽と、地表からの熱で、体中の水分が蒸発していくようだ。
ふいに幻影が見えてきた。目の前で七色の光がユラユラ揺れている。その中にぼんやりとかすむ大きな……城塞(じょうさい)。
「あっ!!」
ぼくは叫んだ。あれは――まさに蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)だ!!
(いよいよ敵の城に乗り込みます。ただし、ここで今までの旅の日数と、トライフォースが全部そろっているかを確認して下さい。)



50●熱砂の中、ユラユラとゆれる七色の光。その中に現われた蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)！ そう。ついにたどりついたのだ。

●〝知恵〟と〝力〟のトライフォースがそれぞれ2枚ずつ合計4枚そろっていて、10日以内でたどりついているなら……⇩212へ

●トライフォースが1枚でも欠け、また11日以上かかっていたら……⇩102へ

51 C

蒲暗いその洞窟に入っていった。

突き当たりに部屋があり、松明がふたつ燃えている。そこに赤い僧服の老人がいた。

「若者よ」低い声が響いた。「何をさがしておられるか」

「蜃気楼城を探しています。もしご存じなら教えていただけませんか?」

すると老人はニヤリと笑った。墓石のような前歯が露出した。

「あの城はバリアに包まれておる。ところがそのバリアを食っちまう生物が、このハイラルにはおるでな。それは空飛ぶ食肉植物――」

「ピーハット」とぼくはいった。

「あーたりー」どこから出したのか、老人はドラを打ち鳴らした。

「その通り。だから城は、ピーハットのおる所には出現せんのよ」

「もうひとつ。この谷の南に滝がある。そこをくぐって行くがよい。いいものがあるぞ。それから、これは魔法のハシゴじゃ。必ずあとで役に立つじゃろう」

「ありがとう」ぼくは礼をいった。（ハシゴ入手。チェックシートに記入）
「よいって事じゃ。旅ゆけば、いづこにあるのか蜃気楼」そういって老人は、ドラを鳴らした。
ぼくは歩き出し、そして突然振り返った。
「蜃気楼、ああ蜃気楼、蜃気楼――お粗末さまでした」
老人は、頭をドラにぶつけた。

⇩210へ

52 Ⓒ

剣をふり、ピーハットどもに斬りつける。斬っても斬っても、どんどん新手が来る！
下方からせまってきたヤツに、思いきり剣を突き刺す。そいつは苦しまぎれに、死にもの狂いの上昇を始めた。
わっ！ ぼくは剣をつかんだまま、ピーハットにぶらさがる。そのままどんどん上がってゆく。
うまい。このまま頂上へたどりつけそうだ。
ぼくはうまくタイミングを見計らい、岩場に跳んだ！ 崖っぷちにはっしとしがみつく。
そのまま体を引きずり上げ、頂上へ。
そこに光る黄金の3角形。力のトライフォースのひとつだ！ （力のトライフォース入

51〜52

52●崖(がけ)を登る途中、ピーハットが襲来。剣を突き立てると、そいつはぼくをぶらさげたまま、上昇し始めた。

手。チェックシートに記入。ただし、一度ここを通った人はとれません。）

さて、下りが大変だった。

トライフォースを荷袋に入れ、岩場を少しづつ降り始める。

ピーハットがまた襲ってくる。剣をふりまわして追い払い、少しづつ降りてゆく。何とか地上へ戻ることができた。

⇩152へ

53 Ⓒ

手頃な武器が見つからず、弓矢を使って2匹のゾーラを倒した。急いでイカダをこぎ始める。

だが敵も必死だった。イカダを引っくり返そうとする奴。這い上がろうとする奴。ぼくは弓と剣を使い、戦った。

陸地が近づくにつれ、ゾーラの攻撃は激しくなる。ふいに背後から、敵の光球が飛んできた。

ぼくはそれを左肩にくらい、倒れた。（LIFEエネルギー♡1個失う）

ダメだ、と思った瞬間、イカダは浜へ打ち上げられていた。

なおも飛んでくるゾーラの光球をさけつつ、ぼくは砂浜を走る。

⇩229へ

54

ゴーマはその巨大な眼からビームを放(はな)ちながら、次第に近づいてくる。
ぼくはとっさにバクダンを出し、火をつけた。耳をふさいで待つ。
DOKAN!!
轟音(ごうおん)と共にゴーマは吹っ飛んだ。そしてその衝撃の余波は、この洞窟のもろい岩天井を崩すのには充分すぎるほどだった。
ぼくは落下してくる巨大な岩に押しつぶされ、生き埋めになってしまった。

END

55 Ⓒ

北側の壁にバクダンを1個置いた。轟音(ごうおん)と共にがれきが飛び散る。すると、そこに大きな穴が開いた！
（バクダン1個失う）　⇩142へ

56 Ⓒ

左の道を行った。少し歩くと、突然大きな部屋に出た。岩をくり抜いた無機質な部屋。
真ん中に大きな石のテーブルがあった。
その上にあったのは——命の器(うつわ)！　ぼくが喜び勇んで、その思いがけないプレゼントを

もらったのはいうまでもない。（命の器ひとつ入手。持てるハートとバクダンの数が４つずつ増える）そしてこの部屋の先に、出口があった。

⇩１４へ

５７ Ⓒ

剣を抜き、闇の中に足を踏み入れる。

突如（とつじょ）轟く（とどろく）恐ろしい咆哮（ほうこう）！　そして同時に、輝く3つのビームが飛んできた。

ぼくはよけきれず、それをもろに食らった。（LIFEエネルギー♡1個失う）

敵は一角獣アクオメンタスに違いない。ぼくはあわてて引き返した！

⇩１６９へ

５８ Ⓒ

オクタロックは口から岩を吐き（はき）、ぼくをつぶそうとした。その2発目をよけざま、ぼくは怪物の弱点――眼を狙った（ねらった）！

やった！　目をえぐられたオクタロックは、触手を激しく振りまわし、木をへし折り、大地を叩いた（たたいた）。やがてそいつはピクリとも動かなくなった。（5ルピー得る）

⇩５へ

５９

うーむ。命の器（うつわ）なんていう大事なものが、こんなにたやすく手に入るワケがない。罠（わな）に

56〜59

59●命の器(うつわ)なんて、うまいワナに決まっているさ。遠回りして歩いていると、突然ウォールマスターが出現。

決まっている。
ぼくは用心しながら、壁に沿って歩いた。それでも視線が部屋の中央へ行ってしまう。
修業が足りないぞ、リンク！
その時だった。突然、近くの壁から、半透明で青白い、巨大な手が出現した。それはまさに、壁を抜け出てきたのだ！　手の妖怪、ウォールマスターだ!!
☆バトルG
基本ポイント　リンク（　）　ウォールマスター（　）
276ページの記号表を見て、Gの数字を基本ポイントにプラス。
●勝った……………⇩193へ　●負けた……………⇩238へ

60

ぼくは10ルピー持っていなかった。
「ではゆくぞ少年。第3問！」
かくしてぼくは、このままえんえんとナゾナゾを解き続けるのだった。
王国が滅亡してしまう前にトライフォースを奪い返すことも、敵を倒すこともできなかったのはいうまでもない……（？）

END

61

バクダンを3個使う？　それとも2個でよいか――

●3個使う……………⇩32へ　●2個で充分ですよ……………⇩162へ

62

ぼくは水晶の塔を後にし、旅を続けた。

●東へ行く……………⇩258へ　●西へ行く……………⇩229へ
●南へ行く……………⇩259へ　●北へ行く……………⇩145へ

63

弓を構え、テクタイトどもを狙(ねら)う。
2匹倒した時、ヤツらは逆襲に転じてきた。ぼくはあっという間に取り囲まれる。ピンチだ！　剣を鞘(さや)から抜き、ヤツらを迎え撃った！

☆バトルB
基本ポイント　リンク（　）　テクタイト（　）
276ページのバトル記号表を見て、Bの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……………⇩253へ　●負けた……………⇩177へ

ぼくはマジカルロッドを手にし、セルダに向けた。ロッドが光り輝き、その光が彼女に向かって走る。

64 C

だが、ゼルダは依然、うつろな瞳で立っている。何の効果もない!!

出しぬけに笑い声が起こる。ガイアだ。ヤツはぼくを見すえ、片手の人差し指を突き出す。

そのとたん、指先からほとばしった炎の帯が、ぼくにぶち当たった。とっさにマジカルシールドでふせいだおかげで、生命だけは助かった。しかしひどい火傷だ！　（LIFEエネルギー♡2個失う）

⇩176へ

65

その部屋は薄暗かった。松明が灯り、老人がすわっていた。

「よくぞ、ここまで来た」老人は物静かにいった。

「お主は真の勇者じゃ。ガイアを倒し、姫を救い出して、ハイラルを復活させてくれ」

ぼくはうなずいた。

「ところで、最後の戦いの前に持ち物チェックじゃ」

「え？」
「お主、今からいう小道具(アイテム)をちゃんと持っておるかの」そして老人は名前をあげた。「マジカルソード、マジックシールド、マジカルロッド、銀の矢、ふえ。何か欠けておるものは？」

●もし欠けている物があれば、小道具(アイテム)を取りに戻らねばなりません。……⇩167へ
●欠けているものはない……⇩185へ

66 C

ぼくは残る最後の手――バクダンに火をつけた。大きくふりかざして投げつける。それは白煙をひき、グリオークの上を飛び越していった。（バクダン1個失う）
だがねらいがはずれたわけじゃない。それどころかねらった通りの場所へ落ちたのだ。轟(とどろ)き渡る爆発音。山びこが何重(いくえ)にも重なり共鳴する。そして――グリオークのそば、巨大な氷壁は、亀裂(きれつ)が走り、崩(くず)れ始めた。
無数の氷のかたまりが落下した。それは下にいるグリオークをあっという間に生きうめにし、やがて沈黙した。
怪物のいた所に、ルピーが10個落ちていた。（10ルピー得る）
ぼくは走った。蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)は、今、目前にあった！

⇩164へ

67

ぼくはひとつの首を狙い、エイとばかりに斬り落とした。すかさず次を狙う。その時だ。石畳の上に落ちていた首が、宙に浮かんだ。振り返る間もなかった。

首はカッと口を開け、ビームを放った。

一瞬にして炎に包まれ、ぼくはその場に倒れた。

END

68 Ⓒ

バクダンを使う事にした。

ポルスボイスは音に弱い。バクダンの炸烈した音でもきくはずだ。

襲ってくるポルスボイスに投げつけたバクダンは、怪物の真下で火柱を吹き上げ、爆発した。

耳をつんざく爆発音。そして煙が晴れた。（バクダン1個失う）

気絶しているキツネ面に目もくれず、その部屋にある隠し扉を探しにかかる。

でもどこにも見当らない。仕方なく、もと来た穴から外へ。そしてもう一度出口を選んだ。

⇩9へ

69 C

次の部屋へ入った。
突然、左右からするどい刃で刺され悲鳴をあげてしまった。トラップというやっかいなしろもの。壁ぞいに飛んできて、人を刺す罠だ。（LIFEエネルギー♡1個失う）
部屋にはデグドガという化け物がいた。ウニが進化したもので、ひまわりの花に似た体の真ん中に大きな目がある。
こいつは大きな音に弱いはず。

●バクダン（2個）を使う……⇩95へ
●ふえを吹いてみる……⇩125へ
●どちらもないので目の前にある扉を開けて逃げる……⇩122へ

70

北の扉の前へ立つ。
ところがこの扉。ビクともしない。
鍵がいるわけか――。

●マジカルキーを持っていれば⇩80へ
●持っていなければ……⇩223へ

71 C

やばい。この洞窟でバクダンなんぞ使うと、生き埋めまちがいなしだ。
ぼくはクルリと背を向け、一目散に逃げ出した。
洞窟を出る寸前に左脚に激痛を感じ、うめいた。ゴーマが目から発進するビームが当たったのだ。（LIFEエネルギー♡1個失う）

●左側の洞窟へ入ってみる　…⇩224へ
●この場を去る　…………⇩20へ

72 C

ぼくは、マジカルロッドを取り出した。
その不思議な棒を宙にかざす。するとロッドは青く光り始めた。
飛びまわるキースの群れは、その光が恐ろしいのか近づく事もできない。
光が青から赤に変わった！　とたんに化け物コウモリたちは、いっせいにきりもみ状態で落下を始めた。
このロッドから発される光には、呪文の効果がある。小道具（アイテム）の中でも、最も強いとされる武器のひとつだ。（LIFEエネルギー♡1個得る。5ルピー得る）
キースどもがいなくなると、ぼくはロッドをしまい込み、再び頂上をめざし始めた。

⇩26へ

73 C

アモスの像に触れないよう、迂回(うかい)して歩き、向こう側へぬけた。
岩のアーチがぼくを待っていた。
それをくぐりぬけ、岩場にはさまれた道を進む。ふいに視界が開ける。
そこに泉があった。
この荒れた土地にあって、まるで違う世界にでも来たような美しいオアシス。水は澄み、泉のまわりには原色の花が咲き乱れている。
引き寄せられるように、ぼくは泉のほとりに歩いていった。
ふいに七色の光が舞い、ファニーは泉の方に飛んでいった。彼女は水の中に飛び込み、元気づいて戻ってきた。
ぼくの前に飛んでくると、小さなスティックを振る。
ぼくは自分のエネルギーが満たされるのを感じた。(持てる♡の数だけ、ＬＩＦＥエネルギーを満杯に)
さて、アモスの像の並ぶ場所に帰ってきたぼく。この像たちには、何やら秘密がありそうなんだが……。

●像に触れてみる……………⇩170へ
●やめてその場を去る……………………⇩4へ

74

LIFEエネルギーは満杯だ！
剣のビームで戦えるぞ！
竜はこっちに向かい、雲間をまっすぐ進んできた。
全身は金色に輝き、時おり稲妻を放(はな)っている。

⇩173へ

75

ちょっと待てよ。このまま渡っていいものだろうか。
ぼくは急に不安になった。
その時だ。甲冑(かっちゅう)を着たひとりの剣士がぼくのすぐそばを通り過ぎ、吊(つ)り橋を渡り始めた。
剣士が吊り橋を半ば渡った時、対岸から杖を突いた老人が出てきた。ふたりは橋の中ほどで向き合い、何か話合っている。
――と、突然剣士が悲鳴を上げた。
同時に天からものすごい勢いで竜巻きが降りてきた。それは剣士を包み込むや否や、あっという間に空高く持ち上げていった。
老人はいつの間にか消え、谷に静けさが戻った。

●橋を渡る ……………………⇩139へ
●渡らないで去る ……………⇩47へ

76

山のまわりをピーハットが飛びまわっている。この空飛ぶ食肉植物は、しつこく攻撃を仕掛けてきた。剣を振りまわし牽制(けんせい)する。
悪魔の塔。この岩山の頂上は平らなようだ。登ってみたいが、道はない。どうしよう。

●何としても登る ……………⇩99へ
●あきらめてほかへ行く ……⇩152へ

77

手紙を持っていた。
それを渡すと、老婆は矢をくれといった。交換にいいものをくれるというのだ。

●矢を差し出す ………………⇩31へ
●やめておく …………………⇩79へ

78

ぼくは、モリブリンに向け、ひたすら矢を射(い)た。
だが、敵の数はあまりにも多すぎる。正面の濃い霧の中から、整然と並んだ5体のモリ

ブリンが現われ、一勢に矢を放ってきた。
そのうち3本の矢が、ぼくを貫いた。1本は胸、1本は腹、そしてもう1本は眉間(みけん)。ぼくはその場に崩(くず)れながら、残されたゼルダ姫の事を思っていた。

END

79

ぼくはその岩穴を出ていった。

⇩76へ

80

その部屋に入ったとたん、ぼくはギョッとなった。今までとはうって変わって、真っ暗な部屋だ。闇の中に光るふたつの眼。
あれは一体、何だ!?

●ローソクを持っていれば……⇩15へ
●持っていなければ……⇩214へ

81 [C]

ブーメランをよけ、剣で斬(き)りつけようとした。ところがそれは大変なミスだった。獲物(えもの)に当たらず反転してきたそれは、ぼくを背後からとらえた。強烈なショックに目を

78〜81

81●飛んできたゴーリアのブーメラン。それは空中で反転し、ぼくを背後から襲ってきた。イテーッ!!

まわし、ひざをついてしまう。（LIFEエネルギー♡1個失う）

とっさにぼくは——

●西の扉から逃げた……⇩7へ　●南の扉から逃げた……⇩142へ

82

『逃げた方がいいよ、リンク！』ファニーがいった。腰のポーチから顔をのぞかせている。

『そいつは普通のオクタロックじゃない。魔将軍（ゼネラル）ガイアの魔力で、パワーアップした怪物なのよ』

ぼくはくるりと背を向けると、全力でその場を逃げ出した。情けないけれど、命あっての何とやらだものね。

⇩183へ

83

大鴉（おおがらす）と化したガイア。それに対抗できるのは銀の矢とマジカルロッド、そしてゼルダの持つバイブルの3つを組み合わせた時だけだ。

君はとんだ失敗をした。大鴉（おおがらす）は巨大な爪（つめ）を使い、リンクたちをズタズタにするだろう。

のがれるすべは——最早（ネヴァ・モア）ない。（E・A・ポオ『大鴉』より引用）

UNHAPPY END

☆バトルC

84

基本ポイント　リンク（　）　モリブリン（　）
276ページのバトル記号表を見て、Cの数字を基本ポイントにプラス。
●勝った……⇩230へ　●負けた……⇩180へ

85

「おい、この揺れは何だ!?」
そうきくと、モリブリンはさりげなく答えた。「なんでもないない。ただの地震や。このあたりはよく地震があるんや。気にせんとおくんなはれや」
モリブリンが森の中に消えてから、はてどうしようと思った。
ひと休みするか。ぼくは大木の根元にもたれてすわった。やがて眠気がやってきた。（ここで眠っちゃまずい……）そう思いながらも、睡魔はぼくをとらえて離さなかった。
やがて目が覚めた。
潮の香り？
ハッと気づき、立ち上がる。あわてて丘の斜面をすべり降りる。
何と、そこは海！　おかしい。近くに海なんてなかったのに……。そしてふり返った時、

ぼくはさらに驚くべき光景を見た。
巨大なカメ。――そう、ぼくが今までいた丘は、何と巨大なカメの甲らだったのだ！
愕然（がくぜん）とするぼくの前で、その怪物はノッシノッシと歩き、海の中へ入っていった。

⇩127へ

86

細い路がまっすぐ続いている。
ぼくは剣を握ったまま、ゆっくりと進む。あちこちで水のしたたる音がし、風が岩穴に吹き込んで、不気味な遠吠えのような声も聞こえた。
ふいに前方に、２つの横穴を見つけた。それは右と左の岩壁に、向かい合って開いている。

●穴を無視してまっすぐ進む……………………⇩202へ
●右の穴へ入る……………⇩175へ　●左の穴へ入る……………⇩160へ

87 C

ぼくは剣をかまえた。
ゆっくりと前進すると、化け物は横に移動を始めた。触手をうごめかし、ハサミを開閉

させ、エラをヒクヒクと動かしている。
うーん。どこまでも不気味な奴。ぼくは覚悟を決め、逆手(さかて)に剣を持った。
「テェーイ!!」気合いもろとも奴に飛びかかった!
剣はその怪物の体に深々と刺さった。すぐに引きぬき、素早く後退する。
するとどうした事だ。そいつはギャッと声を発したかと思うと、床の上にぐにゃりと倒れてしまった。
恐る恐る近寄り、剣の先でツンツン突いてみる。死んでいた。
何なんだ? こいつ。まるっきり見かけ倒し——ハリボテの怪物じゃないか!(LIFEエネルギー♡1個得る)
ぼくはその地下室を出、地上に戻った。

⇩132へ

88

砂漠……。
しかも足元の砂はまっ黒だ。その黒は太陽の光を充分すぎるほど吸収している。覆(は)き物を通し、熱は足の裏にまで伝わってきた。チクショウ、何て場所なんだ!
ポーチのふたを開け、ファニーが顔を出した。可哀想だが、水は一滴もない。ぼくですらまいりかけているんだから、この水の妖精ははなおさらだ。しかも体が小さいぶんだけ、

消耗（しょうもう）も早い。行けども行けども黒い砂ばかりだった。
やがてぼくはその場に突っ伏した。とたんに熱い黒砂が頬（ほほ）を焼き、飛び上がってしまう。
突如（とつじょ）、目の前の砂地がスリ鉢状に陥没（かんぼつ）した。そして砂塵（さじん）が舞い上がる中、リーバーが出現した。
赤くヌメヌメとした体皮が、たち上る陽炎（かげろう）の中で不気味に揺（ゆ）らいでいる。

●ホワイトソードを持っていれば……………⇩120へ
●持っていないので弓を使う………………⇩112へ

89

ぼくは雷（かみなり）に打たれないように、武器をすべて捨てていた。
こうなれば、早くこの平原を突っ切り、出ていくしかない。
ぼくは全力で走り出す。
その時、上空でものすごいうなり声が聞こえ、同時に稲光が走った。振り向くと、雲の中にいた竜がこっちへやってくるのが見えた。
巨竜のスピードは、のたのた走るぼくよりもはるかに速い。あっという間に追いつかれたぼくは、竜の全身から発される雷に打たれ、炎に包まれた！

END

90

手紙を持っていないので、それ以上の収穫はなかった。

⇩79へ

91

モリブリンを無視し、ぼくは丘の斜面をすべり降りて、再びあの干上がった土地へ戻った。その時だ。突然ものすごい地響きがし、地面が揺れた！

⇩250へ

92 Ⓒ

その入口から石段が続き、地の底に向かっている。ぼくは用心しながら降りていく。石段がとぎれると、そこは広い地下室になっていた。松明がふたつ灯り、その後に緑色の服を着た商人がすわっていた。
「何かこうてくれや。どれでも、大安売りにしまっせ」
商人の前に敷かれた筵の上に、品物がズラリと並んでいた。
○ホワイトソード――7ルピー　○ふえ――20ルピー
○銀の矢――7ルピー　○マジックシールド――7ルピー
○マジカルブーメラン――7ルピー　○ロウソク――3ルピー　○ハシゴ――3ルピー
○バクダン5個――3ルピー　○マジカルロッド――20ルピー

（品物を買った人はアイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す）

「最近景気悪うてな。今日で店じまいや。わて他の世界へ行きますさかい、あんさんも達者でやっとくんなはれ。ほな、さいなら」

そういうや否や、商人は白煙と共に消滅した。ぼくはまた地上へ戻った。

⇩4へ

93

イカダを北に向けた。

どこまで行っても海また海。こりゃぐずぐずしていると日が暮れちゃうぞ……。

⇩276へ

94

そこを通り抜け、次の部屋へ。

突如、すさまじいうなり声が起こった。

グリオークだ！

この部屋には、巨竜・グリオークがいたのだ。何とそいつには4つも首がある。

●マジカルソードを持っていれば……⇩157へ

●持っていなければ……⇩148へ

92〜94

94●次の部屋へ入ると、すさまじいうなり声がした。怪獣グリオーク、しかもその首は４つもある。強敵だ。

95 [C]

バクダンを2個。火をつけて投げる。
おそいかかろうとするデグドガの前に転がっていく。
突如、耳をつんざく轟音。四方の石壁を揺るがして、爆発の衝撃が伝わった。（バクダン2個失う）
煙が晴れる。デグドガの姿はどこにもない。
足元に小さな黄色いものが落ちていた。何と変わり果てたデグドガの姿だった。爆発のショックで小さくなってしまったのだ。すかさず剣で真っぷたつに。（LIFEエネルギー♡1個得る）

●西の扉へ……⇩122へ　●南の扉へ……⇩137へ
●バクダン1個を北の壁へ……⇩105へ

96 [C]

部屋の真ん中に歩いていく。
テーブルの上の、命の器を取った！
そう。素直な人間こそ、こうして得をするべきなんだ。（命の器入手。持てる♡の数と、持てるバクダンの数がそれぞれ4個ずつ増える）⇩240へ

そこにもっと下らないヤツがいるような気がした。ぼくは洞窟に入らず、再び山道を下り続けた。

⇩47へ

97

ぼくの剣は、疾風(しっぷう)となって空を切った。

バイアはその切っ先で心臓をつらぬかれた。とたんに小悪魔は炎に包まれた。翼を動かしあがいたが、じきに動かなくなる。

部屋には黒煙と悪臭がたちこめている。（LIFEエネルギー♡1個得る）

⇩128へ

98 C

岩の出っぱりにつかまり、よじ登れそうだ。

ぼくはゆっくりとはい上った。

何とか中腹まで着き、安定した足場を見つける。ひと休みだ。

その時、数匹のピーハットが空中から襲ってきた！

LIFEエネルギーは♡5個以上？

99

●YES ……………… ⇩52へ

●NO ……………… ⇩218へ

100 C

ふたつのブーメランを剣で払い落として、ぼくはゴーリアにかかっていく。武器をなくしたこの怪物は、いともあっさりと退治できた。そしてその死体のそばに、マジカルキーが落ちているのを見つけた。（マジカルキー入手）

⇩242へ

101

オクタロックはノドをふくらませた。また岩をふき飛ばすつもりだ。
ぼくは弓に矢をつがえ、思いっきり引き絞った。今だ！　右手の矢を放つ。それは狙いあやまたず、巨大な頭部を貫いた。さらにもう1本射ち込んだ。
その時だった。今まで枯木をつかんでいた触手が、音をたてながらこっちへ迫ってきた。
何て事だ。こいつは普通のオクタロックじゃないぞ。
矢が通用しないとみるや、ぼくはあわてて逃げ出した。吸盤だらけの触手が追ってきた。
大人の胴ほどもある太いやつだ。
ぼくは立ち止まり、剣を振りかざした。渾身の力をこめ、横殴りにそいつを斬った！
草むらに落ちた触手の切れはしが、くねって踊っている。
切断された触手はズルズルと戻り、代わりに違うやつが2本伸びてきた。逃げきれない

と悟ったぼくは、もう一度弓を引いてかまえた。

●オクタロックの口の中へ矢を射ち込む……⇩233へ

●オクタロックの目を狙(ねら)う……⇩131へ

102 C

必死に走る。

だが、城はすでに消えかかり、まさに時空の歪(ゆが)みに没していくところだった。

ぼくは空間にできた穴に、吸い込まれてゆく。七色の光が舞い、花火のように四散する。

やがて気が遠くなってきた。

うすれていく意識の中で、誰かが話しかけてきた。

——リンクよ。お前は目的地に到着したにもかかわらず、蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)をみすみす取り逃がした。このままあきらめるかね。

嫌だ。絶対に！　ぼくは叫ぶ。

——よろしい。ではもう一度チャンスをやろう。ただし、今までの旅はすべて無効になる。得た力、得た武器、すべて最初の状態に戻し、旅を始めるがよい。記憶は若干残るだろうが、それが正しい道(ルート)じゃない事は今回の失敗でわかっておるはず。

では、時間を元に戻すぞ!!

「待ってください」ぼくはいった。「あなたは、どなたですか!?」
——私はこの物語の作者・作者・作者・作者……（エコーがかかってます）
再び静寂がおとずれた。（リンクとゼルダがそれぞれに得たアイテム、情報、♡、ルピー、バクダンはすべてスタート時の設定にもどります）　⇩1へ

103 Ⓒ

「わて、あんさんとは戦いとうないねん」
モリブリンは情けなくいった。
「あんさんはここらで有名な剣士やし、わてはただの日雇い兵士や。勝負にもなりまへんがな。見逃がしてくれまへんか？　お金ならいくらでもあげまっせ」
何とも情けない奴。敵を前にして命乞いをするとは。ともあれ無益な戦いをしても意味がないし、見逃がしてやるか。
そのモリブリンはぼくに10ルピーくれ、ペコペコおじぎをした。（10ルピー得る）
その時だ。突然地面がグラリと揺れた。
地震か？

●何事だ、とモリブリンにきく　⇩85へ
●急いでこの場を去る　……………⇩10へ

104

銀の矢をさやから抜く。ガイアの表情が変わった。ぼくは弓に矢をつがえて引き、ヤツめがけて射た。矢は銀色の直線となり、ガイアの額に向かう。命中した——かのようだった。だが銀の矢はヤツの額に矢尻を当てたまま、空中で静止している。その額から、一筋の血が流れた。効果はあったのだ。ヤツの表情が険しくなっていた。

●さらに銀の矢を射る……………⇩8へ
●姫を救出する ……………………⇩40へ

105 Ⓒ

バクダンを1個、北側の壁に仕掛けた。轟音と共に火柱が上がる。煙が晴れると、そこに穴が開いていた。(バクダン1個失う)
ぼくは穴を通り抜ける。⇩27へ

106

ハシゴはない。仕方がないので戻る事にするか。(ただし、19から来た場合は、戻れません)

●元の部屋へ戻る ……………⇩161へ
●(19から来た場合のみ) …⇩128へ

107

正解は、「くだらない病気」。
汚ない問題ですいません。ハハハ……。
●正解の人は……⇩221へ　●違っていたら……⇩115へ

108

そしてぼくは、この血生臭い部屋を後にした。
●北の扉へ……⇩189へ　●西の扉へ……⇩128へ

109 C

じりじりと後ずさりし、出口まで戻る。
そしてサッと逃げ出した。
こんな恐ろしい奴と戦うのはごめんだ。君子危うきに近寄らず、だ。（LIFEエネルギー♡ー1個失う）
⇩132へ

110

平原を通り抜け、山脈をいくつも越えた。

やがて目の前に、岩の塔が見えてきた。悪魔の塔と呼ばれる山。天にもとどかんばかりにまっすぐ伸びた岩。

そこをめざし、歩いてゆく。山のまわりを小さな黒点が飛びまわっている。ピーハットのようだ。距離があるので確認できないが、かなりの数がいるようだ。

麓(ふもと)には岩穴がある。

まず、そこに入ってみる事にした。暗く細い路を歩いてゆく。出し抜けに起こった唸(うな)り声にびっくりした。テスチタート――4本のはさみを持つ食肉植物がそこにいた！

☆バトルN

基本ポイント　リンク（　）　テスチタート（　）

276ページのバトル記号表を見て、Nの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……………⇩30へ　●負けた……………⇩241へ

111 C

ローソクがないため、壁に沿って歩いた。

西側に出口の明かりがある。そちらへ向かって急いだ。その時だった！

突如(とつじょ)、闇の中から呪文が聞こえ、ぼくは息ができなくなった！（LIFEエネルギー♡2個失う）ウィズローブの呪文だ!!

⇩138へ

１１２

ぼくは弓をかまえ、それを引いた。
額から（ひたい）こめかみに汗が伝い（つた）落ちる
☆バトルＭ
２７６ページのバトル記号表を見て、Ｍの数字を基本ポイントにプラス。
基本ポイント　リンク（　）　リーバー（　）
●勝った……⇩１６６へ　●負けた……⇩２２０へ

１１３ Ⓒ

呪文師はパッと現われてはパッと消え、あちこちから呪文を放って（はな）くる。だがよく見れば、その動きは単調だ。
四角い部屋の角から角。対角線上をワープする事が多い。
消えた直後、ぼくは次の出現地点を予想し、待ち構えた。ウィズローブはちゃんとそこへ現われた。思わず笑いたくなった。
剣を振り降ろすと、ヤツは真っぷたつになった。
ウィズローブは死んだ。そして思いがけないプレゼントを残していた。命の水。そう、飲めばたちまちＬＩＦＥエネルギーが満杯になる、あの薬だ。

（命の水入手、チェックシートに記入。この命の水は、これからの戦いで一度だけ使えます。エネルギーが尽きかけたら、使って下さい）

扉がふたつある。さてどっちへ行こうか？

●東の扉へ……………⇩27へ　●西の扉へ……………⇩65へ

114 Ⓒ

左側の洞窟に入っていく。

闇の中を手さぐりで歩くと、突き当たりの広い場所にふたつの明かりが見えた。松明（たいまつ）だった。その間に、緑色の服が見えた。

「何か買（こ）うてくれや」それは商人だった。

彼の前にはじゅうたんが敷かれている。その上に6つの品物が並んでいる。

○ホワイトソード——10ルピー　○ローソク——5ルピー

○マジカルロッド——10ルピー

○バクダン5個——7ルピー　○マジックシールド——10ルピー　○銀の矢——10ルピー

（品物を買った人はアイテムチェックシートに記入）

ぼくはその洞窟を出た。　⇩46へ

115

すると老人は、杖をサッと上げた。

空の一角にポツンと黒い点が現われた。と、見る間にそれは黒い竜巻となり、ぼくに向かって降りてくる。

せまくて不安定な吊(つ)り橋だ。これじゃ逃げようがなかった。竜巻がぼくを包み込んだ瞬間、あっという間に天高く舞い上がる。

ぼくはすぐに意識を失っていった。

ドサリ！　乱暴に投げ出されたショックで、ぼくは目を覚ました。黒い竜巻は天へ消えてゆくところだった。

気温が低い。あたりを見まわすと荒れ果てた岩石ばかり。どこかの山岳地帯。またずいぶん遠くまで運ばれたようだ。（たかがナゾナゾごときで……）

ぼくは仕方なく歩き始めた。

⇩186へ

116

マジカルソードを持ち、燃え上がる大鴉(おおがらす)の胸を刺し貫(つらぬ)く。ヤツはひっくり返り、炎の翼を激しく振った。

やがてそれも終わった。大鴉はパッタリと動かなくなった。

「焼き鳥一丁上がり」と、ぼくは笑った。ゼルダに向き直った。その時だ！
『リンク！　危ないッ』
ファニーの声に振り返ったぼくは、アッと叫んで床に身を伏せるハメになった。いつの間にか起き上がった大鴉が、炎に包まれたまま飛びかかってきたのだ！
LIFEエネルギーは♡3個以上ある？
●YES……………⇩400へ　●NO……………⇩236へ

117 C

タートナックどもを一か所に集める。すかさずそこに、バクダンを放(はな)った。（バクダン―個失う）
大音響と共に火球が生じ、ぼくは爆風をもろに食らっていた。（LIFEエネルギー♡―個失う）
ところが、タートナックは生きていた。目をまわして動けなくなっていたが……。
そこへ剣でトドメを刺す。奴らはやっと倒れた。ぼくは敵の剣のひとつを拾う。それは何と、無敵(むてき)のマジカルソードだった！　斬り合っていたら、勝ち目はない。（マジカルソード入手。アイテムチェックシートに記入。ただし、一度通った人は取れません）
⇩227へ

118

剣を握ったまま、階段を登ってゆく。

地上から遠ざかるにつれ、この水晶の林はさらに異様な景色を見せてくる。1本1本が陽光を受けて輝き、さながら鏡でできた夢の城塞(じょうさい)のようだ。

階段を半ばまで登った。すると出し抜けに無数の羽音が聞こえた。コウモリの化け物・キースの群れが襲ってきたのだ。

1匹ではさして恐くないこの怪物も、集団で来るとなれば別だ。無数の鋭い牙の攻撃は人間をいとも簡単にズタズタの肉塊に変えてしまう。

●マジカルロッドを持っていれば……………⇩72へ
●なければ……………⇩135へ

119 Ⓒ

ぼくはそのガイコツと戦った。剣と剣がぶつかり合い、火花を散らす。だが、力も技もこっちの方が上だ!

ぼくは2匹の剣を、同時にはじき飛ばし、返す刀(かたな)で奴らを真っぷたつに断ち斬った! 石畳(いしだたみ)の上に、スタルフォスはくずれていった。そして1本のマジカルロッドが、音をたてて転がる、(マジカルロッド入手、アイテムチェックシートに記入。LIFEエネルギー♡I個得る)

⇩9へ

120 C

ホワイトソードをぬいた。
リーバーは触手を伸ばしてきた。それをたたき斬り、本体に飛びかかる。
不快な音と共に、剣は怪物の体に深々と突き刺さった。抜くとそこから粘液が噴き出し、砂地に染みを作ってゆく。リーバーはぐにゃりと横倒しになり、死んだ。その死骸の側にルピーが5つ光っている。（5ルピー得る）
そしてぼくは、また絶望の砂漠を歩き出した。

⇩203へ

121 C

「よく来たね、リンク」
だだっ広い部屋に、低い声が響いた。
ぼくは緊張した。マジカルソードの柄に手をかける。そこは宮殿の大広間だった。
魔将軍ガイアは石作りの椅子にすわっていた。
黒い上着に黒いズボン。黒い髪に口髭。肌も浅黒い。何から何まで黒一色の紳士然とした男。
そう。ガイアはまったく人間と同じ姿をしているのだ。
そしてその横には、ゼルダがいた。それもちゃんとした人間の姿で！

121●「よく来たね、リンク」大広間で魔将軍（ゼネラル）ガイアは待っていた。しかもその横には、愛しのゼルダが。

121

「この娘を水晶球に入れておくのはもったいない。いずれわたしの妃になる身」
「ウソだ！」ぼくは思わず叫んでいた。
だがゼルダは表情ひとつ変えず、ガイアの横に立っている。
白い衣裳が美しかった。
『催眠術をかけたのよ』ぼくのそばでファニーがいった。
そうか。何て事をするんだ！
ぼくはマジカルソードを抜いた。すかさず、ヤツめがけて突く。
剣先がヤツに触れる寸前、ガイアの両眼が光った。そのとたん、ぼくは見えない力で吹っ飛ばされていた。
今度はマジックシールドで身を守り、再び剣を持って突っ走った。
「ムダだ！」ガイアがいった瞬間、ぼくはまたもや宙に持ち上げられ、背後の円柱に叩きつけられる。
気が遠くなりかけた。（LIFEエネルギー♡1個失う）
『リンク！　しっかり』ファニーの声。
ぼくは頭をふって闇を払い、立ち上がる。

●マジカルロッドを使ってみる　…⇩248へ
●銀の矢を使ってみる　…⇩104へ

122

その扉を抜け、ぼくは次の部屋へ入っていた。
ガランとした空部屋。ぼくを待ち受ける怪物の姿もない。
仕方ない。先へ進むか。

●東の扉へ……⇩69へ　●北の扉へ……⇩197へ　●南の扉へ……⇩189へ

123

ぼくはイカダを東へ――つまり陸地に向けた。とたんに今まで黙って泳いでいたゾーラが、口から光の玉を吐いて攻撃してきた。
おおっと、危ない！　それをよけざま、対抗する武器を探した。
バクダンを3つ以上持っている?

●YES……⇩207へ　●NO……⇩53へ

124

ぼくは手にしていたホワイトソードをかまえた！　驚いた事に、この魔法の剣は、闇の中でそれ自体光を発している。
敵の姿はその青白い輝きによって浮かび上がった。ゴーマ、巨大なひとつ目のカニだ！

☆バトルI

基本ポイント　リンク（　）　ゴーマ（　）

276ページのバトル記号表を見て、Iの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……⇩178へ　●負けた……⇩182へ

125 C

ふえを吹いてみた。

すると効果テキメン。デグドガは見る見るしぼんで小さくなってゆく。手のひらの大きさになったそれを、踏みつける。ギャッと叫んで、デグドガは死んでしまう。（LIFEエネルギー♡2個得る）

●西の扉へ……⇩122へ　●南の扉へ……⇩137へ

●バクダンI個を北の壁へ……⇩105へ

126

一歩踏み出したとたん、氷壁に亀裂が入った。大音響とともに氷の塊が降りそそぎ、怪物の哮りが山々に轟く。

グリオークは体を揺すり、氷の中から脱け出した。

●ホワイトソードがあれば ……⇩187へ
●なければ ……………⇩205へ

127

しばらく歩くと、浜辺に出た。
はるか彼方まで海が続いている。
足元の砂地に、半ば埋もれたイカダを見つけた。おそらく前の戦いの時に使ったものだろう。
ぼくはそれを引きずり出し、波間に浮かべる。そして大海原にこぎ出してゆく。
⇩246へ

128

次の部屋に入ると、ゴーリアが2匹いた。
耳が大きい。ネズミが進化したような怪物だ。
ゴーリアは手にしていた武器――ブーメランを投げてきた。鋭いカーブを切って、それはぼくを襲う。

●剣で戦う ……………⇩168へ
●バクダンを1個使う ………⇩201へ

129 C

北の壁にバクダン1個をしかけた。轟音（ごうおん）がして、土の塊（かたまり）が飛んだ。やがて煙が晴れた。そしてそこへ歩いていく。（バクダン一個失う）ダメだ。出口はない。

●南の扉から出る……………⇩69へ　●西の扉から出る……………⇩11へ

130

そこをくぐり、向こうの部屋へ抜ける。

ポルスボイスが待っていた。耳の大きい、頭だけの怪物だ。まるでキツネの頭そのもの。こいつは確か、ある弱点を持っているはず……。何で戦おうか？

●バクダンを使う……………⇩68へ　●剣で戦う……………⇩200へ

131 C

目をねらった。

巨大な口の両側にたれ下がったまぶたの下、緑色に光るガラス玉のような目。矢尻（やじり）とその目を結ぶ線が一直線になった時、ぼくは射（い）った。

『やった!!』ファニーが叫ぶ。

オクタロックの断末魔の声は、子供の悲鳴そっくりだった。12本の足をくねらせ、何とか急所に刺さった矢をぬこうともがいていたが、じきに動かなくなった。（5ルピー得る）
ぼくはまた、霧の中を歩き始めた。
⇩183へ

132

林立する巨大な水晶の群れ。
その中でも一番大きな水晶には、外周に沿ってらせん階段が続いていた。頂上まで行くらしい。
●そこを登る事にした ……⇩118へ
●登らずに去る ……………⇩62へ

133 Ⓒ

右の洞窟に入る事にした。
足を踏み入れ、剣の柄に手をかけたまま、暗闇に目が慣れるのを待つ。そして歩き出した。
「そこの若者よ」。突如、前方の暗がりから声が響いた。
ぼくはギョッとして立ち止まった。洞窟の奥にポッとふたつの火が燃えた。その松明の向こうに、ひとりの老人がすわっている。炎に照らされた赤い僧服に、妖気が漂っている。

131〜133

「何かようかぃ？」と老人はいった。
ぼくはずっこけた。
「じいさん。そんな古い洒落（しゃれ）、どこで習った⁉」
「ふおっふおっ。お前さんはリンクじゃな。あの魔王ガノンを倒したという——。その時この洞窟で会っておるはず。なつかしい顔じゃ、、、ようかいって（よう帰って）きたのォ」
ぼくはまたずっこけた。ウーム。すさまじいダジャレのパワー。
「——ところでリンクや。お前さんは蜃気楼城（ミラージュ・キャッスル）を探しておるときいたが」
今度は真面目な話らしい。
「——ひとつヒントを教えてやろう」
「え？」ぼくは向き直った。
「あの城は時間と空間を超え、このハイラル地方のあちこちに現われては消える幻の城じゃ。ゆえに蜃気楼城と呼ばれておる。しかし、おかしなことに、この地方のはずれにしか現われないのじゃ」
「この地方のはずれ？」
「ふむ。つまり、城はこの地方の中央には現われたことがないのじゃよ」
ぼくはお礼に2ルピーあげた。そして洞窟を出た。（2ルピー失う）

●その丘を去る……⇩46へ
●今度は左側の洞窟へ入ってみる……⇩114へ

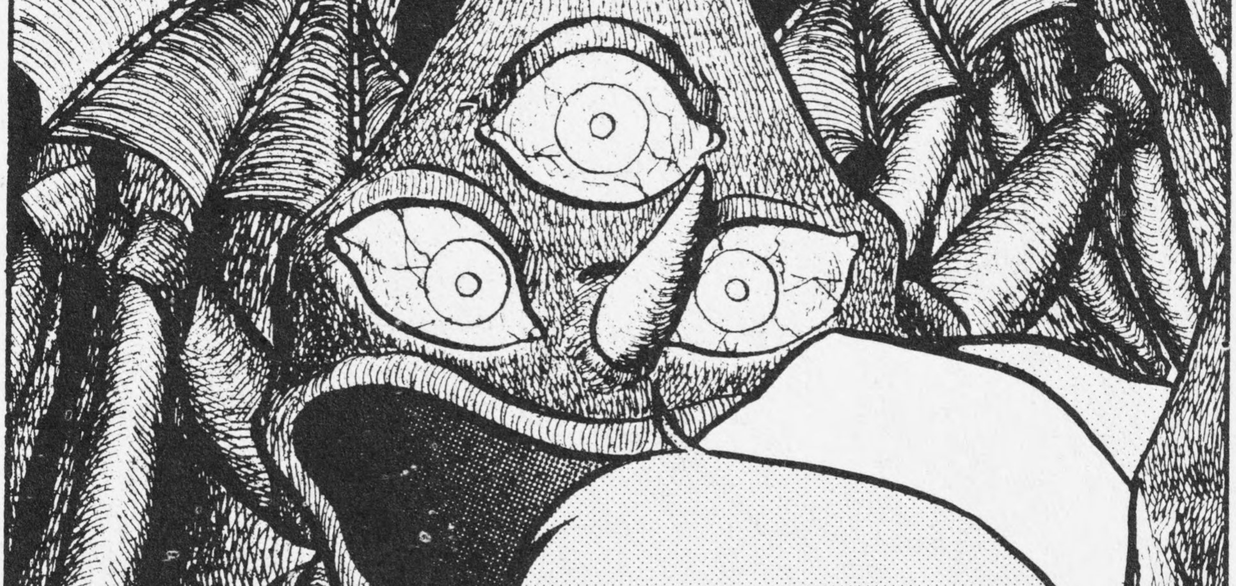
134

地下への穴。
石段をゆっくりと降りてゆくと、目の前に巨大な空洞があった。
無数の鐘乳石(しょうにゅう)が天井からたれ、床には石英の砂粒(つぶ)が敷きつめられている。
その時、恐ろしいうなり声が静寂を破った。見ると、この空洞の奥、石英を散りばめた岩壁が崩(くず)れ、そこから数本の触手が突き出した。
無数に並んだ吸盤。オクタロックか？
その触手の上にある巨大な口は、まぎれもなくオクタロックのものだが、さらに上にあるひとつの赤く光る目は違う。そいつは岩石から少しずつ体を押し出してきた。現われるに従い、その全体像はいよいよグロテスクなものになってきた。
頭部はリーバー。その両側にある大きなはさみは、テスチタートのそれ。また半魚人ゾーラのひれやエラ。触手の後ろには化けグモ・テクタイトの節足がある。
それは複合生物だった。ガイアの魔力は、ハイラル中のいろいろな魔物から、こんな化け物を創(つく)ったのだ！
その生物は岩穴を抜け終えた。ぼくを見つけ、いやらしい音をたてながら近寄ってきた。

●戦う……⇩87へ

●強そうなので逃げる……⇩109へ

134



134●石英の岩壁を崩し、そいつは出現した。何たる醜い姿！　ガイアの魔力で作られた複合生物だ。

135 [C]

ぼくは剣をかまえ、襲いかかるコウモリどもに斬りつけた。丁々発止……というわけにはいかなかった。やみくもに剣を振りまわすしかない。
何匹ものキースが、翼や体を斬られて落ちてゆく。だがしつこい攻撃は止む気配がない。肩に激痛を感じ、そこに噛みついた奴を引きはがして捨てる。（LIFEエネルギー♡1個失う）やがて必死の抵抗の効あって、キースたちは退散していった。ぼくは、ヤツらの落としていった8ルピーを拾った。（8ルピー得る）

⇩26へ

136

ぼくはゼルダからバイブルを受け取った。
それとマジカルロッドを手にした瞬間、光が生じた。
ぼくは今、最強の武器を持った！
ロッドの先端から、突如、炎の矢が放たれた。それは大鴉——ガイアに突き刺さる。魔将軍は一瞬にして、炎に包まれた。死の舞踏を続けながら、恐ろしい叫び声をあげる。『トドメよ、リンク！』ゼルダの肩の上で、ファニーが叫ぶ。
ぼくは——

- マジカルソードを使った……⇩116へ
- 銀の矢を使った…………⇩400へ

137

その部屋の扉を開けたとたん、ものすごいうなり声が耳をつん裂いた。サイの化け物・ドドンゴが、床からゆっくりと身を起こしたところだ。巨大なヤツだった。普通(ノーマル)なドドンゴの3倍はあるだろう。バクダンを使いたいが、3発や4発じゃききそうもないぞ！

●バクダンが5個以上あれば……⇩45へ
●4個以下なら……⇩191へ

138

ウィズローブ。それは呪文師とも呼ばれる魔法使いだ。ボロぎれのようなものをまとい、首に鏡のペンダントをぶら下げている。

しつこく何度も現われては消え、人を金縛りにする呪文を放ってくる。

☆バトルD

基本ポイント　リンク（　）　ウィズローブ（　）

276ページのバトル記号表を見て、Dの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……⇩113へ
●負けた……⇩48へ

139

ぼくは吊り橋を渡り出した。

足元の板は不規則に揺れ、早く渡り終えようと、気ばかりがあせる。
半ばまで渡り終えた時、対岸の岩陰から杖をついた老人が現われた。揺れる橋を、器用な身のこなしで、トントンと渡ってきた。
褐色のフードを被り、あごの下に長い髭を垂らしている。丸顔で小太りのその老人はいった。
「わしはこの山の番人・魔術師のターニ・ケイじゃ」そして目をしばたたいた。
「ここを通るにはわしの問うナゾに答えねばならぬ。さもないと、命の保証はない」
「よし。受けて立とう!」ぼくはうなずく。
魔術師ターニ・ケイは、ムフフと笑った。「ではゆくぞ——。昼は短かく、夕方は長く、夜になるとなくなる物なぁーんだ?」

●答えがわかったなら ……⇩36へ

●答えがわからないなら ……⇩115へ

140

モリブリンは動きの遅い怪物だ。だが、矢を放ってくる。最初の戦いの時、この四方から飛んでくる矢にずいぶん苦しめられたものだ。
うかつに近づかず、こっちも弓矢を使ってやっつけるほうがいい。

●LIFEエネルギー♡は4個以上? ……⇩234へ

●ＬＩＦＥエネルギー♡が３個以下しかない……………………⇩１２へ

１４１ Ⓒ

ぼくの意識は、急速に薄れてゆく。（ＬＩＦＥエネルギー♡１個失う）
その時だ。心の中でファニーの声がした。
『水よ！　リンク。砂を掘って』
幻聴？　じゃなかった。よろよろと起き上がり、両手を使って砂地を掘り始める。指先に血がにじんだが、痛みは感じなかった。
やがて、手に触れる砂が湿気をおびてきた。ぼくは目が覚めたように勢いよく手を動かした。穴の底に――水がたまっていた！
それがぼくとファニーの喉（のど）を潤すに充分な量だったのは、いうまでもない。
やがてぼくは、再び歩き出した。
前方に岩山が見えてきた。その中腹に洞窟がある。
中に何がいようと、入ってみようと思った。日陰――今のぼくにとって、これほど魅力的な場所は他にない。
暗がりの中、ふたつの松明（たいまつ）が灯（とも）っている。
赤い僧服の老人がすわっていた。

⇩２１１へ

142

次の部屋へ入った。扉は北にひとつ。あとは南の壁にあるバクダンの穴のみ。
その部屋の中央に、コウモリの翼を持った悪魔がいた。バイア。化け物コウモリ・キースの親分だ。
バイアは3つの眼でぼくをにらみ、大きな翼を広げて飛びかかってきた！

☆バトルL

基本ポイント　リンク（　）　バイア（　）
276ページのバトル記号表を見て、Lの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……………⇩98へ　●負けた……………………⇩44へ

143

バトルポイントでは勝ちだが、魔将軍ともなればそう簡単に倒せはしないのです。喜ぶのはまだ早い。努力しなさい！

●銀の矢とマジカルロッドを使う……⇩245へ　姫を救出する……⇩40へ

144

剣をさやに収め、ぼくは出口を探した。

東に扉がある。これだと思って勢いよく開ける。とたんに烈しい風が吹き込んできた。
扉の向うは――何もなかった。
足元は無限に続く深淵（しんえん）。はるか下方で光と影が渦を巻いている。時空の間（はざま）。異次元空間だ。落ちた時の事だけは考えたくもない。
気をとり直し、前方を見る。すると遠くに扉が見えた。この城は真ん中にポッカリと空洞があるんだ！　めざすゴールは反対側。この空洞を渡るか、引き返してまわるかだ!!

●ハシゴを持っていれば……⇩２４３へ
●ないので引き返す……⇩１６９へ

１４５

荒涼（こうりょう）とした大地を歩く。
遠くに見える火山は、白煙と共に時折、山鳴りを轟（とどろ）かせる。足元にころがる岩々は、溶岩が固まったものだ。
やがて、切り崩したような岩場にさしかかる。大きな台地を形成する岩壁。そこにひとつ、洞窟があった。
ぼくはそこへ入っていった。
闇に光る無数の眼。洞窟の入口付近には、ロープという名の毒蛇が群（む）れている。
ここを越えないと、奥へは進めない。蛇どもを一度にやっつけたいが……。

145●その洞窟に入っていくと、暗がりに無数の毒蛇・ロープ。ここを通らないと先へ進めないのだ。

●剣でなぎ払って進む……⇩150へ
●バクダンを2個使ってみる……⇩34へ
●♡が満杯なら——剣のビームで……⇩43へ

146 Ⓒ

その穴に入ってみた。
せまい道を歩いていくと、やがて突き当たりの部屋へ。
松明(たいまつ)のそばに緑の服が見えた。商人だ。
「あんさん、お早いお着きでんな。来たついでに、何か買うてくれや」
敷物の上に、いくつもの品物が並んでいる。
○ホワイトソード——15ルピー　○マジックシールド——15ルピー
○ふえ——10ルピー　○銀の矢——15ルピー
○マジカルキー——20ルピー　○バクダン5個——5ルピー
○ロウソク——3ルピー　○ハシゴ——5ルピー
(品物を買った人はアイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す)
「景気はどうだい？　おじさん」とぼくはきいた。
「ぼちぼちでんな」と答えが返ってきた。
ぼくはその穴を出、また洞窟の奥へ向かう。
⇩29へ

147

ガイアは椅子(いす)にすわったまま、身じろぎもしない。
ぼくはマジカルブーメランを手にした。
大きく振りかぶり、魔将軍めがけて投げつける。
だがそれは、ガイアに当たらないばかりか、急カーブを描いて戻り、ファニーを追いまわし始めた！　ピュンピュンうなりながらついてくるブーメラン。ファニーがぼくの後ろに隠れたとたん、それは床の上に落下した。
笑い声。ガイアだ。
ヤツは椅子の上で大笑いをしている。
LIFEエネルギーは♡5個以上ある？

●YES……………………⇩40へ　●NO……………………⇩245へ

148

マジカルソードはないが、戦えない相手じゃない。
ぼくも剣を構え、強敵にのぞんだ！

☆バトルJ
基本ポイント　リンク（　）　グリオーク（　）

276ページのバトル記号表を見て、Jの数字を基本ポイントにプラス。
●勝った……………⇩157へ　●負けた……………⇩67へ

149

右の道を選んだ。
暗闇の中を、どこまでも歩き続ける。道は上りになったり下りになったり、また蛇のように曲がりくねったりした。
前方に明りが見えてきた。ぼくは急ぎ足で歩き、洞窟の外へ。
そこは果てしなく続く砂漠だった。ところがおかしい。洞窟のあった場所はゴツゴツとした岩だらけの岩石地帯だったはず。こんな砂漠があっただろうか。
そしてぼくは、後ろを振り返った。
「あっ!!」思わず声を上げてしまう。
さっきまでぼくが歩いていた、あの洞窟がないのだ。
四方どっちを見渡しても、果てしなき砂の海が続くばかり……。
⇩88へ

150 Ⓒ

右へ左へと剣をふり、ロープたちをたたき斬(き)ってゆく。だが、この蛇たちは思いもよら

ぬ所から襲ってきた。
ドサリ！　突如、首筋に冷たいものが落ちてきた。あわててそれをふりほどき、岩壁にたたきつける。ぎょっとしたぼくは思わず頭上をふり仰いだ。岩の天井に、蛇どもがウヨウヨといるじゃないか！
悲鳴が口を突いて出そうになる。
その瞬間、それらは雨のようにバラバラと降ってきた。（LIFEエネルギー♡1個失う。また、ロウソクを持っていればそれも失います。チェック表から消して下さい。ロウソクのない人はLIFEエネルギー♡をもうひとつ失ないます）

⇩86へ

151 Ⓒ

暗い洞の中、松明が灯り、商人がすわっていた。
「何か買うてくれや」
品物をざっと見ると――
○銀の矢――15ルピー　○マジックシールド――15ルピー　○ふえ――10ルピー
○ロウソク――10ルピー　○バクダン5個――10ルピー
「もうすこしまけてよ」とぼくは不平をもらす。
「すんまへんな、お客はん。不景気な世の中、まっとうな商売しとると、生きてゆけまへ

んねん。人助けやと思うて、何か買うてくれまへんか？　魔法のハシゴもサービスしまっせ」
（品物を買った人は買った品物とハシゴをアイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す）

⇩159へ

152

悪魔の塔を去り、ぼくはまた旅を続けた。

●北へ……………⇩261へ　●西へ……………⇩167へ

153 Ⓒ

ぼくは剣を抜き、タートナックに挑戦した！
ヤツらは魔界でも指折りの強者ぞろいだ。甲冑と盾で身を守っているので、正面からの攻撃はまったくきかない。
激しく動き、フットワークをつけて背後を取ろうとした。だが奴らは素早いうえに、連係プレーのうまさもあった。
ぼくはたちまち追いつめられ、剣で脚を突かれた。（LIFEエネルギー♡2個失う）
それに驚いた事に――奴らの剣。これが無敵のマジカルソードなんだ！
逃げろ！

⇩227へ

１５４　Ⓒ

部屋の中に入り、剣を左右に打ちふるっていった。断ち切られたロープどもが、血の海に沈んでゆく。

ちくしょう！　やっぱりキリがない。ぼくは疲労の中で、後悔(こうかい)し始めていた。

突如(とつじょ)、左脚(あし)に鋭い痛み。１匹噛みついてきた！（ＬＩＦＥエネルギー♡1個失う）

ぼくはとっさに、足を引きずりながら逃げ出した。

⇩１９へ

１５５　Ⓒ

背中にのしかかった岩。ぼくの体重の3倍はあるそれを、何とか押しのけた。

岩のすきまから、かすかに陽光が差し込んでいる。身体を動かし、必死で脱出を試みる。

やがて最後の岩をどけて、ぼくは外の世界へ出た。（ＬＩＦＥエネルギー♡2個失う）

腰のポーチを開ける。ファニーは幸いにも無傷だった。ホッと胸をなでおろす。

⇩１４へ

１５６

大グモの死骸(しがい)を乗り越え、洞窟に向かった。

洞窟はふたつ。右と左どちらへ入る？

●右へ　……⇩215へ　●左へ　……⇩224へ　●入らない　……⇩20へ

157 Ⓒ

その剣を振りかざし、グリオークの胴をねらう。巨竜はビームを放(はな)ってきたが、ぼくは難なくかわす。
敵がひるんだスキに、すかさず突進。2度3度と巨体を突き刺す。首がこっちを向くと、サッと身をかがめる。そしてまた刺す！
グリオークは、どうとばかりに横倒しになる。完全に息絶えていた。そのそばに、バクダンが10個落ちていた。（LIFEエネルギー♡1個、バクダン10個得る）⇩108へ

158

怪物は口からビームを吐いた。
ぼくはそれに当たらないよう、接近していく。今だ——。
☆バトルE
基本ポイント　リンク（　）　アクオメンタス（　）
276ページのバトル記号表を見て、Eの数字を基本ポイントにプラス。
●勝った　……⇩179へ　●負けた　……⇩209へ

１５９

ぼくはまた歩き出した。その頃には空もすっかり晴れ、日が差し始めていた。

●東へ………⇩１１０へ　●西へ………⇩５０へ　●北へ…………⇩８８へ

１６０

左の穴に入ったぼくは、闇の中を手さぐりで歩き続けた。天井が低いので、身をかがめなければならない。

道は、上ったり下ったりしながら続いていく。ずい分と長い間歩いたような気がした。

突然、前方に明かり。ぼくは歩を早め、やがて出口に立った。安心感と同時に理由のわからない不安感が、ぼくをさいなんだ。

そこは、霧のたちこめる草原。どこかで見たような光景だ……。

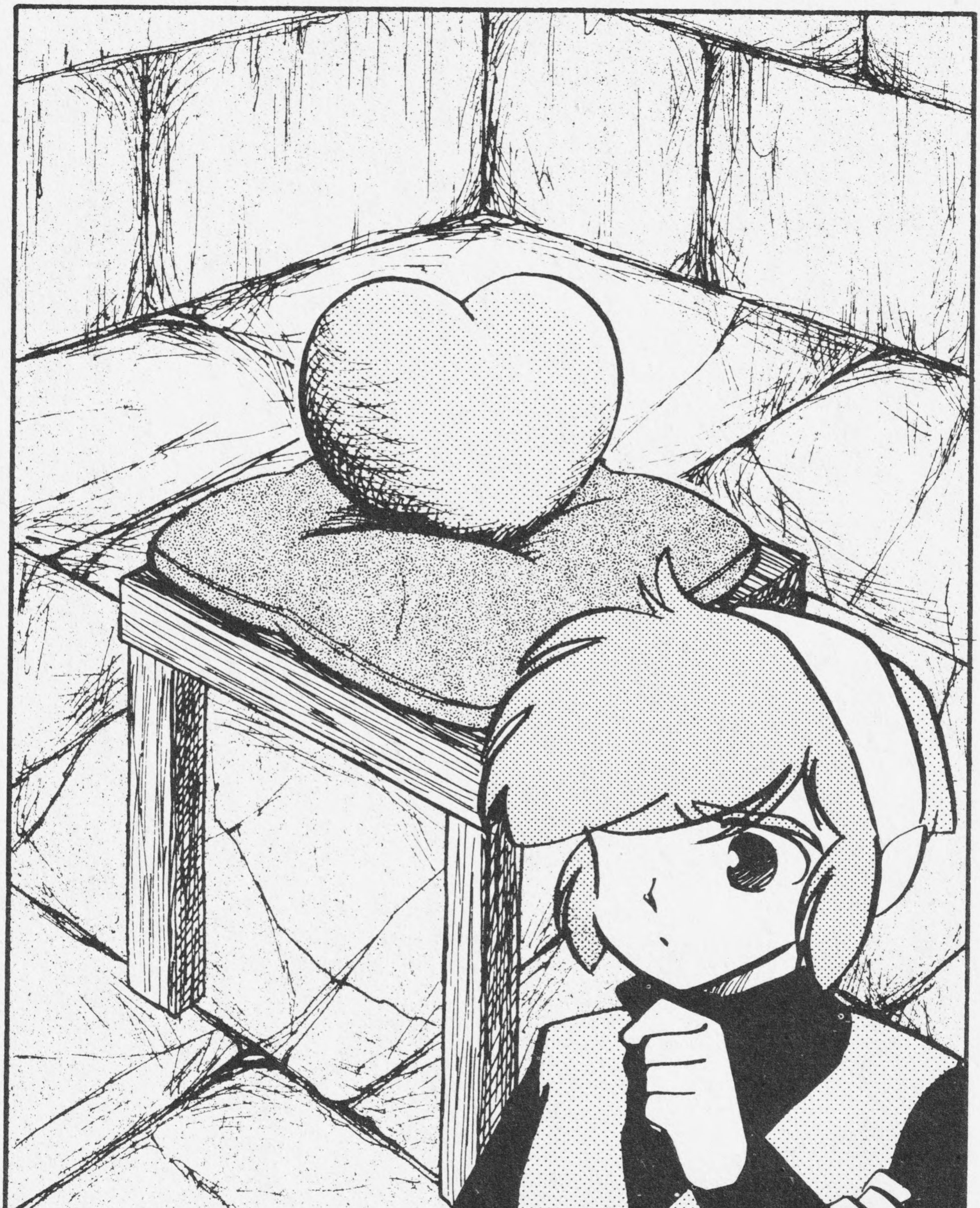
アッと叫んで背後を振り向く。さっき確かに出て来たはずの洞窟が消えている。

ぼくは呆然（ぼうぜん）として立ちすくんだ。何て事だ。ここは旅のスタート地点じゃないか!!　洞窟にできた空間の歪みが、ぼくを振り出しの草原まで戻してしまったのだ！　⇩２３へ

１６１

次の部屋には、怪物の姿がない。しかもうれしい事に、真ん中のテーブルに命の器（うつわ）が置

159〜161



161●部屋の真ん中にテーブル。その上には命の器(うつわ)があった。怪物の姿はどこにもない。ワナか!?

いてあるじゃないか！

●どれ、命の器（うつわ）を取りに行くか ⇩96へ

●待て、罠（わな）かもしれないぞ……⇩59へ

162

突進してくるゴーマ。ぼくは火を点（つ）けた2個のバクダンを、思いっきり投げつけた。強烈な爆弾音と共に火柱が上がる。もうもうとたちこめる黒煙。

やっつけたか!? ぼくは煙の中、目をこらして見た。

その時、黒煙を突いて、まっ黒い塊（かたまり）が飛び出した！ ゴーマだ。生きていたのか。

あわてて残りのバクダンを投げようとした。怪物ガニはそこへ飛びかかってきた。奴の鋭い牙でぼくがバラバラになった時、やっと残る1個のバクダンが破裂した。

もちろん、何にもならなかった。

END

163

一瞬後、天から降ってきた雷はぼくを貫いていた。胸にかけられたクリスタルムーン。この水晶球さえも、そのショックでこなごなになって散っていった。

END

164 C

ぼくは必死に走った。

眼前の蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)は、すでに陽炎(かげろう)のように揺(ゆ)らぎ始めている。

駄目か!?

七色に輝く城塞(じょうさい)は、その下方からじょじょに消えてゆく。そして全体が消えると、城の形の影が空中に残った。それは空間に開いた切り抜きの穴だった。そこから遠くの砂漠が垣間(かいま)見えた!

ぼくは城の転移に巻き込まれないよう、とっさに岩陰に隠れた。近くに落ちていた無数の岩の塊(かたまり)が浮き上がり、空間のひずみに吸い込まれてゆく。(5ルピー失う)

やがて静寂が戻った。

●谷へ降りる…………⇩16へ

●その場を去る…………⇩181へ

165

足元の地面は、すっかり干上(ひあ)がっている。褐色(かっしょく)の土は縦横にヒビが入り、複雑な紋様を作っている。

昔、ここは湖だったに違いない。その水が一滴残らず蒸発してしまったのだ。こんな光景を見るたびに、水の妖精ファニーは悲しげな顔をする。

やがて遠くに丘が見えてきた。この不毛の土地にあって、そこだけ緑に恵まれている。ぼくはその丘へ向かった。丘は小さな森になっている。急な坂を何度も滑りながら登り、何とか頂上へたどりつく。
木陰の涼しさが心地よい。ところどころ地中から丸い岩が突き出している。そのうちのひとつに腰をおろした。
その時だ。突如、前方の林で、葉群がガサゴソと音をたてた。
と、見る見るうちに木々をなぎ倒し、無数の赤い触手がこっちへ伸びてきた！　オクタロックだ！

●剣で戦う……………⇩196へ　●矢で戦う……………⇩58へ

166 C

ねらいをつけ、矢を放った！
それはあの、気色悪い赤い体に深々と突き刺さった。リーバーはドロドロとした水分を噴き、ぐにゃりと倒れた。その体液はあっという間に砂地に吸い取られてゆく。
残骸のかたわらにルピーが5つ光っている。それを拾い、また歩き出す。
（5ルピー得る）　⇩203へ

167 C

旅を続けるぼくが、次に来たのはだだっ広い平原だった。
空には黒雲が渦巻き、その中を時折、稲光りが走っている。
そして耳をつんざくような雷鳴(らいめい)。
うわさに聞いた事がある。雷の平原。ここを通り抜ける者は、神の光によって射抜かれるという。
金属を持っていると危険だが……。

●小道具(アイテム)をすべて捨てる(アイテムチェックシートからすべての小道具(アイテム)を消す)⇩18へ
●捨てずに平原を渡る……………………………………⇩39へ

168

飛んでくるブーメランをさけ、剣で斬(き)りかかった。

☆バトルF
基本ポイント　リンク(　)　ゴーリア(　)
276ページのバトル記号表を見て、Fの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……………⇩100へ　●負けた……………………⇩81へ

169

ぼくはそこを通り抜け、次の部屋へ入った。床の上に無数の毒蛇・ロープがいる。1匹1匹は大したヤツじゃないが……。ロープは、まるで床に敷かれた動くジュウタンに見えるほどウジャウジャいるのだ!

● 剣で1匹ずつやっつけていく……………………⇩154へ
● (ローソクがあれば) ローソクに火をつける…………⇩198へ

170

そう。アモスの像は、手で触れないかぎり動き出さない。こいつらが束になってかかってこないかぎり、恐れる事はないんだ。

ぼくは手前の像に近づき、そっと手を押し当てた。

次の瞬間、ズラリと並んだ石像が一勢に青白く光り、震え始めた。見る見るうちに、そいつらは剣と盾をかまえ、ぼくめがけて襲いかかってきた!

エーッ? そんなのありかよーっ。

☆バトルH

基本ポイント　リンク（　）　アモス（　）

276ページのバトル記号表を見て、Hの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……………………⇩219へ　●負けた……………………⇩42へ

171 [C]

この目玉の怪物をやっつけるには、手順をふむ必要がある。まずまわりの子分どもをやっつけ、それからボス目玉をやっつける。
ぼくは剣をめくらめっぽうにふりまわし、小さな目玉をかたっぱしから叩き落とした。
だが、ヤツらはむざむざそれを待っていたわけじゃない。
ボスの指令を受け、残ったヤツらがいっせいにかかってきた。
エエイ！　気合もろとも、そいつらを斬(き)った。そしてボスをもひと突き。（LIFEエネルギー♡1個得る）
●西の扉へ……………⇩11へ　●南の扉へ……………⇩69へ
●北の壁にバクダンをしかける……………⇩129へ

172

バクダンはその数に満たなかった。
だが逃げるわけにはいかない。必死の覚悟で、剣を構えた。
ゴーマは風のように襲(おそ)ってきた。その長い脚(あし)で大きくジャンプし、ぼくの上に落ちてく

る。
あわてて剣を突き上げるが、その堅い甲らにはね返される。
死ぬ寸前、ぼくはその巨大ガニの眼を見た。
それは氷のように冷たい眼だった。

END

173 C

ぼくは剣を構え、雲の中にいる竜に向けた。
その刃先からビームがほとばしる！　光の矢が刺さったとたん、竜は激しくのたうち、恐ろしい声で吠えた。
続けざまに剣のビームを放つ。天空の主は、その体から雷を放つ間もなく、炎と黒煙に包まれて落下してきた。
大音響と共に地面がゆれ、巨竜は地表に激突する。
やがて炭化したその骸の中に、ぼくは10ルピーを見つけた。（10ルピー得る）　⇩3へ

174 C

南に向け、イカダをこいだ。

遠くに見える陸地が、だんだんと近づいてくる。ゾーラは追ってこないが、いつどこで攻撃をしかけてくるかわからない。
しばらくして、イカダは砂浜に乗り上げた。ホッとため息をついたとたん、海から音もなく光球が飛んできた。それはぼくの背中に当たり、ぼくはうめいて倒れた。（ＬＩＦＥエネルギー♡１個失う）
油断は禁物だ。
ぼくは起き上がると同時に、必死に走った。波間に浮かぶゾーラは、そのでかい口を開け、ケタケタと笑っている。

⇩２８へ

１７５

ぼくは恐る恐る、右の穴に入っていった。
その穴は途中で行き止まっていた。真っ暗で何があるのか、さっぱり見えない。
闇の中で、何かが動く気配。
身がまえたとたん、そこに光る目が出現した！
ホワイトソードはある？

●ＹＥＳ……………⇩１２４へ
●ＮＯ………………⇩１８２へ

176

すかさずぼくは、ふえを吹いた。
するとどうだ、ゼルダ姫の眼に生気が蘇(よみが)えったのだ！
「リンク！」ゼルダはぼくの名を呼んだ。
その瞬間、ぼくは胸のうちにある力がみなぎってくるのを感じたのだった。
驚きの表情を浮かべたのはガイアだ。ヤツは正気に返ったゼルダを見、そしてぼくをにらみつけた。その顔が見る見る変化をとげてゆく。口が耳まで裂(さ)け、前方に突き出してくる。全身は真っ黒い羽毛で包まれ、足は巨大な鉤爪(かぎづめ)と化した。
ガイアの正体は――そう、巨大な鴉(からす)だったのだ！　巨鳥に変ぼうし終え、ガイアは翼を振って飛び上がった。
来る！　まっしぐらにこっちへ！

●地上でゼルダが取った小道具(アイテム)の中にバイブルがあれば……⇩136へ
●なければ……⇩83へ

177 C

ぼくは剣を力一杯ふりまわし、襲(おそ)ってくるテクタイトどもに切りつけようとした。だが、敵はたくみにかわし、ぼくはそのひょうしにひっくり返ってしまった。

176～177

176●魔将軍（ゼネラル）ガイアはぼくらをにらみつけた。そしてその
顔がみるみる変わっていく。ガイアの正体は…。

背後から来た1匹が、左肩をガブリと嚙んだ。（LIFEエネルギー♡1個失う。2ルピー失う）
ぼくはよろめきながら、その場を逃げ出していった。

⇩20へ

178 C

ホワイトソードで、ゴーマに斬りつけた。だがこの魔法の剣をもってしても、そのかたい甲らをつらぬく事はできない。
それにこいつは動きが速い。ぼくはあっという間に壁ぎわに追いつめられ、絶体絶命のピンチ。
その時だ。
ぼくは偶然にもこの巨大ガニの弱点を思い出していた。
怪物がぼくを昼飯がわりにしようと飛びかかってきた！
ぼくは剣をかまえ直し、ゴーマの大きな眼に突き刺した。
カニは見事にひっくり返った。
脚をじたばたと動かし、やがてパッタリと止めた。そこに7ルピー落ちていた。（LIFEエネルギー♡1個得る。7ルピー得る）
ぼくはその穴を出、右に曲がり、洞窟の奥に向かった。

⇩202へ

179 C

この一角獣は頭が弱点のはず。
ぼくは奴がビームを放った直後、反撃にかかった。
剣をふり上げ、その脳天にふりおろす。鈍い音と共に、血しぶきが散る。
2打目は首に打ちつけた。
そして3打目。アクオメンタスの首は胴から断ち切られ、石畳の上へ転がった！（LIFEエネルギー♡1個得る）

⇩144へ

180 C

ぼくの放った矢は、ねらいどおりに敵の頭や胸をつらぬき、勢いあまって背後にいる2匹目まで倒してゆく。
いいぞ！　思わず安心したのがまちがいだった。横一列に並んでいたモリブリンが一勢に矢を放ち、そのうちの1本がぼくの肩をつらぬいたのだ！（LIFEエネルギー♡2個失う）
ぼくはよろめきながら、その場を逃げ出した。木立の陰に隠れ、刺さった矢をぬいてため息をつく。

⇩33へ

181

再びあてのない旅を始めた。
次第に太陽が西にかたむいてゆく。

●西へ向かう ……………⇩262へ
●南へ向かう ……………⇩273へ

182

果たして勝てる相手か……。
意を決し、ぼくはそいつに近づいた。光る巨大な眼……。その正体は、カニの怪物・ゴーマだった！
後悔先に立たずとはこの事だ。ぼくはあわてて逃げようとした。そう、こいつは地下世界でもトップクラスの強さを誇る怪物なのだ。
だがぼくは、恐るべき速さで走るゴーマに背後から襲われた。
その巨大な口は、悲鳴を上げるぼくをパクリと呑み込んでしまった。

END

183

果てしない原野を、ひたすら歩き続けた。

やがてわずかだが、霧が薄くなってきた。遠くにぼんやりと、小高い丘の影が見える。
ぼくはそこをめざして進んだ。
丘の中腹にポッカリと並んで開いたふたつの洞窟。ぼくは立ち止まり考えた。
どうすればいい?
●右の洞窟に入ってみる……⇩133へ　●左の洞窟に入ってみる……⇩114へ

184

残る5体のアモスと戦う事にした。
だが疲労も激しく、剣を持つ手もしびれてくる。
☆バトルA
基本ポイント　リンク(　)　アモス(　)
276ページのバトル記号表を見て、Aの数字を基本ポイントにプラス。
●勝った……⇩38へ　●負けた……⇩42へ

185

「それからもうひとつ。妖精ファニーを起こしてやるのじゃ。きっと役に立つ」
ぼくは腰のポーチの蓋(ふた)を開けた。そう、ファニーはこの城に入る前に、気絶していたの

だった。ええい、人がさんざん苦戦してたってのに！
指先で頭をポンとたたく。とたんに妖精は飛び上がった。
『リンク!!　ゼルダは？』
「ガイアにさらわれたよ。今からヤツと一騎討ちだ。手伝ってくれるかい？」
ファニーはうなずいた。
「よろしい」老人は背後の扉に手をかけた。
「——では、行くがよい」
ぼくとファニーは、魔将軍のいる部屋へ入っていった。

⇩121へ

186

ぼくは山道を登っていく。
岩場を避け、外周をまわり込んで登りきる。そこでぼくは、ついにめざすものを発見した！　七色の光に包まれた蜃気楼城が、岩の高台の上に出現していたのだ。
全力で走った。城が消える前に、たどり着かなくちゃならない。地面は雪で覆われ、滑りやすい。やがて両側を氷の崖にはさまれた道にさしかかった。
そこでハタと足を止めた。左側の氷壁の中に、グリオークが眠っている。3つ首の巨大なドラゴンだ。

そいつはふいに眼を開けた。三白眼（さんぱくがん）がぼくを見すえていた。

●進む……⇩126へ　●グリオークと戦いたくないので引き返す……⇩16へ

187

ホワイトソードをかまえた。

グリオークは3つの首をくねらせ、迫ってくる。口から吐く火球は、雪を蒸発させ、露出した岩をも溶かしてしまう。

食らったらひとたまりもない。

その火球をかわしながら、グリオークの懐（ふところ）に飛び込む。

気合いをこめて首を叩き落とし、すかさず跳びすさった。

するとどうだ。その、落ちた首が、それだけでひとつの生物のように、宙を舞い襲ってきたじゃないか！

☆バトルD

基本ポイント　リンク（　）　グリオーク（　）

276ページのバトル記号表を見て、Dの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……⇩217へ　●負けた……⇩6へ

188 C

北の壁にバクダンを1個仕掛けた。
爆音とともに岩が舞った。（バクダン1個失う。チェック表に記入）
すると、そこにはポッカリと穴が――。

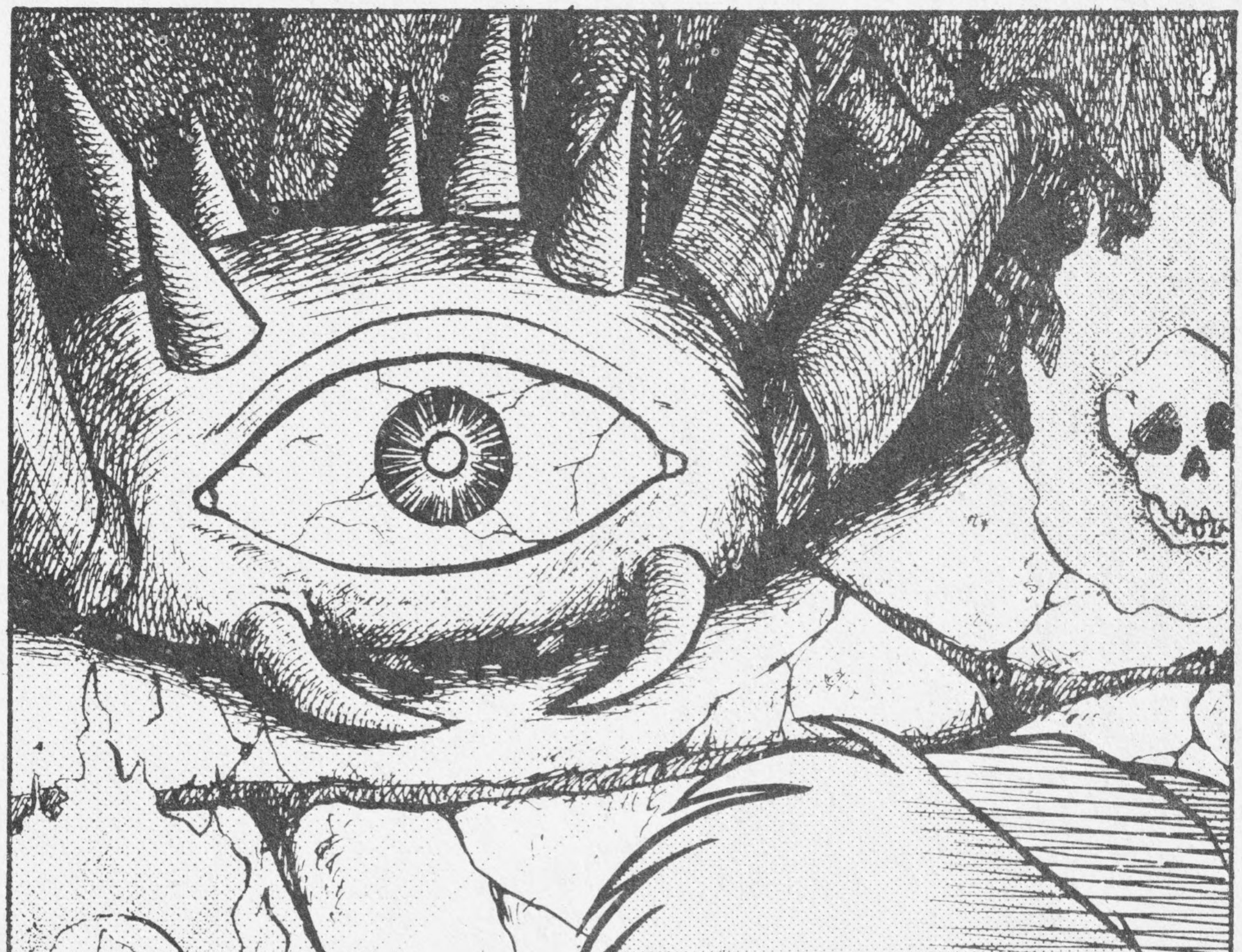
⇩169へ

189

次の部屋にはヒトダマがうようよいた。
入ったとたん、そいつらは、ぼくに向かってきた。光の中にはガイコツの顔があり、不気味にケタケタ笑っている。
こいつはバブルという名の化け物だ。触れると手がしびれ、剣が使えなくなる。よけようと身をかわしたとたん、後ろにいたヤツがぶつかってきた。うっ！　ぼくは片膝を突き、うめいた。
だが本当の脅威は別の所にいた。
飛び交うヒトダマのため、気づかなかったのだ。部屋の隅にうずくまっていた怪物が、その大きなひとつ目を開いた。
カニの怪物・ゴーマだ！

●バクダンが3個以上あれば……⇩61へ
●なければ……⇩172へ

188〜189



189●飛びかう無数の人魂(バブル)。その中には不気味に笑うガイコツの顔。だが本当の敵は、別の場所にいた。

190

マジカルキーを使い、扉を開いた。何もない。長居は無用、すぐにそこを出た。元の部屋へ戻り、さらにどっちへ行くか考える。

⇩9へ

191 Ⓒ

そんなにバクダンは残っていない。どうすればいい？まごまごしているうちに、ドドンゴが突進してきた。ものすごい地響き、城郭が崩れそうだ！　逃げようとしたぼくは、そのゆれで倒れてしまった。激しい衝撃。次の瞬間ぼくはドドンゴに突き飛ばされ、石壁に叩きつけられた。（LIFEエネルギー♡3個失う）

体を引きずって逃げ出した。幸い奴は、その巨体のせいで、方向転換に苦労している。ぼくはよろよろと立ち上がる。

⇩22へ

192

「それは影だ」とぼくはいった。

「がっちょ〜ん」魔術師はのけぞった。そして再びこっちを向き直り、

「よろしい。では、第2問！」

「え!? まだあるのかよ」
「そうじゃ。第2問! 下痢はつまらない病気。では便秘は?」
●答えがわかったら ………⇩107へ ●わからなければ ………⇩115へ

193 C

ぼくは必死に剣をくり出した。
「気味悪いヤツ。あっち行け。この! この!」
振りまわした剣が、手の妖怪にめり込んだ! とたんにこいつは、パッと消えた。(LIFEエネルギー♡1個得る) ⇩240へ

194

その場に仁王立ち(におうだ)になり、ヤツが地上へ来るのを待った。降りてくれれば、剣でやっつけてやる。
果たして、巨竜はぼくを見つけて舞い降りてきた。巨大な口をカッと開け、黄金の体を波打たせるのがはっきり見えた。
その時ぼくは、どう見ても勝利のチャンスはない事を悟った。あいつは地上へ降りる前に、ぼくに雷(かみなり)を投げつけるだろう。

そう、その通りだった。

⇩163へ

195

気がついた時、ぼくは洞窟の闇の中に倒れていた。両足は落ちてきた岩にはさまれている。

その岩を押しのけ、何とか足を引きずり出す。奇跡的に怪我(けが)はない。

ファニーの事が気になり、ポーチを開けてみた。よかった。無事だった。彼女は砂ぼこりの中で、しきりにクシャミをしている。

それからぼくは、暗がりの中を歩いた。

洞窟の奥へ向かって……。

⇩86へ

196

ぼくは剣の柄(え)に手をかけた。ホワイトソードを持っている？

●YES……………⇩58へ　●NO……………⇩37へ

197

北の扉を開けた。

だがその向こうは暗闇の世界。そこは部屋じゃなかった。何故(なぜ)なら、足元に床がなかったからだ。
耳鳴りとめまい。ぼくはその異次元空間を泳ぎながらあえいでいた。
やがて出口の扉が見えてきた。それは左右に揺(ゆ)れながら、ぼくに近寄ってきた。
そしてその扉を開け、次の部屋へ入る。
あれ？　ぼくはポカンと口を開けた。どこかで見たような……。

⇩128へ

198

ローソクに火を点(つ)け、ロープどもに向けてかざしてみた。
驚いた。予想外の反応。毒蛇たちは、まるで海が断ち切れるかのように、左右にザッと分かれてしまった。ぼくはその間を通った。
こいつら、驚くほど火に弱いぞ。ぼくは楽々と、その危難(きなん)をくぐり抜けた。

⇩19へ

199 C

LIFEエネルギーは満杯だ。
今なら剣のビームが使えるぞ。ぼくは光る剣をかまえ、アクオメンタスに向けた。
その一角獣の放つ三連のビームをよけ、ぼくは気合いをこめる。剣は突如(とつじょ)七色に輝き、

ビームの矢を放った。
一角獣はのけぞって吠えた。巨大なあごを開き、再びぼくにビームを放とうとする。だがぼくはそのチャンスを与えなかった。
再び剣を向ける。
光の矢がアクオメンタスに突き刺さる！
やがて大音響と共に、怪物は倒れた。
ぼくはそのそばで、ハシゴを拾った。（ハシゴ入手。アイテムチェックシートに記入）

⇩144へ

200

巨大なキツネの顔——ポルスボイスが襲ってきた。コミカルな容姿にもかかわらず、なかなか手強(てごわ)いヤツだ。
剣をかまえ、斬(き)りかかった。
おっと、意外に動きも速い。素速く飛びまわるポルスボイスに、ぼくはすっかりまどわされ、尻もちをつく。
こりゃ、逃げる方がいい！
壁の穴から抜け出し、もう一度出口を選んだ。

⇩9へ

201 C

ブーメランをさけ、バクダンを1個、奴らに放った。逃げもしないところを見ると、その怪物はバクダンを知らないようだ。
大音響と共に爆発した時、ゴーリアめ、さぞかし驚いただろう。(バクダン1個失う)
舞い上がる煙の中、バラバラになったゴーリアの死体のそばに、マジカルブーメランが落ちていた!(マジカルブーメラン入手。アイテムチェックシートに記入。ただし、一度通った人は取れません)
⇩242へ

202

闇の中を泳ぐように、ぼくはどこまでも歩いていく。時折、ゴオッという音をたて、風が吹き抜ける。まるで竜の叫び声だ。やがて前方左に、小さな穴を見つけた。
●入ってみる……………⇩146へ
●入らずまっすぐ進む……………⇩29へ

203

情け容赦なく照りつける太陽の下。ついにぼくは砂の海に倒れ込んだ。体中の水分が蒸発してしまったようだ。何に代えても、一杯の水がほしかった。
LIFEエネルギーは、♡5個以上?

●YES……………⇩225へ　●NO……………⇩141へ

204 C

銀の矢を弓につがえ、引きしぼる。

絶大な威力を持つそれを放った時、巨竜はぼくめがけ、空中を突進してくるところだった。

銀の矢はその巨大な口の中に飛び込んだ。竜は恐ろしいうなり声と共に身をくねらせ、やがて地表めがけて落下していった。

地響きがした。大地に叩きつけられた怪物は、それっきり動かなくなった。（LIFEエネルギー♡2個得る）

そしてその死骸のそばに、ルピーが10個散らばっているのを見つけた。（10ルピー得る）

⇩3へ

205

グリオークが迫ってきた！

どう戦おうかと考えている時、怪物のすぐそばに巨大な氷壁があるのを見つけた。

●バクダンがあれば……………⇩66へ　●なければ……………⇩13へ

206 C

10ルピーを魔術師に渡した。
「どうだい。これなら通してくれるだろう？」
「よろしい。では、かわりにバクダンを5個やろう。旅の無事を祈るぞよ」
何が無事を祈る、だ。アホらしいナゾナゾを仕掛けてきやがって。(10ルピー失う。バクダン5個得る)
吊り橋をわたり終え、山道を下っていった。
途中、岩場に開いた洞窟を見つけた。

●入ってみる……⇩237へ
●入らない……⇩97へ

207 C

ぼくはバクダンを3つ、袋から取り出した。火打ち石で導火線に点火、ゾーラが群れている海に投じた。
ＢＯＭ……!!
同時に3つの水柱が立ち、ぼくのイカダは激しく揺れる。そしてポッカリとゾーラどもの死骸が浮かび上がる。

（LIFEエネルギー♡2個得る。バクダン3個失う）

やがてイカダを浜に乗り上げ、ぼくは上陸した。そこは緑がまだ残った土地だった。

⇩229へ

208

（バクダンがなければ、この城の迷宮は突破できません。地上へ戻り、バクダンを手に入れて戻ってきて下さい。）

⇩167へ

209

スキを見て、アクオメンタスの腹に剣を突き刺す。

肉にめり込む鈍い感触。

ところが剣が抜けない。ぼくはあせり、ヤツの脇腹（わきばら）に足をかけ、力づくで引き抜こうとした。

怪物が吠えた。そしてこっちを向いた。

ぼくは金縛り（かなしば）にあっていた。アクオメンタスはその口からビームを放った。一瞬後、ぼくは炎に包まれた。

END

210

氷の山脈へ行ってみる?

●YES……⇩186へ　●NO……⇩181へ

211 C

「お前さん、名は何というんじゃね」老人はやさしい声でそうきいた。
「ぼくはリンク。魔将軍(ゼネラル)ガイアの棲(す)む蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)を探して旅をしています」
「ほう。蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)か。あの城はそう簡単に見つかるもんじゃないよ」
「知っているんですか?」
「フム。わしも一度だけ見た事がある。ありゃ時間と空間を超(こ)えて旅をするため、七色のバリアで包まれておる。美しい城じゃった」
「どこで見たのですか?」
「セイバーの森じゃ。リンクとやら、城を探すなら、ピーハットのいない所へ行ってみる事じゃ。あの妙な植物は、城を包む七色のバリアを吸い取ってしまうでな。だから城は、ピーハットのおる所には出現せんはずじゃ」
「ありがとう。おじいさん」ぼくは礼をいい、2ルピーを渡した。(2ルピー失う)
そしてその洞窟を出る時、老人はぼくに魔法のふえをくれた。(ふえ入手、アイテムチェ

ックシートに記入）

●東へ……………………⇩261へ　●西へ……………………⇩259へ
●南へ……………………⇩167へ　●北へ……………………⇩258へ

212

はやる気持ちを押え、ぼくは蜃気楼城（ミラージュ・キャッスル）へ近づいた。驚いた事に、城はほんのわずか、地面より浮いている。人間がくぐり抜けられるぐらいの高さだ。

城壁に飛びつく。石のブロックは隙間（すきま）が多く、そこに手足をかければ楽に登れた。疲れた体にムチ打って、やっとの事で壁を登りきった。

中庭に降り立つ。外の景色が七色に光り輝いている。砂漠は消え、代（か）わりに原色の渦巻き模様が交錯（こうさく）している。城が空間転位を始めたのだ。

城館は3つの尖塔（せんとう）を持つ建物でできていた。この城のどこかに、憎き敵、魔将軍（ゼネラル）ガイアがいる。倒さない限り、ハイラルに平和は戻ってこない。

入口はすぐそこにあった。ドラゴンでもくぐり抜けられるほど大きな扉がある。

その時、何かが風を切る音がした。黒い竜巻（たつまき）が頭上から襲ってきたのだ！

それは渦の中にぼくを取り込むと、城の石壁に叩きつけた。恐ろしい力だ！

動けないぼくのそばに、誰かがやってきた。そいつは今しがたぼくを襲った竜巻のよう

に黒い、影のような男だった。
ぼくの胸にかかった水晶球・クリスタルムーンが奪い去られる。声のない叫びをあげたが、意識は急速に薄れていった。
ゼルダ姫は、またしても敵に捕(つか)まってしまった。
やがて我に返ったぼくは、武器を手にしてゆっくり立ち上がる。ポーチの中をのぞいてみた。ファニーは、竜巻のショックで気絶している。
ゼルダ姫……。ぼくは彼女をさらった男を追い、城館の中へ入っていった。
最初の部屋は壁ばかりの無機質な部屋だ。出口はどこにもない。どうなっている？

●バクダンがあれば……………⇩55へ
●なければ……………………⇩208へ

213

ヒントはありがたかったけれど、この老人、ホントに大丈夫なんだろうか。ま、いいか！
ぼくはこの洞窟を去る事にした。
「ありがとう、おじいさん。では、これで――」クルリと背を向けた。
「まてィ！」突如(とつじょ)、背後から老人の声。
「――ところでお主、何という名前じゃ」
ぼくは岩壁に頭をぶつけた。

⇩47へ

214

明かりがない。これは困った事になったぞ……。

●このまま部屋に入る…………⇩57へ　●戻る方がいい…………⇩169へ

215

右の洞窟へ入っていった。崩れかけた穴だ。
もしかすると、ここで重要な情報を何か得られるかもしれない、と期待しながら。
闇の中、何かが鋭く光った。
近づいていくと、ガラガラ蛇に似た音が聞こえた。そして巨大な光る眼が開かれる。
ゴーマだ！　カニの怪物。ひとつ目の手強いヤツ――。

●バクダンを1個使ってみる…⇩54へ　●逃げる…………⇩71へ

216 C

ガイコツ兵は、その不気味な風体にもかかわらず、弱いヤツだった。勝敗は目に見えている。斬りかかってくる化け物を一匹、斬り払う。斬られた奴は、文字通りバラバラになり、床に崩れ落ちる。

その時だ。落ちていたスタルフォスの骨を踏んだとたん、ぼくはひっくり返った！
油断大敵とはこの事だ。
起き上がろうとした時、敵の鋭い剣がぼくの肩を刺しつらぬいた。（LIFEエネルギー♡1個失う）
傷口を押えて後退りし、ぼくは逃げ出した。

⇩9へ

217 C

飛んできた首をかわし、残るふたつの首をも斬り離した。すると3つの首はそれぞれ宙を舞いながら、火の球を吐いてくる。
その熱で雪や岩が溶け、もやで視界はゼロになる。
それはかえって好都合だった。首どもがこっちを見失ったのに対し、ぼくは本体の位置をしっかりおぼえていたのだ。
剣をかざし、グリオークにトドメを刺す。断末魔の声と共に、3つの首は地上に落下する。（LIFEエネルギー♡2個得る）
グリオークの死骸から、5ルピーと銀の矢が数十本出てきた。それを拾い、また城めざして走った。（5ルピー得る。銀の矢入手）

⇩164へ

218 C

必死に剣をふった。

2、3匹のピーハットを斬り落としたが、何しろ足場のせまさは致命的だった。バランスを崩し、ぼくは崖を落下していく。

地上へ叩きつけられた時、何か柔らかい物にぶつかり、はね上げられた。死を覚悟していたぼくは、予想外の事に驚いてしまった。

それはぼくが殺したピーハットの死体。何とも幸運というほかない。

だが、ぼくは落下のショックでしばらく動けなかった。

(LIFEエネルギー♡1個失います)

⇩152へ

219 C

敵の剣をうまくかわし、ぼくは反撃に転じた。

アモスどもは皆、攻撃力、防衛力ともにすぐれている。が、たった一つ弱点がある。それは、奴らの動きがにぶい事だ。ぼくはたくみに敵の背後を取り、一撃を加えてやった！

ヤツらの死体の側に5ルピーあった。(5ルピー得る)

倒したアモスは5体。残る数もあと5体だが……。

●もう限界だ。逃げよう………⇩4へ
●あくまでも戦う ……………⇩184へ

220 C

体力の消耗(しょうもう)は予想外に大きかった。

ロクにねらいをつけないうち、矢は勝手に飛び出し、あさっての方角へ消えていった。

リーバーはまた砂の中にもぐり、見えなくなった。呆然(ぼうぜん)としているうちに、今度は足元の砂地がくずれ始めた。あわてて飛びのかなかったら、そのままヤツの蟻地獄(ありじごく)に落っこちていただろう。

ぼくはとっさに逃げ出した。怪物は追ってはこなかった。

（LIFEエネルギー♡1個失う）

⇩203へ

221

「くだらない病気の事だ」とぼくは答えた。

「がっ……ちょ――ん！」老人はまたのけぞった。「――では、第3問!!」

「ちょ、ちょっと待った。そのナゾナゾって、いったいいくつあるんだ？」

「3万5千ほど用意してあるが……」

「がっ……ちょ――ん！」今度はぼくがのけぞった。こんなのにつき合ってたら時間の無駄(むだ)もいいところだ。

「他にこの橋を渡る方法はないの？」

「フム。お主が10ルピーくれるならばそれを通行税にして通してやろう」
●10ルピー持っている ……⇩206へ ●持っていない ……⇩60へ

222

扉を抜け、次の部屋に入っていく。
何もない部屋だ。石畳と壁に囲まれているだけ。肩をすくめた時、背後で扉が閉まった。
押しても引いてもビクともしない。開けるには、マジカルキーが必要なのだ。
●マジカルキーを持っている ⇩190へ ●持っていない ……⇩239へ

223

次の部屋は東西に長い水路がひかれていた。対岸にスタルフォスが2匹！ こいつは剣を操る(あやつ)ガイコツの兵士だ。そのうち1匹は、肋骨(ろっこつ)の中にマジカルロッドを入れている。
戦うには、水路の向こうへ渡らなければならない。ハシゴは持っている？
●YES ……⇩231へ ●NO ……⇩106へ

224 C

ぼくは左側の洞窟へ入っていった。

221～224

223●水路の対岸にガイコツ兵士・スタルフォスが２匹。
そのうち１匹は、肋骨の中にマジカルロッドを！

奥の闇の中に、ふたつの松明が灯り、赤い僧服の老人がいた。
「ハウディ、ナイスボ〜イ！」
突然ひょうきんな声で老人はいった。ぼくはひっくり返りそうになりながら怒鳴る。
「あ、あのねぇ。せっかくのシリアスなドラマを、あんたたちはいつも台無しにするんだからな」ぷんぷん。
「ほっほ。たまには息抜きも必要じゃて。ときにそこの青少年、何をおさがしかな」
「ぼくは魔将軍ガイアのいる蜃気楼城をさがして旅をしているんだ」
「蜃気楼城とな」老人は杖の先で地面の上に、無数の「の」の字を書き始めた。
「あの城は悪魔の城じゃ。いっさいの清浄、いっさいの善、いっさいの美を排し、暗黒界に君臨する魔王の棲み家。すなわちそれは、忌まわしき呪われし地にあるという事じゃ。わかる？　青少年」
「忌わしき呪われし地……」だがハイラル地方はガイアの呪いによって、その全土が呪われているじゃないか。
ふいに腰のポーチから、ファニーが顔を出した。『妖精の泉だけは例外よ、リンク』
そうか……。蜃気楼城は妖精の泉の近くには出現しないんだ！
「ありがとう、おじいさん」
「よいって事よ。達者でやってくれ。ところで、お主にとっておきのプレゼントを授けよ

う」老人はそういい、ぼくにマジカルロッドをくれた。（マジカルロッド入手）

「ところで、お主は誰じゃ？」

ぼくは出口の岩壁に額（ひたい）をぶつけ、外の坂道を転げ落ちていった。

⇩20へ

225

ぼくは砂の海に沈んでいた。

まわりの光景は陽炎（かげろう）のため、幻のように揺（ゆ）れている。そのユラユラ動く地平線から、人影が現われた。

こんな所を歩いているなんて、あの人は一体どうしたっていうんだろう？　ぼんやりと考えるうち、ぼくは気を失っていた。

しばらくして目を覚ました。ぼくは誰かに背負われていた。骨太で頑丈（がんじょう）な肩の上で、この人間がさっき見た人影と同一人物だとぼんやり思っていた。

「あと少しじゃ。辛抱（しんぼう）しろ」と声がした。

ぼくはまた意識を失った。

次に気がついた時、そこは暗い洞窟の中だった。松明（たいまつ）がふたつ灯（とも）り、赤い僧服の老人がすわっている。

「あなたは……」

「わしか？　わしゃ、ただのじいさまじゃよ。それよりもお前さん、元気になって何よりじゃった」

ぼくは助けてもらった礼を述(の)べた。

⇩211へ

226

頂(いただき)が鋭角に尖(とが)った山が、いくつも並んでいる。

ぼくはその間を歩いていった。

あたりはうっすらともやに包まれ、静寂に支配されている。

やがて頂上を、灰色の雲にスッポリと包まれた、ひときわ高い山が見えてきた。風が白いもやを吹き飛ばすと、その全景がよく見えるようになった。いくつもの峰が重なりながらできた山。その形ゆえにのこぎり山と呼ばれている高山だ。

ぼくはふもとまで歩いていった。岩場にふたつの洞窟があった。そこに入ってみようと思った。だが、厄介(やっかい)なヤツがいる。クモの化け物テクタイトだ。ファニーをポーチに隠し、ぼくは進む。

細長い4本足と、大きなひとつの目玉が気味悪い。そいつらは、何と5匹もいる。そして時折ピョンピョンと跳(と)んで、ぼくを威嚇(いかく)している。LIFEエネルギー♡は満杯？

●YES……⇩235へ　●NO……⇩63へ

227

東と西。どっちの扉から出る？

●東の扉……⇩128へ　●西の扉……⇩161へ

228

銀の矢は持っていない。普通の矢を射てもとても竜のいる所までは届かない。仕方なく、ぼくは剣を抜く。

LIFEエネルギーは満杯？

●YES……⇩74へ　●NO……⇩194へ

229 Ⓒ

しばらく歩き続けた。突然、行手を霧がおおい、あらゆる危険・障害を隠している。足元は背の低い草がビッシリ生え、白いカーテンの向こうで、フェイドアウトしている。『気をつけて、リンク！　何かが羽ばたく音がするわ』耳のいいファニーが、ポーチの中から警告してくれる。

何だろう？　剣を抜き、身構えた。

もやを突っ切って、ピーハットが出現した。花ビラを回転させ、空中を飛びまわる食肉

植物だ。触れるとダメージを食らう。気をつけなきゃ。
ぼくは剣を使い、霧の中からしつこく現われては襲ってくるピーハットどもと戦った。一度背後を取られ、毒針で腕を刺されてしまった！　かろうじてそいつを剣で突き刺し、ぼくはその場に倒れた。（LIFEエネルギー♡1個失う）
そのピーハットが最後の1匹だった。そのおかげで、ぼくは命拾いしたのだ。
何とか起き上がり、体を引きずるようにして歩き出す。
『リンク、大丈夫？』ファニーが飛びながら、ぼくを勇気づけてくれる。
その時、前方の白い闇の中。何かの影が立ちはだかり、ぼくを待ち受けていた。サッと風が吹き、ほんの一瞬だが、霧を追い払った。そしてぼくは、敵の姿を垣間見た。
いかつい小鬼モリブリンだ！
武器は？

●剣を使う……………⇩49へ　●矢を使う……………⇩140へ

230 C

数本の矢を放ち、きりがないと見るや、ぼくは霧にまぎれるゲリラ戦法をとった。動きの鈍いモリブリンどもに、剣をかまえて一太刀浴びせ、また霧に隠れて移動する。
怪物たちはアワを食い、同士討ちをするなどのパニックの中で、全滅していった。ヤツ

らの死体のそばに5ルピー光っていた。（5ルピー得る）
⇩33へ

231

折りたたみ式のハシゴを持っていた。
それを水路にかけ、向こうへ渡る。待ってましたとばかりに、ガイコツ兵・スタルフォスがかかってきた！
☆バトル0
基本ポイント　リンク（　）　スタルフォス（　）
276ページのバトル記号表を見て、0の数字を基本ポイントにプラス。
●勝った……………⇩119へ　●負けた……………⇩216へ

232 Ⓒ

5ルピー恵(めぐ)んでやった。（5ルピー失う）すると老人はこういって手紙をくれた。
「これをホラ穴に住むおばあさんに渡しなさい。何かを教えてくれるじゃろ。そしてもうひとつ、この洞窟をもっと奥に行くと、やがて山の反対側へ出る。そこに妖精の泉がある」
（手紙入手）その名をきいたとたん、ポーチの中でファニーが跳(と)び上がった。
「ありがとう、おじいさん」礼をいい、ぼくは洞窟の奥に向け、歩き出した。

「よいって事じゃ。ところでお主、誰だったかの？」
ぼくは岩壁に頭をぶつけた。
しばらく行くと、確かに山の反対側へ出た。そこは一面の野原。草花が咲き乱れ、蝶が舞っている。
「ファニー!!」ぼくは妖精を呼び出す。ポーチの中から飛び出した彼女は、嬉しそうにあたりを飛びまわる。
やがて泉に着いた。
そこはぼくにとってもファニーにとっても、心のやすらぐ泉だった。
（持てる♡の分だけLIFEエネルギーを満杯に）

⇩47へ

233 Ⓒ

カッと開いた大きな口。
ぼくはそこに向け、矢を射ち込んだ。触手の動きが一瞬止まった。が、すぐにこっちをめざして伸びてきた。きき目なしか！（LIFEエネルギー♡2個失う）
とっさに枯木の後ろに隠れる。いやらしい触手はその木に巻きつき、ぼくとカン違いしたのだろう、それをへし折って持っていった。

⇩82へ

234

☆バトルB

基本ポイント　リンク（　）　モリブリン（　）

276ページのバトル記号表を見てBの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……⇩247へ

●負けた……⇩180へ

235 Ⓒ

剣を抜き、ピョンピョンと目ざわりなテクタイトに切っ先を向ける。

剣は七色に光り、突如そこからビームがほとばしった！　化けグモどもはそれを食らい、次々と散っていった。ぼくはその横にマジックシールドを見つけた。（マジックシールド入手。チェックシートに記入）

⇩156へ

236

怒りに目を燃え上がらせた大鴉。ヤツにはすでに、人間の理性はなくなっていた。

そして——何て悲惨な結末なんだろう。ガイアはその巨大なクチバシで、ぼくとファニー、それに花嫁にするはずだったゼルダまでを捕らえ、ムシャムシャと食ってしまった。

UNHAPPY END

237

洞窟に入っていった。
ふたつの松明(たいまつ)の火に照らされ、老人がすわっているのが見える。
「わしは誰じゃ」と老人はいった。「ここはどこじゃ」
ぼくはムッとして彼に近寄り、落ちていた石で頭をポカリとやった。まるで表情が凍(こお)りついたように口をあけたまま、老人はバタリと倒れた。
しばらくして年寄りは息を吹き返した。
「すまない、おじいさん。さっき吊り橋でバカな魔術師を相手にしていたから、ついカッとなっちゃったんだ」
「――ああ。よいって事じゃ。実は最近、物忘れがひどくてな。ちょっと前の事も思い出せぬ。さっきは自分が誰かも忘れておった。お主のおかげで思い出したよ。ところでお主の名は？」
「リンク。魔将軍(ゼネラル)ガイアの蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)を探して旅をしているんだ」そして事情を説明した。
「ほう。蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)とな」老人はその名を知っているようだった。「それならヒントを教えよう。あの城はトライフォースが隠された場所には出現せんのじゃ。何故なら、トライフォースの力は、あの悪魔の城のパワーを崩壊(ほうかい)させるからじゃ」
ぼくはうなずいた。

「もっといいことを教えてやってもよい。ただし、5ルピー恵(めぐ)んでくれればのゥ」
●恵んでやる……………⇩232へ　●やらない……………⇩213へ

238 C

剣をかまえ、突こうとした。
そのとたん、ウォールマスターは音もなく、再び壁に没していった。
逃げたのか!?　ホッとしたとたん、そいつは床から出現した。あっという間にぼくは、その巨大な手につかまっていた。
「うーわー!」体がしびれ、動けなくなった。そしてぼくは妖怪につかまれたまま、いっしょに壁をぬけていった……。ドサリ!　やがてどこかに投げ出された。(LIFEエネルギー♡ー個失う)目の前に扉がある。それを開けて入っていった。　⇩80へ

239

完壁に閉じ込められてしまった。
四方の壁は、どんなに手を尽くしても開かない。ぼくはその場にすわり込み、これからの運命を想(おも)った。

END

240

さて、次の部屋へ行こう。
北と東の扉を選ばなきゃ。

●北の扉へ行く……⇩223へ　●東の扉へ行く……⇩7へ

241 C

テスチタートはてごわかった。
4本の巨大なハサミ、その攻撃もすさまじいが、ハサミから放たれる光球にも苦しめられた。
ぼくはじりじりと後退(あとずさ)りし、ついにその岩穴を逃げ出すことになった。命あってのものだねだ。(LIFEエネルギー♡1個失う)　⇩76へ

242

この部屋の扉は西と南にある。
どっちから出る?

●西から出る……⇩7へ　●南から出る……⇩142へ
●いや、待てよ、と思いとどまる……⇩21へ

240〜242

241●怪物テスチタートは、４つのハサミで攻撃してくる。とてもかなわない！　ぼくは逃げ出した。

243

ぼくはハシゴを使う事にした。
それを対岸の扉まで掛ける。ちょっと不安定だけど、何とかなりそうだ。
ハシゴを渡り始めた。頭上と足元で、異次元空間が渦を巻いている。落ちるとどうなるのだろう、とふと思ってしまう。
やがて反対側の扉に着いた。そこを開け、部屋へ入ってゆく。

⇩65へ

244 C

奥へ歩いていった。
松明がふたつ灯っている。その明かりで照らされた部屋に老婆がいた。
「あんたァ、誰ね？」と彼女はいった。
「ぼくはリンク。蜃気楼城を求めて旅をしています」
「そりゃ、えりゃー（えらい）ものォお探ししとられますな」
「あの城を知ってますか？」
「知っとるよ。あの城は時空を抜けて飛ぶ時に、七色のばりゃあ（バリヤー）を張っとーがや。そんだども。あのばりゃあはピーハットいう怪物が食べるがや。つまり、蜃気楼城は、ピーハットのおる所にゃあ出現せんがや」

そういえば、この山もピーハットがいたな。
「——ところで、あんた。じーさまからもろうた手紙。持っとーかや？」

●手紙を持っている……⇩77へ
●持っていない……⇩90へ

245

ガイアの表情が険悪になっている。
ゆっくりとイスを立ち、こちらへ足を踏み出した。
ぼくは銀の矢とマジカルロッドを持っている。どうすればいいんだ⁉
それを組み合わせてみた。十字架の形に！
そのとたん、まぶしい光が生じた。ガイアがうめいて、目をおおった。
今だ！　剣を抜き、ぼくは疾走した。
ガイアはカッと目を見開き、仁王立ちになった。

⇩24へ

246

イカダは潮流に乗って進んでいった。
波間に、時折、半魚人ゾーラの姿が見える。が、攻撃はしてこない。
念のため、ファニーにポーチに隠れているよういう。

東を見ると、陸地がある。南にも陸は見えるが、ずい分遠く、おぼろにかすんで見える。ちょうど東南の位置——蒼い山脈の背後に、三角形の建築物の突端が見える。ピラミッドだろうか？

●東へ向かう ⇩123へ ●南へ向かう ⇩174へ ●北へ向かう……⇩93へ

247 Ⓒ

群れをなして歩いているモリブリンに矢を放った。

最初の3本で3匹を倒したあたりから、奴らが逆襲してきた。敵の矢を巧みにかわしながら、ぼくはありったけの矢を射続けた。

やがてぼくは、弓を持つ手をおろした。そこらじゅうに、頭や胸を射抜かれたモリブリンの死体が転がっている。

ぼくは勝ったのだ。（LIFEエネルギー♡1個得る）

モリブリンの死体のそばに、5ルピーとマジカルロッドが落ちていた。（5ルピー得る。マジカルロッド入手。チェックシートに記入） ⇩33へ

248 Ⓒ

マジカルロッドを持った。

それをガイアに向けて突き出す。ロッドが光り輝き、呪文が矢となって放たれた。だがそれは魔将軍の手前で、無数のコウモリに変わり、反転してぼくを襲ってきた。
ファニーが悲鳴をあげて逃げまどう。ぼくは剣を振りまわしてコウモリたちを斬り落とす。(LIFEエネルギー♡1個失う)

●銀の矢を使う……⇩104へ
●ブーメラン(あれば)を使う ⇩147へ

249 Ⓒ

マジックシールドを持っていたのは、大きな強みだ。これは魔物たちのほとんどの攻撃から、ぼくを守ってくれる。
モリブリンの放つ矢も、例外じゃなかった。奴らは縦や横一列にならび、一勢に矢を放ってくる。
ぼくはシールドを前に立て、その攻撃をかわしながら逆襲に転じた。動きのにぶいモリブリンどもをやっつけるのに、時間はかからなかった。
ヤツらの死体のそばに5ルピーを見つけた。(LIFEエネルギー♡1個得る。5ルピー得る)
そしてぼくは、その場を後にして歩き出した。 ⇩33へ

250 Ⓒ

土煙が激しく舞い上がった。その中で、ぼくは見た！　今までいたあの丘が、ほんのわずかだが空中に浮き、左右にゆれながら移動していくのを。

いや、浮いているんじゃない。あれは4つの大きな足に支えられているんだ。

何と丘は、1匹の巨大なカメの甲だった！

そいつは背中にある森の木々を揺らしながらノッシノッシと歩いてゆく。後には大きな足跡が点々と残っている。ふと見ると3ルピー落ちていた（3ルピー得る）

大亀が遠くに去ると、ぼくはハッと我に返った。

●北へ……………⇩264へ　●東へ　……………⇩50へ　●西へ……………⇩269へ

251 Ⓒ

中心のボスをねらった。

が、まわりを飛ぶ子分の目玉にはばまれ、うまく行かない。そのうち子分どもの攻撃が激しくなってきた。縦横無尽に飛びまわり、体当たりしてくる！

ぶつかるたびに、ぼくの体力は干上がってゆく。くそっ、これじゃ袋叩きだ！　（L－FEエネルギー♡2個失う）ぼくはあわてて逃げ出した。

250〜251

250●舞い上がる土煙の中で、ぼくは見た。その丘は左右にゆれながら歩いていく。何と巨大なカメだ！

●南の扉へ……………………⇩69へ
●西の扉へ……………………⇩11へ

252 C

東の壁にバクダンを置いた。
火柱と轟音。そして——そこにポッカリと穴が開いた！（バクダン1個失う）⇩94へ

253 C

よく見ると、テクタイトは単調な動きをしている。一度ジャンプすると、次のジャンプまで時間がかかるのだ。
ぼくは大グモが跳(と)びはねた直後に接近し、背後から斬(き)りつけた。2匹をあっという間に倒(たお)すと、残った1匹は逃げていった。後には5ルピーとマジックシールドが落ちていた。
（LIFEエネルギー♡1個得る。5ルピー得る。マジックシールド入手）⇩156へ

254

歩いているうちに、西の地平線の向こうに太陽が沈み始めた。
少しでも旅を先へ進めようと、ぼくは急いで歩く。だが無慈悲な光の天子は、ついにその姿をかくしてしまった。
ぼくはその場に、ガックリとひざまずいた。
両の手のひらが透けていく。やがて残光が消えると共に、ぼくの体は煙のように消えていく。
(リンクはクリスタルムーンの中へ。そしてゼルダが入れ代わりに出現します)
潮の匂いの中で、あたしは意識を取り戻した。
夜空に星がきらめいている。そよ風がまた潮の香りを運んできた。海があるんだ。
『気がついた？　ゼルダ』
ファニーの声。あたりを見まわすと、その妖精はかたわらに立っていた。透明な羽根を風にそよがせている。
『リンクは消えちゃったよ』と、悲しげな顔。
あたしはうなずいた。そしてファニーを拾ってポーチに入れ、歩き出した。⇩363へ

255

東の谷間から朝の光がかすかにさし始めた。その淡い輝きの中で、あたしは大地に身を横たえた。意識がしだいに薄れてゆく。

(ゼルダはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わりにリンクが出現します)

朝霧が森の中を、ゆっくりと流れていた。

日の光が目に差し込み、やけにまぶしい。

ほほについた枯草を手で落とし、ぼくはファニーをさがした。

⇩165へ

256

山の輪郭(りんかく)が、白々と明け始めた空をバックに、くっきりと浮かんでいる。

あたしは大地にそっと身を横たえた。あとはリンクにまかせよう……。

(ゼルダはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わってリンクが出現します)

ぼくは意識を取り戻した。

砂にまみれた体を起こし、あたりの様子をうかがう。

⇩50へ

257

黄昏(たそがれ)の残光(ざんこう)の中で、ぼくは砂地に腰を降(お)ろす。ポーチの中にいるファニーを外に出し、

ゼルダへの伝言を話す。
そしてまた、静かに眠(ねむ)る時がきた。
(リンクはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わってゼルダが出現します)
夜風が心地よかった。
あたしは目を開け、天空に輝く星を見ている。かたわらにファニーが舞い降りてきた。
「お早よう、ファニー。リンクは元気だった?」
あたしは会えないリンクからの伝言を、この小さなメッセンジャーにきいた。

⇩342へ

258

原野に日が沈む。太陽は真っ赤にそまり、巨大にふくれ上がって山の向こうに没してゆく。
ぼくは肉体と意識の消滅(しょうめつ)の中で、まるで死の直前にそうするように——過去の回想を始めていた。
(リンクはクリスタルムーンに吸い込まれ、代わりにゼルダが出現します)
降(ふ)るような星の下。あたしは意識を取り戻した。そっと身を起こし、あたりを見まわしてみた。

⇩330へ

259

ぼくは絶望の眼差しで夕陽を見つめた。これで何度目だろう。そしてこの先何度、ぼくはこの絶望の眠りに落ち込むのか……。

（リンクはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わってゼルダが出現します）

きれいな小川がすぐそばにあった。まだこんな所が残っていたのか。

あたしは身を起こし、歩いていった。両手に冷水をすくい、口に運ぶ。澄んだ水が、あたしに生気を与えてくれる。

星空を見上げ、そして背後をふり返る。草むらにクリスタルムーンが置かれ、そのそばにファニーがすわっていた。

⇩360へ

260

東の空がしらみ始めた。

あたしはポーチの中で眠（ねむ）っているファニーを起こす。

「ファニー、あたしはもう消えるわ。リンクに伝えてほしいことがいろいろあるの」

妖精はうなずいた。

すべてを話し終えてから、あたしはイカダの上で横になる。

（ゼルダはクリスタルムーンの中に。代わりにリンクが出現します）

背中が塩水に濡れ、気味が悪い。ぼくは悪態をつき、寝返りを打とうとした。
『キャッ！』ファニーの声。おっとっと、危ない。ファニーを背中で押しつぶすところだった。
『んもう。気をつけてよ、リンク』口をとがらせた彼女にあやまり、あたりを見まわす。
海また海。太陽の位置でかろうじて方角はわかった。

⇩246へ

261 C

日が暮れ始めた。
ぼくはすべてをゼルダにまかせ、また眠りにつかなければならない。
ファニーに伝言を話し、そして大地に横たわる。体がスッと消えてゆく。
(リンクはクリスタルムーンに吸い込まれ、代わってゼルダが出現します)
夜になった。
あたしは立ち上がり、あたりの様子をうかがう。
黒い森。風にゆれる木々の枝。
『ゼルダ！』ファニーが、その森の方角から飛んできた。
「どうしたの？」手のひらに彼女をとまらせ、あたしはきいた。
『ここは魔女の森よ。入ったら危ないわ』

「うん。でも危険な所ほど、役に立つものがあるのよ。行ってみなくちゃ」
あたしはファニーの制止をふり切り、歩き出した。
森の中にふみ込み、進んでゆく。ファニーはポーチの中に引っ込み、蓋（ふた）を閉じてしまっている。
ふいにあたしは足を止めた。樹液や葉群（はむら）の臭いが、ツンと鼻を突く。さっきまで聞こえていた虫の声が、パッタリと止んだ。
近くの木立の影に、白いもやが3つ見えた。それは音もなく近づいてきた。
黒髪を肩まで垂らした3人の女。白く見えるのはその服だ。彼女たちは木綿で作られたらしい白い衣を着ている。それはカーテンのように長く、足首まであった。
「よく来たわね、ゼルダ」3人が同時にしゃべった。
「この魔女の森が、お前の旅の最後の地よ」
3人は両手を天にかざし、呪文をとなえ始めた！ そう。魔女っていうのはこいつらなんだ。「ウッ！」そのとたん、あたしの体から力がぬけていく。（LIFEエネルギー♡ー個失う）
マジックシールドはある？

●YES ……………⇩318へ ●NO ……………⇩332へ

262

山岳地帯を出、森をぬけて歩いてゆくうちに、日が沈み始めた。
また時が来た。ぼくは湖を見下す高台にすわる。夕陽が湖面に映え、照り返しが美しくきらめく。
（ここでリンクはクリスタルムーンに吸い込まれ、ゼルダが代わりに出現します）
あたしは目覚め、起き上がった。
いつもの事だが、かたわらに置いてあるクリスタルムーンを確かめ、そしてファニーにあいさつする。

⇩343へ

263

夜明けの淡い光の中で、あたしは大地に横たわった。
『お休みなさい、ゼルダ姫』薄れゆく意識の中、ファニーの声がかすかに響いた。
（ゼルダはクリスタルムーンの中に入り、代わってリンクが出現します）
ゴツゴツした岩の感触。ぼくはその不快さに思わずうめき声を上げていた。
目を開けると、そこは荒涼とした岩石地帯だった。地表は固い岩でおおわれ、遠くにはもうもうと煙を上げる火山があった。

⇩145へ

264

やがて山の向こうに、西陽が沈んでいった。眠りにつく前に、ぼくは今日得た情報をすべてファニーにたくした。

(リンクはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わってゼルダが出現します)

あたしは草原の真ん中に横たわっていた。

あれからもう半日たったのだ。

クリスタルムーンの中にいる時は、眠っている時と同じ。

意識がなく、時間の感覚もない。そして、いつも目覚めると妖精ファニーが心配そうにあたしを見つめている。

「リンクは無事だった?」あたしの質問もいつも同じ。そしてファニーもにっこりとうなずく。

⇩361へ

265

星々の最後の輝きが消えた。

あたしは足をとめる。あたりは荒れ果てた原野。ドラゴンの歯のような岩が、地面から無数に突き出している。

腰のポーチからファニーを出した。

『眠(ねむ)っちゃうのね、ゼルダ』
あたしはうなずき、岩に背をもたれてすわる。やがて意識の中に無がおとずれてくる。
(ゼルダは消え、リンクがクリスタルムーンから現われます)
ぼくが意識を取り戻した時、かたわらの岩の上にファニーがすわっていた。悲しげな表情。ゆっくり身を起こし、手のひらをさし出す。ファニーは羽ばたいて飛んでくる。
「よう、相棒(あいぼう)」と、ぼくはやさしく声をかけた。

⇩28へ

266

東の空が黒から灰色、そして青に変わり始めた。あたしは大地に腰を降(お)ろし、とうとうハイラルの果てまで来てしまった事を想った。リンクがここで、蜃気楼城(ミラージュキャッスル)を見つけてくれたら……。
(ゼルダはここでクリスタルムーンに吸い込まれ、代わってリンクが出現します)
ぼくは意識を取り戻した。
『リンク、目が覚めた?』ファニーのテレパシーが頭に入ってきた。彼女は地面に転がるクリスタルムーンのそばにいた。
『もうここは最果(さいは)ての地よ』
うなずいて、あたりを見まわす。朝霧にかすむ平原。この美しい光景も、やがてガイア

の魔力によって滅んでゆく。

⇩110へ

267

北に見える山々は、頂きに雪をかぶっていた。ずい分と高い所まで来たようだ。朝日の中で、その雪の白さがきわだつようになった。あたしは荒い岩肌にもたれてすわる。リンク……後はよろしくね。

(ゼルダはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わってリンクが出現します)

寒さに身をすくめ、ぼくは起き上がる。

遠くに見える山々は、白い帽子をかぶっているようだ。ゼルダのヤツ、ずい分と高い所まで来たんだなあ。

ぼくはクリスタルムーンを拾い、首にかける。やがてファニーがもどってきた。その小さな両手一杯に、木の実を抱えている。

●さらに高地へ ………⇩186へ　●低地へ降りる ………⇩16へ

268

やがて眠りの時がおとずれた。

白々と明け始める東の空を見ながら、あたしは横たわり、そして目を閉じた。

（ゼルダはクリスタルムーンに吸い込まれ、代わりにリンクが出現します）
朝もやの中、小鳥のさえずりが聞こえる。
ぼくは立ち上がってほこりを払い、落ちているクリスタルムーンを拾う。朝日がその水晶球に当たり、美しく輝いている。
地面にはゼルダの足跡が残っていた。それは今、ぼくが立つ場所で途切れている。
崖の下を、岩場に沿って歩いていく。やがて道は登り坂になり、てっぺんまで行くと吊り橋が見えた。
切り立った深い崖。谷をはさんだふたつの岩壁を、吊り橋は結んでいる。

●吊り橋を渡る　……………⇩139へ　●様子を見る　…………………⇩75へ

269

やがて日が沈み始めた。
ぼくは胸にかけていたクリスタルムーンを地面に置き、妖精ファニーをそのかたわらにすわらせた。
同時に体がスッと透き通るのがわかった——。
（リンクはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わりにゼルダ姫が出て来ます）
あたしはハッと目覚めた。

ファニーが、夜霧に濡れたほほをなでてくれた。地面に落ちているクリスタルムーンを拾う。リンクは無事なんだろうか？

⇩３２７へ

２７０

あたしはあてのない旅を続けた。いくつもの森、いくつもの河、いくつもの山を越えた。

そして東の空に光が差し始め、またリンクと旅を交代する時が来たのを知った。

（ゼルダはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わりにリンクが出現します）

まぶしい陽光の中でぼくは目覚めた。

早朝にもかかわらず、照りつける日射しが強い。ぼくは額に汗を浮かべている。まわりに草木が１本もないのに気づいた。

⇩８８へ

２７１

やがて東の空がほんのりと明るくなった。

あたしはその場にすわり込み、意識を失っていくのを感じている。

（ゼルダはクリスタルムーンの中に消え、代わりにそこからリンクが現われます）

ぼくは地面に横たわっていた。頭には落ち葉がつき、ほほに土がこびりついている。

「やあ、ファニー」

ぼくは頭上を飛んでいるファニーにあいさつをする。彼女はニッコリ笑うと、音もなく羽ばたき、ぼくの肩の上にとまった。

⇩226へ

272

夜明け。あたしは歩みを止め、東の空に差す薄日をぼんやりと見つめた。
地面にすわり、ファニーをポーチから出してあげる。これからの旅は、またリンクと交代する事になる。悲しいけれど、これが定められた運命。
(ここでゼルダはクリスタルムーンに吸い込まれ、代わってリンクが出現します)
目覚めたぼくは、ゆっくりと立ち上がった。ゼルダ姫の夢を見ていた。この皮肉な運命の中で、ぼくは彼女に夢でしか会えないのだ。

⇩41へ

273

太陽はあっという間にかたむき、山の後に沈んでいった。
ぼくはファニーに、ゼルダへの伝言と情報をたくし、そして深い眠りに落ちた。
(ここでリンクはクリスタルムーンに吸い込まれ、代わってゼルダが出現します)
目の前に夜の森が広がっていた。
あるのは暗い木立と虫の声。そして星明かりばかり。クリスタルムーンを首にかけ、あ

たしはファニーの姿をさがした——。

⇩298へ

274

西の空の残光が、さらに淡くなってゆく。ぼくは自分の時間がなくなったのを知った。眠りに落ちる前に、胸にかけた水晶球をはずし、ポーチからファニーを出す。そして彼女に、ゼルダへの伝言をいった。

(リンクはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わりにゼルダが出現します)

あたしは意識を取り戻していった。

ひんやりとした空気。夜気の冷たさではあるが、それ以上のものがある。ここは高地だろう、と見当をつけた。

⇩325へ

275

歩みをとめ、ぼくは小高い丘の後ろに沈む夕陽を見つめた。また旅をゼルダにまかせなきゃならない。

「ファニー、よろしく頼むよ」そういってぼくは、クリスタルムーンを地面に置いた。妖精は羽ばたきながら宙を舞い、消えてゆくぼくを見守っている。

(リンクは消え、代わってゼルダがクリスタルムーンから出て来ます)

眠(ねむ)りの中から、あたしは蘇(よみが)えった。
ゆっくりと上半身を起こし、夜の闇を見つめる。
『ゼルダ、大丈夫？』頭の中にファニーの声が響いた。あたしはふり返る。近くの木の枝に、彼女はすわっていた。

⇩321へ

276

荒波に揺(ゆ)れるイカダの上。ぼくは水平線に沈む夕陽を見つめている。
『リンク……、ゼルダへのメッセージは？』
ぼくはファニーに向き直り、今日一日の旅で得た情報をたくした。そして――
自分の体が消えていく感覚。苦痛はない。だが、苦難の旅をゼルダにまかせなきゃならない事が辛い。
（ここでリンクは、クリスタルムーンの中へ、代わってゼルダが現われます）
体がゆっくりと上下に揺れている。
目を開けると、あたしは海の上にいる事を知った。横たわっているのはイカダの上だ。
満天の星、そして暗い海。流れ星が音もなく空から滑り落ちる。
そばにいるファニーが、リンクの旅の事を語ってくれた。

⇩288へ

277

夜明け……。
あたしは疲れ切った体を大地に横たえ、眠(ねむ)りの中に沈んでゆくのを待った。あとはリンクにまかせよう。きっと彼なら蜃気楼城(ミラージューキャッスル)までの道(ルート)を見つけてくれるにちがいない。
(ゼルダはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わってリンクが出現します)
『リンク、目を覚まして』
妖精の声でぼくは我に返った。
「ゼルダは無事だったかい?」起き上がってそうきくと、ファニーはうなずいた。
そして再び、ぼくの旅が始まった——。

⇩229へ

278 C

襲いかかるギーニの群れ。
あたしはたくみに身をかわしながら走った。
ギーニにふれると石になってしまう。フワリフワリと変幻自在に飛びまわるヤツらをかわすのは、楽じゃなかった。
目ざす本体は……いた！　ニセ物どもの中にまじっているけど、ひときわ大きく、目立っている。そして他のヤツらほど激しく動かない。
あたしはセラミック鋼の剣、ホワイトソードをかまえ、そいつに斬りつけた。
地の底から響くような絶叫！
一瞬後にはギーニたちは、無数の青白い人魂と化し、それぞれの墓石の中に吸い込まれていた。（LIFEエネルギー♡3個得る。５ルピー得る）
『やったぁー』ファニーがポーチから顔を出し、喜びの声を上げる。地上世界で最強の敵を、あたしはやっつけたのだ。
そして、今、目の前の墓石が倒れ、そこに人が通れるくらいの穴が開いている。
ひょっとしてこれは……。

●入ってみる……⇩３７９へ　●入らない……⇩３８７へ

279

あたしはファニーと共に、その明かりに導かれるように、木の洞(うろ)に入っていった。
松明(たいまつ)が燃えている。そのそばに、赤い僧服を着た老人がすわっている。
「お前は誰じゃ」暗がりに声が響いた。
「あたしはゼルダ。蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)を求めて旅する者」
「何、蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)とな!?」
「知っているの!?　おじいさん」
老人はじっと腕組みをし、そしてこっちに向き直った。「全然知らん」
なんなのよ、このじいさんは!!　あたしはクルリときびすを返し、その場を去ろうとした。
「――ただし、お前さんが魔将軍(ゼネラル)ガイアをさがしておるのなら、少しは役に立つ事もあるがの」
「え？」あたしは立ち止まった。
「ヤツはお前さんの国の秘宝トライフォースを奪ったそうじゃな。だが、あやつは自分の手でそのトライフォースに触れる事はできん。つまり、ガイアはトライフォースを自分の城から離れた所に隠しているんじゃよ」
「という事は、蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)とトライフォースは別々の場所にあるのね」

「ふむ、ときにゼルダ姫。この木のそばにある墓石の下に、商人がおる。よければ立ち寄って、何かこうてやってくれ」
あたしは礼をいい、木の穴から外へ出た。

⇩390へ

280

橋を渡り始めた。
足を踏みだすたびにグラグラゆれる。橋の梁に打ち寄せる波の音がする。
その時、波間に黒い影が浮かんだ。光る眼が、こちらを見すえている。半魚人ゾーラだ。3匹いた！
LIFEエネルギーは満杯か？

●YES ……………⇩351へ
●NO ……………⇩340へ

281

あたしは4匹目をねらい、弓を引きしぼる。
その時だ。ぬるっとした冷たい手が、右足首をつかむ。悲鳴をあげる間もなかった。
気がついた時、あたしは海中に引きずり込まれていた。
何とか海面に浮き上がろうとした。が、どうあがいても、水中はゾーラたちの天下。あ

たしは逃がれようがない。あたしの体は、海底深く沈んでゆく……。
腰の剣をぬこうとしたけど、もはや力は残っていない。

END

282

ところがとんだドジ。
あわてすぎたあたしは、剣を持つ手を滑らせてしまった！　頼みの武器は砂の斜面を転がり落ちてゆく。
リーバーは勝ち誇ったように体を震わせ、あたしの脚(あし)に触手を巻きつけた。ものすごい力。あたしは力尽き、砂の中に引きずり込まれてゆく。そしてあたしの意識の消滅(しょうめつ)と同時に、蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)も消えていく……。

END

283 C

あたしは老人に5ルピー恵(めぐ)んでやった。（5ルピー失う）
すると彼は、あたしにバイブルをくれた！　（バイブル入手、アイテムチェックシート

に記入）

礼をいって、その洞を出る。　⇩309へ

284

その場を離れる事にし、また森の中を歩き出した。
しかし、少したって再び足を止めることになってしまった。前方の木立の後ろ、繁みの中に、赤いゼリー状のものが見えた。
剣をぬき、ゆっくりと近づく。リーバーだ！　砂地に棲む陸のイソギンチャクだ。まさかこんな場所にいるとは！
先へ行くにはやっつけるしかない。
あたしは剣をかまえた。

☆バトルK

基本ポイント　ゼルダ（　）リーバー（　）

276ページのバトル記号表を見て、Kの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……⇩369へ　●負けた……⇩307へ

285

バクダンの手持ちがない。
あたしはしかたなく、その頼りになる武器をさがしにいく事にした。（バクダンはこのピラミッドのどこかにあります）

⇩397へ

286

森は果てしなく続いていた。
あたしはひたすら歩き続ける。ひょっとして、このまま永遠に、森をさまよう事になるのかもしれない。そんな疑念が心に浮かぶ。
その時、背後から、奇妙な音が聞こえた。何かが羽ばたくような音。ふりむくと、木々の間から、ピーハットが姿を現わした。
空を飛ぶ人食い花だ。４匹もいる！
無駄なエネルギーは使いたくない。あたしは走ってその場を逃げだした。
木々の間を抜け、ひたすら走り続けた。そして再びふり返る。ピーハットの姿はなかった。
だが……。何だか森の様子が変だ。一度通ったことがあるような気がする。とにかくもうすこし歩いてみよう。

⇩314へ

287

蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)は消滅(しょうめつ)した。再び時空の間(はざま)に吸い込まれたのだ。消えた後の空間は、いつまでも七色に輝いている。

その時、あたしの体が宙に浮いた。まるで見えない巨大な手が、あたしをつかんで投げ飛ばしたように。

そう。城が消えた空間の穴に、あたしは引き込まれようとしているのだ！

LIFEエネルギー♡は5個以上ある？

●YES……………⇩365へ　●NO……………⇩345へ

288

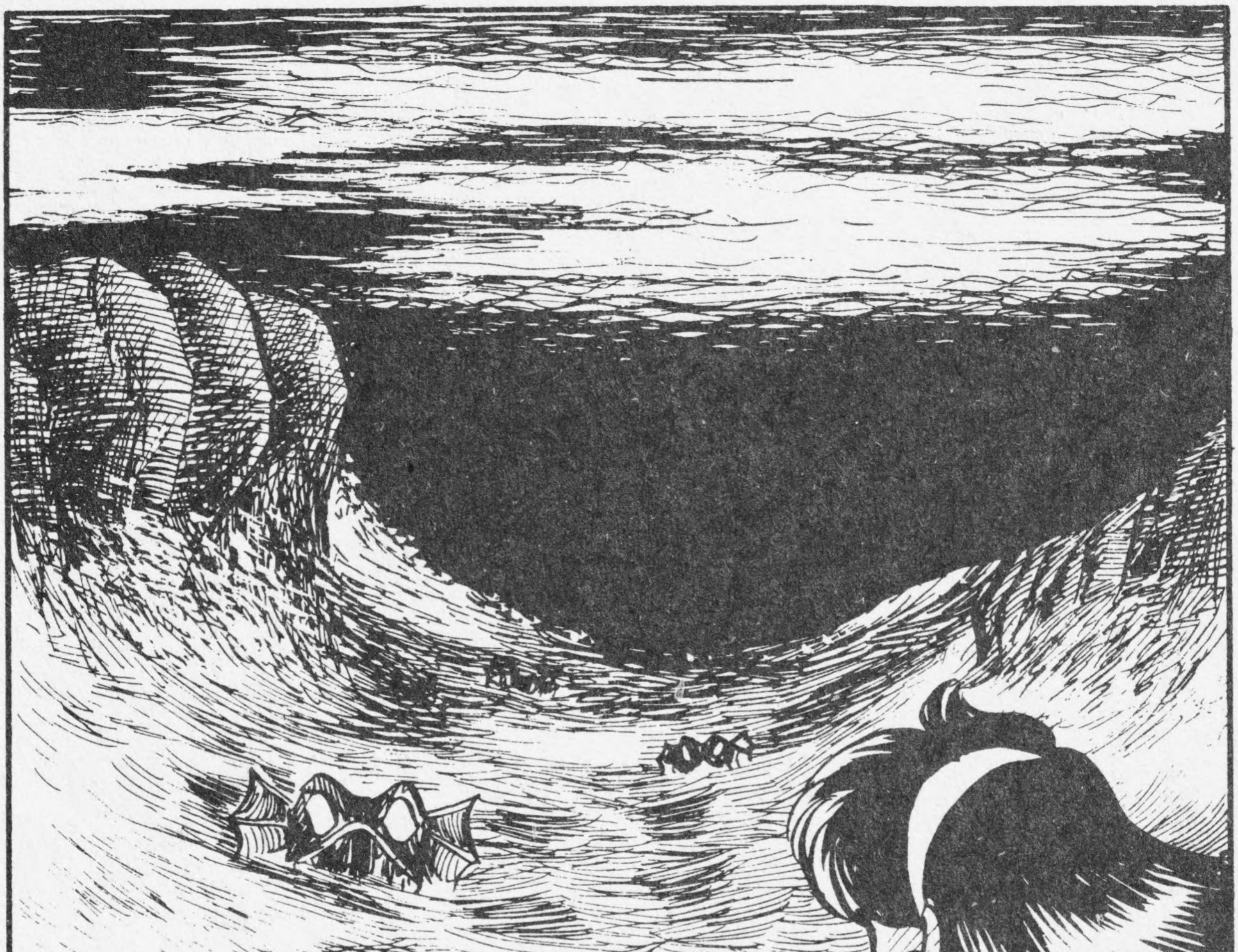
イカダは海流に乗り、どこまでも流れていった。

風はなぎ、波は静かになっていた。

頭上を一群の海鳥が舞っている。

と、突然その鳥たちが一勢に飛び散り、遠くへ去った。見る見る波が荒れてゆき、あたしの乗ったイカダのまわりに、しぶきが上がった！

その時だ。波間で何かがゆらめき、海上を光の球が走ってきた。とっさによけたあたし。目をこらして見ると、海面に半魚人の顔。ゾーラだ。あれが吐き出す光の球に触れると、



288●海鳥が突然飛び去った。その時だ。波間に何かが浮かび上がった。半魚人・ゾーラだ。危ない!!

エネルギーをうばわれてしまう。

ファニーがあわてて、ポーチの中に飛び込んだ。

よく見ると、イカダのまわりに無数のゾーラがいた。いつのまにか取り囲まれていたんだ！

この危機をどう乗り切る？

●♡は満杯になっている……⇩388へ

●♡は満杯ではない…………⇩336へ

289

崖下に続く坂道があった。

あたしはそこを下り、森へ分け入った。

ムッとする湿気の中、星の明かりだけを頼りに進んでいく。すぐそこに泉が！

ガッツン!!　出しぬけに額（ひたい）が何かにぶつかり、あたしはその場に倒れた。痛た……。立ち上がって前を見る。枝にでもぶつかったのかしら。

気を取り直し、また歩き出す。

ガッツーン!!　目から火花が出る。

あたしは同じ所に同じ姿勢で倒れた。何なんだろう？　もう一度立ち上がった。枝なんてない。

手をそっと伸ばしてみる。すると、そこに目に見えない壁がある。左右に移動してみても、やはり透明な壁は続いている。上もきっとずい分高い所まであるんだろう。
泉はすぐそこだっていうのに、何て事なのよ！　そうだ。ファニーに聞いてみよう。
あたしはポーチの蓋を開け、妖精の名を呼んだ。
「ファニー、泉がすぐそこにあるわ。でも見えない壁があって進めないの。どうすればいいの？」
彼女は眠そうに目をこすり、それから答えた。
『これは空間がズレているのよ。断ち切られたまま、わずかにズレてくっついているの』
「どうすれば向こうへ行ける？」
『バイブルの呪文がいるわ』
他に方法はないようだった。バイブルを持っている？
●YES ……………⇩306へ　●NO ……………………⇩359へ

290 C

真ん中の魔女だ。ほかは幻にちがいない。
あたしは真一文字にかまえた剣をふり降ろした。すさまじい絶叫。女は白い衣を血に染め、倒れた。するとどうだ。左右にいた、ほかのふたりは煙のように消えてしまったのだ。

あたしは魔女の落とした5ルピーを拾い、歩き出す。（5ルピー得る）

⇩294へ

291 C

あたしは剣をかまえ、アモスをむかえ撃つ。
敵の攻撃は鋭いが、動作が鈍い。
勝つにはそこにつけこむしかない。
だが敵は多すぎた。
4体倒すまでに2度も斬りつけられた。（LIFEエネルギー♡2個失う）あたしは腕の傷口を押え、剣を握り直した。
死にもの狂いの攻撃。やっとアモスを全部倒したあたしは、その場にへたり込む。

⇩315へ

292 [C]

次の部屋。
真っ暗で何も見えない。
闇に目が慣れてきた。扉がふたつ見える。その隙間(すきま)から差す光によって、扉の色がかろうじてわかる。1枚は黄、1枚は紫。そのふたつの扉の間に何かある。バクダンだ。(バクダン3個得る)
どっちかの部屋から、ものすごいうなり声が聞こえる。

●紫の扉へ……⇩374へ　●黄の扉へ……⇩308へ

293 [C]

あたしはマジカルロッドを使うことにした。
その魔法のツエをラネモーラに向けた。
ロッドは光り輝き、怪物に向けて光の矢を飛ばす。ラネモーラはのたうちまわる。呪文が光と化して飛んでゆくのだ。
剣でトドメを刺すと、大ムカデはルピーを5個口から吐き、息絶えた。(5ルピー得る)

●崖の洞窟へ行く……⇩357へ　●滝へ行く……⇩333へ
●この場を去る……⇩302へ

294

森の中を歩き続けた。
近くに見える大木に洞(うろ)があり、明かりが灯(とも)っている。行ってみる?
●YES……………⇩320へ　●NO……………⇩309へ

295 C

マジックシールドで、ライネルのビームから身を守った。よし、反撃できるぞ!
あたしはシールドをかざしたまま、ライネルにかかっていく。
怪物の脇をつらぬき、いったん逃げてはまた攻撃をくわえる。ついにライネルは倒れた。
あたしはその怪物が落とした7ルピーを拾い、竜巻をよけるため、岩陰へ戻った。(LIFEエネルギー♡2個得る。7ルピー得る)
⇩328へ

296

片手で腰の剣をぬく。これは相当不利な戦いになりそう……。
☆バトルー
基本ポイント　リンク(　)　リーバー(　)
276ページのバトル記号表を見て、Iの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……………⇩393へ　●負けた……………⇩282へ

297 C

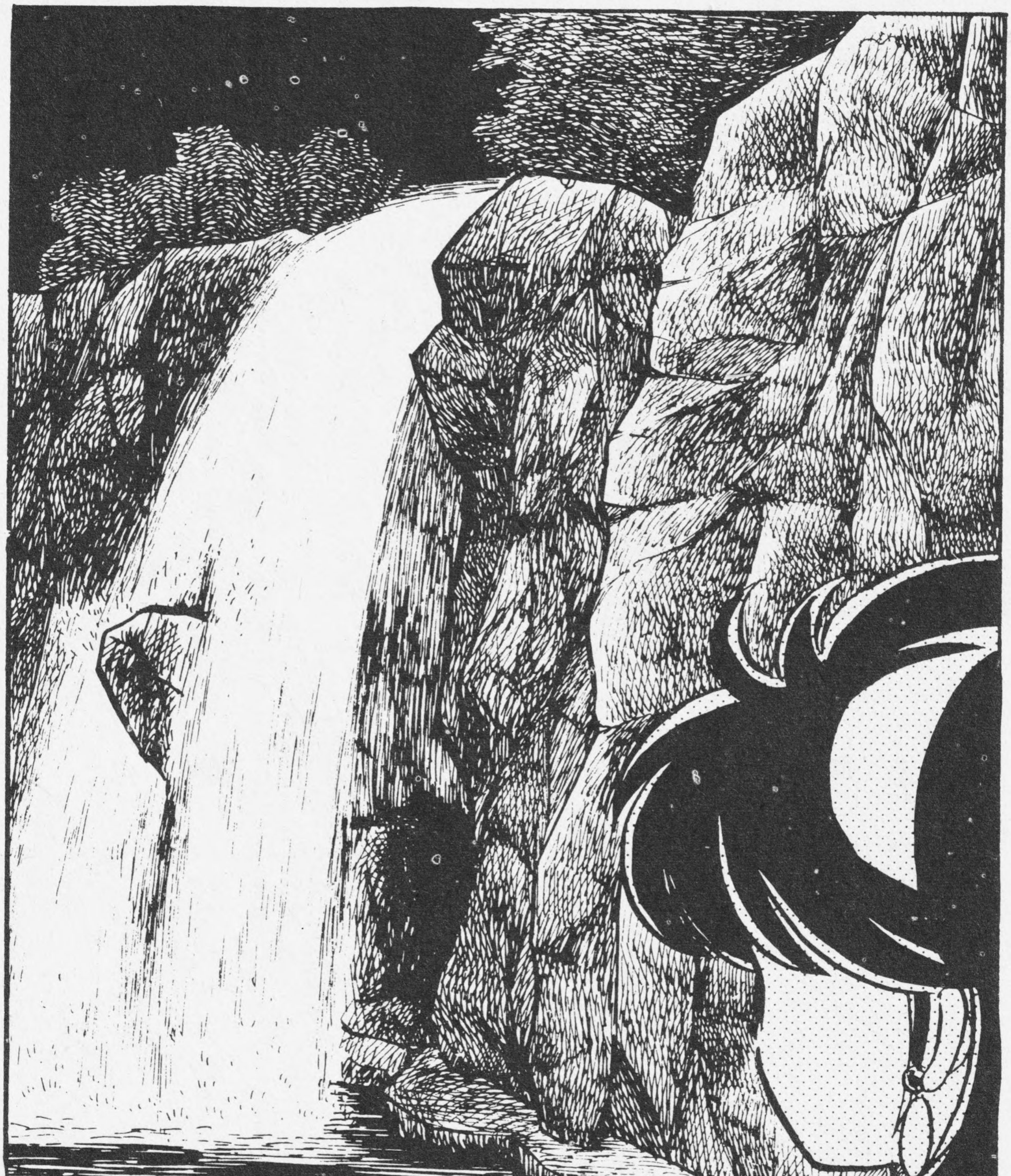
「ええイ!!」気合いをこめ、あたしは次々と死人(ゾンビ)どもを斬(き)り払った。
押し寄せてくる疲労もさる事ながら、奴らの巻き散らす血と腐汁の悪臭ときたら……。
やっと全員倒した時は、あたしは勝ったといううれしさよりも、嫌悪感(けんおかん)にさいなまれている自分に気づいた。（LIFEエネルギー♡1個得る。4ルピー得る）
ため息をつき、剣を収め、ファニーの入っているポーチを開けてみる。彼女はその中で目をまわして気絶していた。美しい泉に棲(す)んでいた妖精だから、あたし以上に臭気に弱かったんだろう。

⇩300へ

298

1本の河が流れている。
それに沿って歩いていった。水の流れる音は戦いに疲れた心に安らぎを与えてくれる。いつまでもこの音に耳をかたむけていたかった。
やがて大きな滝に出くわした。眼前の崖の上から落ち、途中で2つに分かれている。飛び散る水しぶきが、霧状になって漂(ただよ)っている。太陽の下で見れば、きっと虹がかかってい

296〜298



298●河に沿って歩いていくと、大きな滝に行きついた。
水しぶきが霧となって舞っている。もしや……？

るだろう。
あたしのそばには、大きな老木があった。
また、滝のある岩場には洞窟が見えるが——。

●木の様子をさぐる……⇩313へ
●洞窟へ入ってみる……⇩357へ
●滝へ行ってみる……⇩333へ

299

あたしは崖の道を登っていった。……⇩341へ

300

街の出口へ来たあたし。
四方を見渡してみた。
北は険(けわ)しい山脈。南は湿地帯。東は岩場が続く荒野。西は海。
さて、どっちへ行けばいいかしら?

●北へ行く……⇩271へ
●南へ行く……⇩277へ
●東へ行く……⇩263へ
●西へ行く……⇩363へ

301

マジカルロッドを持っている？

●YES……………⇩293へ　●NO………………⇩380へ

302

あたしはこの場を去り、また夜の世界を旅し続けた。

●北へ……⇩267へ　●南へ……⇩268へ　●西へ……⇩325へ

303 C

マジックシールドでビームをはね返し、スキを見て剣で突く。ただ一筋縄（ひとすじなわ）じゃいかない。アクオメンタスは、地下世界でもトップクラスの強敵。

いくらシールドが効くとはいえ、恐ろしいビームをたて続けに食らうと、衝撃でふっ飛ばされそうになってしまう。

アクオメンタスの急所を何度も突き、やっとトドメを刺した時、あたしは疲労（ひろう）のあまりにその場にへたり込んでしまった。足もとにルピーが5個落ちている。（5ルピー得る）

黒と紫の扉、どちらへ行く？

●黒の扉へ……………⇩397へ　●紫の扉へ……………⇩292へ

304 C

腰のさやから、ホワイトソードを引き抜いた。ゾンビたちの動きが、一瞬止まる。先手必勝だ。

剣をまっすぐふりかざし、あたしはかかっていった。先頭の死人（ゾンビ）の頭をはね飛ばし、返す刀で右どなりの首を斬り落とす。

全員を倒した時、あたしはどす黒い返り血を浴び、剣を地につけて体を支えていた。肩で息をしながら、しばらく休んだ。ふと見ると、倒れたゾンビの側にマジックシールドとルピーが5個落ちていた。（マジックシールド入手。ルピー5個得る）

⇩300へ

305

手紙はありません、と答えるしかなかった。

「あたしゃーハイラル一ガンコなばーさまだがや。手紙がにゃーと（ないと）絶対何も教えてやらにゃーでよ（教えてやらないよ）」

それっきり老婆は、貝のようにピタリと口を閉ざしてしまった。おしとやかなお姫様の(!?)あたしとしては、老婆の口を無理に割らせるわけにもいかない。

仕方なくこの場を立ち去る事にした。

⇩373へ

306 C

あたしはバイブルを取り出した。

空間の断層に向け、それをかざしてみる。するとどうだ。バイブルは、突如、赤い光を発したかと思うと、前方に光のシャワーを降らせた。

一瞬のち、稲妻が真近に落ちたような音がし、大地がゆれた。

『もう大丈夫だよ』ファニーがいった。

あたしは歩き出した。今度は何の抵抗もなく通りぬける。

泉についたあたしは、そのほとりに立つ。ファニーが小さなスティックをふり、ハートを満たしてくれる。（持てるハートの数だけLIFEエネルギー♡を満杯に）

●この場を去る事にした……⇩354へ　●崖の上へ戻る……⇩299へ

307 C

剣で斬りかかると、リーバーは目にも止まらない速さで、地中に潜り込んでいた。

ぼうぜんと立ちすくむあたしの足元で、突如、地面がスリ鉢状に陥没した。

驚くヒマもない。その穴から、触手が2本飛び出してきた！　それはあたしの脚にからみつく。（LIFEエネルギー♡1個失う）

とっさに剣をさばき、触手を斬る。逃げなければ!!

立木をいくつもさけ、ひたすら走り続ける。息を切らせて立ち止まった時、あたりの様子が妙なのに気づいた。
ここは……確か一度通った場所だけど。
⇩314へ

308

扉を開けた。
暗闇の中、人の形をした光が舞っている。
目が慣れてくると、その正体がわかった。
ギブドだ。地下に住む凶暴なミイラ男。
それが3匹、両手を広げて「大」の字になって迫ってきた！
●ホワイトソードがあれば……⇩381へ　●なければ……⇩370へ

309

魔女の森を出たあたし。
夜明けが近づいてきた。
リンクと入れ代わる前に、なるべく遠くまで歩いておこう。
●北へ……⇩268へ　●南へ……⇩266へ　●西へ……⇩270へ

310 Ⓒ

バクダンをひとつ取り出した。
岩の上に体を引きずり上げ、それに火をつけて放った。火柱と砂煙。そしてこなごなになったリーバーの破片が舞う。そこに5ルピーを見つけた。(LIFEエネルギー♡2個得る。5ルピー得る。バクダン1個失う)

⇩377へ

311

あたしは歩き出した。
森は相変わらず暗く、陰湿な気配に満ちている。
突如、何かが体に巻きついた。それはあっという間に、あたしを宙に持ち上げた。巨大な食肉植物だった。タコの足のように無数のツタがくねり、その根元には巨大な花ビラがある。いや、それは毒々しい色をした口だ。
あたしはその木を凝視した。そいつは人ひとり呑みこめるほどの大きな口をカッと開け、待ち構えている。脚に巻きついたツタは、あたしをそこへ運んでゆく。
LIFEエネルギーは満杯?

●YES……………⇩344へ
●NO……………⇩367へ

さて、このピラミッドの外に出なければ……。
バクダンはまだ残っている?
(あればピラミッドの壁に仕掛け、バクダンで開いた穴を通って外へ出ます。バクダン1個チェックシートから消します。もしバクダンを持っていなければ、今までのルートを逆にたどり、外へ出る事になります。実際に項目(こうもく)をたどる必要はありませんが、ゼルダはこの場合LIFEエネルギー♡を1個失います)
あたしはピラミッドに別れを告げ、再び旅を続ける事になった。

312 C

●北へ行く ……………… ⇩277へ
●南へ行く ……………… ⇩255へ
●東へ行く ……………… ⇩360へ
●西へ行く ……………… ⇩265へ

313

無数の枝を張りめぐらせ、天に向かって突き立った老木。
確かリンクは、前の戦いで得た経験を話してくれたっけ。こんな木には秘密が隠されている事がある、と。
よし、ローソクを使って焼いてみよう。

●ローソクがあれば ……………… ⇩322へ
●なければ ……………… ⇩353へ

314 C

不気味な葉群を夜風にゆらし、木々がざわめいている。まるで侵入者であるあたしに、出て行けと叫んでいるようだ。

複雑にからみ合う枝の隙間から、星の輝きがみえる。その頼りない明かりの中、あたしは森の中を進み続ける。

行く手を獣の影が横切る。頭上からはフクロウの声。思わず走り出したくなる。

ふいに前方に小さな明かりが見えた。それに吸い寄せられるように近づいていく。明かりは大木の根元にある洞の中から漏れていた。あたしはその中に入っていった。

カビくさいにおいが漂う中に、商人がすわっていた。例によって緑の服。それが松明の炎の動きにつれて、淡くなったり濃くなったりしている。

「何か買うてくれや」

あたしは彼の売ろうとする品物を見た。

○ホワイトソード――25ルピー　○マジックシールド――25ルピー
○マジカルロッド――40ルピー　○ふえ――35ルピー

「あれ？　ずいぶん高いのね。ちょっとぼりすぎじゃないの、おじさん」

「ホウ、いらんのかね。買わんのなら、別にこっちはかまわんよ」

ええい。人をなめてるな、こいつ。

あたしは――
●買う事にした(アイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す)…⇩378へ
●値切ってみる……………⇩317へ　●商人をぶんなぐり、去る　…⇩392へ

315

地下に通ずる穴があった。アモスの一体が立っていた所だ。あたしは不安と期待の入りまじった複雑な心境で、そこを降りていく。
プーンと鼻を突く臭い。うっ、何よ。これ――。
地下の部屋で、あたしが見たもの。それはいつもヒントをくれる赤い僧服の老人には違いなかった。ところが、その老人は床に横になっている。
死んでいるの？　そうじゃなかった。右手に酒びんを持ち、唄っていた。

♬

どーせわしらはヒントじいさん
雨が降ろうと、嵐が来ようと
暗い穴で人を待つだけ
誰かさんが来るのを、ひたすら待っているだけの人生よ
酒でも飲まずにゃいられない

314〜315

315●その穴に入っていくと、鼻を突く酒の臭い。酔いつぶれた老人がいる。な、何なのよ、この人は…。

こんな穴倉、他に何の楽しみがあるものか
ア、コリャコリャ♪
「おじいさん、ちょっと！」あたしは酒臭い老人の肩に手をかけ、ゆすってみた。
「ヒック。極楽極楽。ねぇちゃん、美人やないけ」
そうよ。あたしは美人よ。悪かったわね——なんていったりせず、あたしは何とか老人を正気づけさせようとした。
「ういっ。ワシ、もう駄目」
そういうなり、高々とイビキをかいて寝込んでしまった。後はもう、どうゆさぶっても起きるもんじゃない。
あたしはあきらめ、地上へ戻った。

●この場を去る…………⇩354へ　●崖を降りて樹海へ…………⇩289へ

316 C

岩山は砂地から突き出した、一個の巨大な岩の塊だった。
その中腹に、洞窟がある。そのため岩山は、大きく口を開けた巨人の顔のように見える。
あたしは岩肌をよじ登り、洞窟に入っていった。せまい空洞をぬけると、大きな部屋に出た。岩をくりぬいたその部屋の中央に、松明が灯り、老人がいた。

315〜316

「ちょっと聞きたい事があるの」
あたしはそういった。だが老人は返事もせず、じっとこっちを見ている。
「ねぇ、ちょっと。聞こえてるの？」
GU……GU……
何だ寝てんだ、この人。ったくもう、目を開けたまま眠らないでよね。
あたしは老人の肩をポンと叩いた。
「ン？　あんたァ、誰じゃね」
「あたしはゼルダ。蜃気楼城（ミラージュ・キャッスル）を求めて旅する者」
「ホウ。あんたがゼルダ姫か。それならよい所へ来た。その蜃気楼城（ミラージュ・キャッスル）は、昨夜からこの岩山の裏に出現しておるよ。
あの城は海や湖など、水のある所には出ない。その点この砂漠なら大丈夫じゃからな」
あたしは嬉しさのあまり、礼をいうのさえ忘れ、この岩穴を飛び出そうとした。
「まちなさい！」背後から老人が叫ぶ。あたしは立ち止まった。
「この手紙を持っていきなさい。湖にいるばあさまに渡せば、きっとよい事があるぞ。それからとっておきの贈り物じゃ」老人は手紙といっしょになんと命の器を私にくれた。
老人が放（ほう）ってよこした手紙と命の器を受け取り、あたしは岩穴を出た。（命の器入手、手紙入手。アイテムチェックシートに記入）

⇩338へ

３１７ C

「こーいう商売の仕方、嫌いなんやけど」
あたしはムッとしていった。「商人の風上にも置けないと思うわ」
「何やと！」さすがに商人も、おこった。
「あなたもアキンドのはしくれなら、もっと客を大事にしなさいよ」
「よろしい。そんならこの値段はどうやー！」
彼は、品物に貼った値段を次々とはいでいった。新しい値が、その下から出てきた。
○ホワイトソード――15ルピー　○マジックシールド――15ルピー
○マジカルロッド――15ルピー　○ふえ――10ルピー
「――どうや。これ以上、ビタ一文まからんで！」
まだまだ高いっていうのに、何なのこのえらそうな態度。あたしは――
●買うことにした。(アイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す)　⇩３７８へ
●買わずに去る　……………⇩３１１へ　●商人を殴って去る　…………⇩３９２へ

３１８

とっさにマジックシールドを使った。
その魔法の盾は、あらゆる呪文をはね返すのだ。

シールドの後ろに身を隠し、剣を抜いて近づいてゆく。

●ホワイトソードがあれば……⇩335へ　●なければ…………⇩332へ

319 Ⓒ

あたしはうなずき、手紙を出した。老婆はそれを受け取り、フムフムと読む。

「ようわかったがや。あんたの王国は、どえりゃー目に遭(お)うとる。助けたらにゃーあかん。蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)ならわたいも少しゃー知っとるでよ。ありゃーあんたの捜しとるトライフォースのある所にゃー出現せんで。あの悪魔の城は聖なる物にゃー近寄れんがや」

つまり、トライフォースと蜃気楼城は、別々の場所にあるという事なんだわ。

あたしは老婆に礼をいい、その場を去ろうとした。そこへ後ろから声がかかった。

「だけんどあんたァ、蜃気楼城へ行くにゃーこの湖はちぃと遠まわりだがや」

⇩373へ

320 Ⓒ

その木の洞(うろ)の中、松明(たいまつ)がふたつ灯(とも)り、老人がすわっている。

「あんた、ゼルダ姫じゃな？」

あたしはうなずいた。「おじいさん、蜃気楼城（ミラージュ・キャッスル）について、何か知らない？」
「あんたは運がいい。わしはハイラルで一番の、蜃気楼城（ミラージュ・キャッスル）博士じゃよ」
「あれは今度、どこへ出現するの？」
「ハイラル地方の南じゃよ」
「え？　南って」
「南といえば、北の反対じゃ」
「そ、それだけしかわからないの？」
「バカを申すな。こんなくわしい情報を持つ男は、他におらん。何しろわしはこのハイラルで一番の――」
あたしは出ていこうとした。
「またれい！」老人の声が追ってきた。
「ゼルダ姫。もしわしに5ルピーくれたら、いいものをやるがの。どうする？」
●5ルピーやる(ルピーシートにチェック)…⇩283へ　●やらずに去る…⇩309へ

321

夜の世界をあてどもなく歩くあたし。
やがて大きなふたつの山にはさまれた街に着いた。静かな街。明かりはまったく見えず、

人の気配もない。何の生活臭もない街だ。
ゴーストタウン。
あたしは面妖な空気に包まれたその街に足を踏み入れた。石やレンガ造りの家々は朽ち果て、今にも崩れそうな気配。
それらはまるで、巨大な墓標の群れのように見えた。
街の真ん中には円型の広場があり、石畳が敷きつめられている。その中央には井戸があった。井戸を覗いてみる？

●YES……………⇩398へ　●NO……………⇩386へ

322

あたしはローソクを木の根元に近づけた。
ボッ！　魔法のローソクの力か。木は一瞬にして炎に包まれ、あたしはすんでのところで、それに引き込まれるところだった。
老木はすぐに燃え尽き、灰になった。するとそこに――地面に開いた穴がある。期待を抱き、たちこめる煙にむせながら入ってゆく。
だが暗闇の中にいたのは――何とムカデの怪物ラネモーラだ。うっ、とんだヤブヘビだわ！

巨大で細長い体。その先端には丸い頭部があり、一つ目がランランと輝いている。

●戦う……………⇩301へ　●逃げる……………⇩380へ

323 C

アモスたちは、強力な剣と盾で攻撃を仕掛けてきた。だがこの兵士たちは動作が鈍い。丁々発止と剣を結び、スキを見て背後にまわり込む。

この戦法で8体を倒した。が、あたしも左脚を斬りつけられている。（LIFEエネルギー♡ー1個失う）

アモスの死体の中に、5ルピー落ちているのを見つけて拾った。（5ルピー得る）

⇩315へ

324

東に陸が見え、南はどこまでも続く大海原だ。どう行こう？

●南へ行く……………⇩260へ　●東へ行く……………⇩358へ

325

荒野を歩いていった。

崖道にさしかかり、下界が見下ろせるようになった。月光の下、地平線の彼方まで樹海が続いている。その中に、キラリと光るものが見える。月の光を反射させているらしい。泉に違いなかった。

●崖を降り、その泉へ向かう ⇩289へ
●このまま崖の道を進む ……⇩341へ

326 Ⓒ

望みはひとつだけであった。

ホワイトソードには、隠された力がある。あたしはそれに賭ける事にした。

モリブリンは唸りながら、すぐ近くまでせまってきた。が、気を取られないようにし、精神を集中する。

地面に横たわったホワイトソード。それはあたかも命を吹き込まれたかのように、カタカタとふるえ始めた。あたしはギュと目を閉じる！

とたんに重力の法則が消失した。ホワイトソードは一瞬にして、あたしの手に移っていた。するどい刀先で縄を切る。

縄をふりほどき、自由になったあたし。喜びが湧きおこる。

モリブリンはうなり声をあげ、矢を投げつけてきた。それをかわしざま、あたしは剣を飛ばす。

ホワイトソードを胸に突き立て、怪物はぶざまに引っくり返る。
死体のそばに、3ルピーが落ちている。それを拾った。（3ルピー得る）⇩294へ

327

枯木の林が続いている。
死人の手のように冷たいもやが足元にまとわりついている。木々は枝をくねらせ、巨人の影のように立ちはだかっている。
そこは墓地だった。こんな荒涼（こうりょう）とした所に、どんな人が埋められているんだろう。
伸びほうだい伸びた草の中、白い墓石が並んでいる。
ファニーはさっきからあたしの肩にとまり、不安げにあたりを見まわしている。
点在する墓の向こうに、大きな枯木があり、その洞（うろ）の中に明かりが灯（とも）っている。
●行ってみる……………⇩279へ
●行かない……………⇩390へ

328 C

ライネルを倒したが、次の脅威（きょうい）はすぐ側（そば）まで迫っていた。必死に走り、岩陰に飛び込む。
その横を、巨大な竜巻が通りぬける。ゴーッという音で一瞬耳が聞こえなくなった。
すべての危険が去った後、その原野をぬけた。林を越えると、妖精の泉があった。

ファニーがポーチから出、泉の辺りを飛びながら歌った。彼女がスティックを振ると、あたしの体にエネルギーがみなぎってきた。
(持てる♡の数だけLIFEエネルギーを満杯に)
そしてまた旅は続く――。

●東へ行く……………⇩268へ　●西へ行く……………⇩272へ
●南へ行く……………⇩270へ　●北へ行く……………⇩325へ

329 Ⓒ

あたしはLIFEエネルギー、攻撃用の武器ともに十分持っていた。
アクオメンタスがビームを放った！　マジックシールドで、それをはね返す。そして間髪容れず剣先からお返しのビームを発射してやる。この無敵の武器を使えるあたしにとって、一角獣を倒すのは難かしい事じゃなかった。何度目かのビームをくらわせてやると、そいつは地響きと共に倒れた。
そしてあたしは、そこに1本のふえがあるのを見つけた。
(5ルピー得る。ふえを入手チェックシートに記入)
扉は黒と紫。どっちへ？

●黒の扉へ……………⇩397へ　●紫の扉へ……………⇩292へ

330

歩いてゆくにつれ、夜空の星々は、灰色の雲に覆（おお）い隠されていった。同時に風が吹き始める。

風は次第に強くなり、身を低くしていないと飛ばされそうになった。

あたしはしばらく何かの陰に避難（ひなん）する事にした。地表から突き出した岩。その後ろに身を伏せる。

空はすっかり雲におおわれてしまった。そして遠くの地平線から伸びた3本の白い筋が、その雲に吸い込まれている。

竜巻だ。

それはじょじょに、こっちに向かって近づいている。逃げようか、どうしようかと考えた。

その時、あたしは背後に蹄（ひづめ）の音を聞いた。

闇の中に、ふたつの眼が光っている。ライオンの顔がそこにあった。だが体は人間、下半身は馬。

ライネル。手強（てごわ）い怪物だ！　そいつはあたしを見つけると、風を突いて襲いかかってきた！

●ホワイトソードがあれば ……⇩375へ

●なければ ……………………⇩339へ

330

330●その怪物の名はライネル。顔はライオン、体は人間、
下半身は馬。そいつは風のように襲いかかった。

331 C

もう何本の矢を射たのだろう。
疲れた手で引き絞(しぼ)ってかまえた時、ゾーラは残すところあと数匹になっていた。
海上には一面ゾーラの死骸(しがい)。
海はヤツらの血で青く染まり、まるで地獄のようだ。
ちょっと残酷(ざんこく)だけどしかたない。負けるわけにはいかないんだ。(LIFEエネルギー♡2個得る)
東に陸地が見える。そっちへ向かう？
●YES……………⇩391へ
●NO……………⇩356へ

332

あたしは力をふり絞り、剣をかまえて突進した。
☆バトルE
基本ポイント　ゼルダ（　）　魔女（　）
246ページのバトル記号表を見て、Eの数字を基本ポイントにプラス。
●勝った……………⇩337へ
●負けた……………⇩366へ

333

あたしは滝に近づいてみた。
ものすごい水音。しぶきが顔にかかる。滝の後ろに岩穴がある。それが水流の隙間（すきま）から見えた。
意を決し、あたしは滝を突っ切っていく。一瞬、恐ろしい水圧で押しもどされそうになったけど、すぐ滝の向こうへ抜けた。
岩穴は、人ひとりが入れる大きさだ。深くはなかったけれど、奥の突き当たりの壁に、鉄の扉があった。
カギがかかっている。マジカルキーはあるか？

●YES……⇩364へ　●NO……⇩383へ

334 C

ホワイトソードはなかった。
仕方なく剣を抜いた。死人（ゾンビ）たちは、頭を斬（き）り落とさなきゃ倒せないという。あたしは剣をかまえた。
（もし逃げるなら、⇩352へ）
☆バトルC

基本ポイント　ゼルダ（　）　ゾンビ（　）
276ページのバトル記号表を見て、Cの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……………⇩297へ　●負けた……………⇩362へ

335 [C]

魔女たちは、その白く光る剣を見たとたん、呪文を中断した。剣の光に射すくめられているようだ。
あたしはこのチャンスを逃がさなかった。エイ！　と叫び、真ん中の女に斬りつける。
悲鳴をあげて倒れる魔女。同時に左右にいたふたりも消えてしまう。何と、実体はひとりだったのだ。（LIFEエネルギー♡2個得る）⇩294へ

336

弓をかまえ、背中から矢を数本取った。
弦を引き、狙（ねら）い、射つ。ゾーラが1匹、額に矢を突き立てて沈んでいく。続いて2本目。
そして……。
あたしは襲いくる光球をよけながら、矢を射続ける。駄目だ。これじゃキリがない。
☆バトルN

基本ポイント　ゼルダ（　）　ゾーラ（　）
276ページのバトル記号表を見て、Nの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……⇩331へ　●負けた……⇩281へ

337

魔女たちの呪文が解けた。今がチャンスだ！
あたしは——

●右の魔女を斬（き）りつけた……⇩371へ　●真ん中の魔女を斬（き）りつけた　⇩290へ

338

岩山の後ろへまわり込み、進むあたし。
突如（とつじょ）、足元の砂地が消え、あっという間に斜面を転がり落ちてゆく。何とか途中の岩にしがみついたものの、上から落ちる大量の砂で息もできない。
やがて顔を上げたあたしは、砂丘の向こうにぼんやりと浮かぶ、幻の城塞（じょうさい）を見つけた。蜃気楼城（ミラージュ・キャッスル）だ!!　何て事だ。ゴールを目前にして、ニッチもサッチも行かなくなるとは！
必死にあがいていると、足元の砂が、ザワザワと動き始めた。ひょっとしたら——ここは巨大なアリ地獄!?

その瞬間、砂を噴き上げて青い怪物が出現した！　イソギンチャクのような姿。ヌメヌメと光る体。リーバーだ！
あたしは岩にしがみついたまま、あわてて体を引きずり上げようとした！

●バクダンでやっつける……⇩310へ　●剣を使う……⇩296へ

339 C

怪物はさすがに手強かった。それに強風と迫り来る竜巻の脅威もある。
あたしは剣をかまえ、果敢にもライネルにかかっていった。が、ライネルは手にした長大な剣からビームを放った。
かろうじてさけると、蹄で踏みつぶそうとのしかかってくる。
風の唸と馬蹄の音、そして剣と剣のぶつかり合う音が交錯する。
背後へまわり込もうとした時、素早く向きを変えたライネルが、あたしの左足をつらぬいた（LIFEエネルギー♡2個失う）

☆バトルM
基本ポイント　ゼルダ（　）　ライネル（　）
276ページのバトル記号表を見て、Mの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……⇩396へ　●負けた……⇩348へ

338〜339

338●突如、足元の砂地が消え、あたしは斜面をすべり落ちていく。そこはリーバーの住むアリ地獄だった。

340

あたしは弓を取り、矢をつがえた。
3匹のうち、真ん中のゾーラをねらう。

☆バトルF
基本ポイント　ゼルダ（　）　ゾーラ（　）
276ページのバトル記号表を見て、Fの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……………⇩376へ　●負けた……………⇩347へ

341

崖の道を歩き続けた。
やがて平地にさしかかった。
そこには何と、アモスの像が8体も並んでいた。
アモスは石化した兵士だ。しかしちょっとした事で、突然、実体に戻って襲ってくる。
避けるに越した事はない。
が、このアモスの立つ所に秘密の穴が隠されている事もあるのだ。
どうしよう？　あたしは考えた。

●アモスに触れてみる……⇩372へ　●この場を去る事にする……⇩354へ

342

満天の星の下、どこまでも続く砂の海。
ここは赤い砂漠と呼ばれる所だ。赤褐色(せきかっしょく)の砂でできているためだが、星明かりの中では
その色もわからない。
歩いているうち、地平線の彼方(かなた)——星空と大地の境界の向こうに岩山の影が見えてきた。

●岩山へ行く……………⇩316へ　●行かない……………⇩338へ

343

眼下に湖。その中に小島がある。
そこへ渡るには、1本の細い木橋しかない。それは月光の下でおぼろにかすんで見える。
湖畔へ来たあたしは、どうしようかと考えた。

●島へ行く……………⇩280へ　●行かない……………⇩373へ

344 C

剣をぬいて、その切っ先を木に向ける。
刃が青白く光った。同時にそこから、七色のビームが走る！
木は一瞬にして炎に包まれていた。ツタは焼け切れ、おかげであたしは、ドサリと地面

に投げ出される。ふと見るとルピーがひとつ落ちている（ールピー得る）
まっ赤な炎を上げて焼け落ちる食肉植物。それを背後にして、あたしはまた歩き出す。

⇩286へ

345

あたしの体は、恐ろしい勢いで空間の穴に吸い込まれた。
まるで竜巻に巻き込まれたようだ。七色のオーロラがはためき、あたしを包み込んで回転していた。意識は急速に失われていく……。
目覚めると、緑の匂いがした。
そこは深い森の中。背の高い木立ちの群れが、あたしを見下ろしている。
ふいに気がついて、ポーチの蓋(ふた)を開けた。ファニーはその中で気絶している。怪我(けが)はしていないみたい。
それにしても、ここはどこだろう。

⇩360へ

346

そこは石のブロックでできた、何もない部屋だった。トライフォースはどこにあるんだろう!?

あせる心を押え、あたしは次の部屋へ。

●茶の扉へ……………………⇩397へ
●白の扉へ……………………⇩308へ

347

あたしは1本目を射た。

だが、それはゾーラに命中せず、波間に消えてしまった。あわてて2本目を鞘からぬいた時、光の球が3つ飛んできた。3匹が一斉に放ったのだ。

もろに食らったあたしは、全身がしびれて動かなくなった。そのまま橋から水中へ。

もはや逃れるすべはない。半魚人どもは沈んでゆくあたしに襲いかかる。

ぶくぶくぶく……。

END

348

剣を巧みに扱い、ライネルはあたしを牽制した。2度3度の攻撃で、あたしの体力は限界に来ていた。

逃げよう、と決心し、後ろを振り向いた。するとそこに、新たな脅威が待ちかまえていた。

あたしは、ものすごい風の力により、一瞬にして宙に舞っていた。竜巻だ。いつの間にか背後に迫っていたのに気づかなかったのだ。

空高く巻き上げられ、あたしは空中であがいていた。

そして、どこかに投げ出された。

意識を取り戻す。

そこは森の近く——草原だった……。

奇跡的にも骨は折れていない。が、擦(す)り傷は体のあちこちにある。

⇩360へ

349

その扉を開けたとたん、ものすごいうなり声があたしの鼓膜(こまく)を直撃した。

部屋の隅にうずくまっているのは、何でも食べちゃうサイの怪物・ドドンゴ。体は硬質の表皮でおおわれ、剣では役に立たない。

ドドンゴはぎろっとあたしをにらむと、ゆっくり体を起こした。

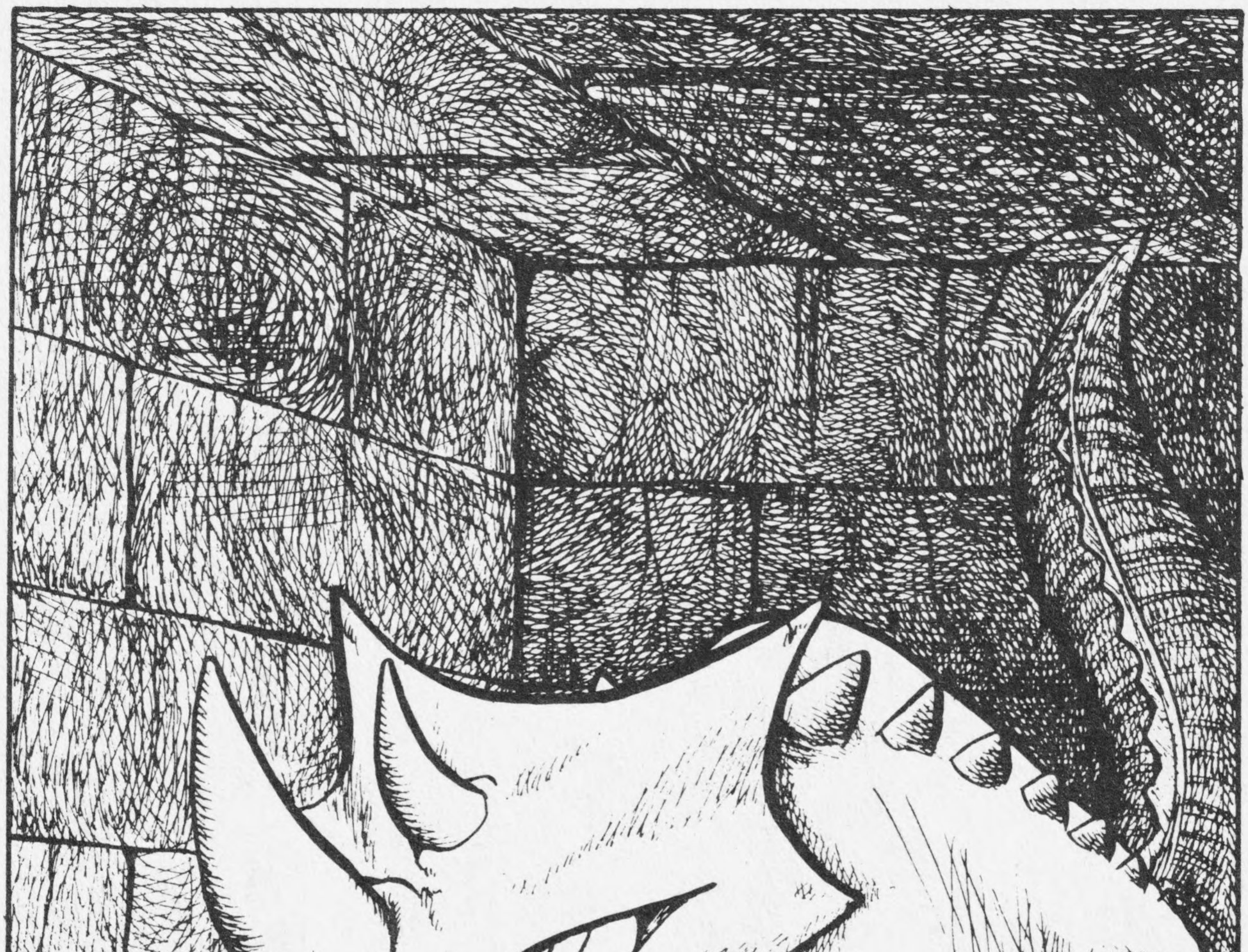
どうやら空腹のよう。

夜食にあたしを食べようってワケね。

バクダンを3つ以上持っている?

●YES……………⇩368へ
●NO ……………⇩285へ

348〜349



349●扉を開けると、ものすごいうなり声。何でも食べちゃうサイの怪物・ドドンゴが身を起こしたのだ。

350

打つ手はなかった。
あたしはガンジガラメになってるし、武器は近くにあるものの、取る方法がない。
エーン。こんな死に方イヤだァ！
あたしは絶望の眼差(まなざ)しで、近づいてくるモリブリンを見つめた。

END

351

LIFEエネルギーは満杯。剣のビームが使えるんだ！
ゾーラは波間に顔を出し、光球を放ってきた。あたしはそれを避け、剣先を向ける。
七色の光が走り、湖面の怪物を次々ととらえた。3匹はあっという間に燃え上がり、暗い湖中へ沈んでゆく。

⇩385へ

352 Ⓒ

両手を前につき出しノタノタやってくる死人(ゾンビ)たち！　あたしは本能的に恐怖を感じていた。

逃げ足なら自信がある。あたしはとっさに街の外に逃げ出した。奴らは追ってきたけど、ゾンビの走る速度は問題にならない（LIFEエネルギー♡1個失う）⇩300へ

353

しまった。ローソクがない。これじゃ木を焼くにも方法がない。どうしようか？

●崖の洞窟へ行く……………⇩357へ　●その場を去る……………⇩302へ

354

さて、ここにいてもしかたない。先へ進む事にしよう。

●東へ行く……………⇩298へ　●西へ行く……………⇩263へ
●南へ行く……………⇩330へ　●北へ行く……………⇩343へ

355

あたしは腰の剣をぬき、ギーニに立ち向かっていく。目ざすは1体——本体のギーニのみ。あとはみな幻にすぎない。

気合いをこめ、妖怪めがけて斬りつける。だが、剣はギーニの体をすりぬけてしまった！

あっという間だった。待ってましたとばかりに、他のギーニたちが一勢に飛びかかって

くる。
そう。この化け物にはホワイトソードじゃないと効き目がないんだ。ギーニに襲われた人間はあっという間に石になる。
あたしも例外じゃなかった……。

END

356 Ⓒ

なおもそこにとどまり、残るゾーラをやっつける事にした。
イカダに手をかけ、上がってこようとする半魚人どもに、あたしは剣で攻撃をくわえる。皮膚はかたく、貫けないが、目が弱点だ。
最後の1匹になった時、そのゾーラが突如、光球を放った。ウッ……！　それを肩に受けたあたしは、激痛に片膝をつく。（LIFEエネルギー♡1個失う）
だが、そのゾーラはそれっきり波間に沈んでいった。

⇩324へ

357 (Ⓒ)

崖にある洞窟。あたしはその中へ入っていった。ふたつの松明の間に、商人がすわっていた。

「何か買うてくれや」
並べられた品物は――
○ハシゴ――――15ルピー　○マジカルキー――――20ルピー
○バクダン（5個）――――10ルピー　○ローソク――――5ルピー
「ケチケチせんと、買うた方がよろしゅうおまっせ」商人はパイプをふかしながらいう。
「ここにある品物は、きっと後で役に立ちますよって」
（品物を買った人は、アイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す）
洞窟を出たわたしは――
●滝へ行く…⇩333へ　●木へ行く…⇩313へ　●この場を去る…⇩302へ

358

東へ向かった。
潮流に逆らい、陸地に向かってこいでゆく。やがてイカダは浜に打ち上げられた。あたしは休む間もおしんで、歩き出す。
⇩321へ

359 C

ところがバイブルなんか持っていない。

しかたなく引き返すハメとなった。何て事なんだろう。妖精の泉が目の前にあるというのに……（ＬＩＦＥエネルギー♡１個失う）

●崖の上に戻る　…………⇩２９９へ　●この場を去る　…………⇩３５４へ

３６０

旅を続けると、草原の向こうに森の輪郭（りんかく）が見えた。さながら黒いベールのように、横に長く広がっている。

あの森を抜けてみよう。　⇩３１４へ

３６１

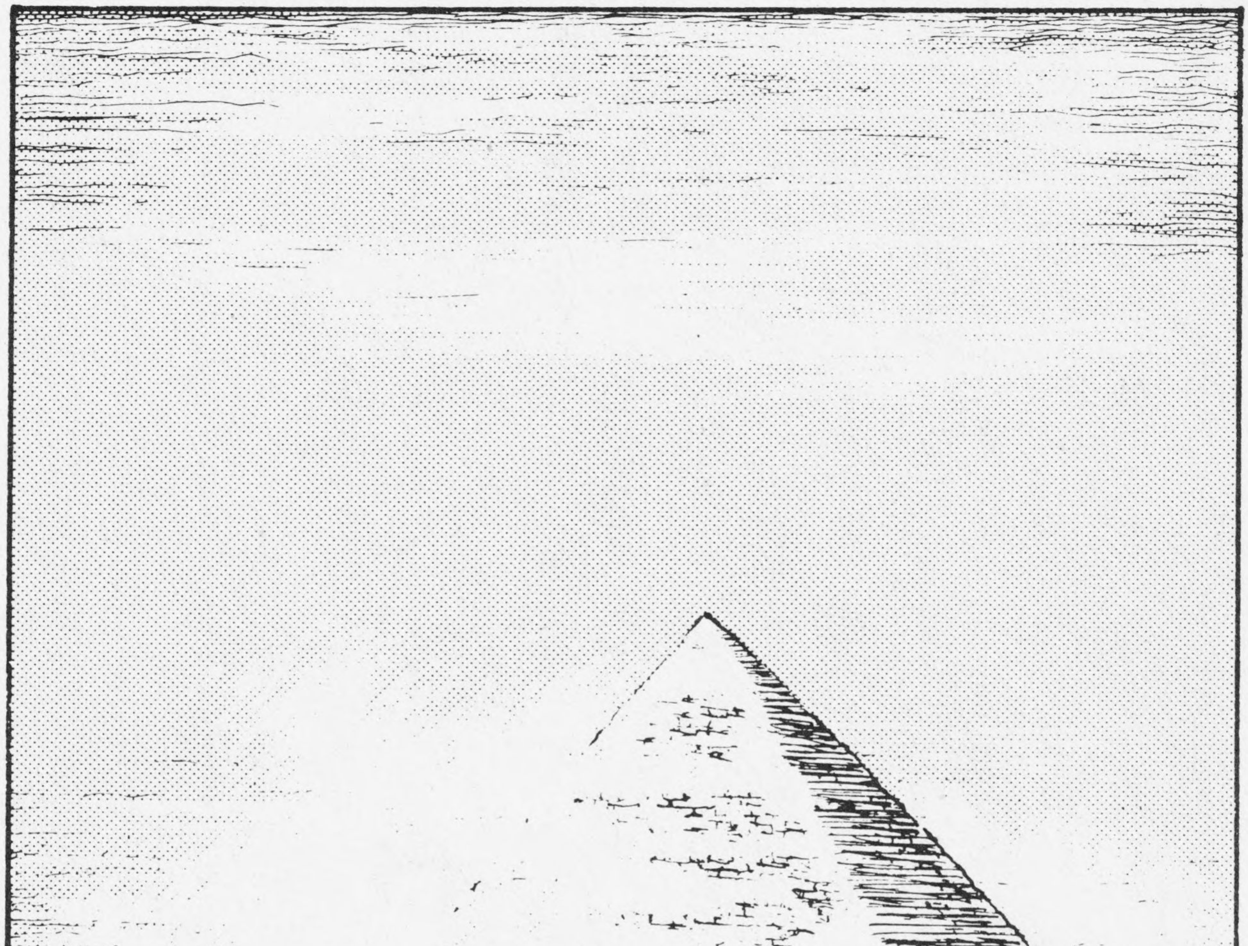
いくつもの丘を越え、谷を越えて歩いていった。やがて、目の前にピラミッドが見えてきた。

最初はもやにかすみ、おぼろげにしか見えなかったが、近づいていくにつれ、その巨大さがわかってきた。

美しい直線で形成された正四角錐（すい）。それは大きな石を無数に組み合わせて築（きず）いたものだった。

北側の低い所に入口を見つけ、あたしは中に入っていった。

359〜361



361●やがて目の前にピラミッドが見えてきた。近づいて
いくにつれ、その巨大さがわかってきた。

最初の部屋が、すぐそこにあった。ふたつの松明(たいまつ)の間に老人がすわっている。
「あんた、どこ行きんさるね」とたずねてきた。
「あたしはトライフォースを捜し、蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)を求めて旅をしている者」
「ホウ、そりゃ遠路はるばる、ようおいでんさったのう。トライフォースを探しとられるんじゃったら、このピラミッドの奥に隠(かく)されとるよ。じゃけんど、ここはごっぱ恐い魔物がおるけん。気ィつけた方がええよ」
トライフォースのひとつが、このピラミッドの中に隠されている……。あたしはそれを聞き、勇気が湧(わ)いてくるのを感じた。
「――それに」と老人は続けた。
「蜃気楼城ゆー城の事も、ちっと耳にはさんだのう。ありゃあ、湖や海や川――つまり水のある所にゃ、絶対に出現せんちゅー話じゃけん」
あたしはそのなまりのある老人を抱きしめ、思わずキスをしてしまった。
何て幸運なんだろう。これがそのまま続いてくれたら、どんなにいいか。
あたしはしつこいほど礼をいい、ピラミッドの奥に向かった。
目の前に扉がふたつ。赤い扉と青い扉だ。
さて、どっちの扉に入ろうか？

●赤い扉へ……⇩308へ
●青い扉へ……⇩292へ

362 C

斬っても斬っても次々と襲ってくる死人ども。あたしはひとりづつ倒していきながらも、次第に疲労していく。
まったく不利な戦いね。何しろ相手は疲れ知らずの死兵の群れだもの。
そこらじゅう、奴らの流した血や腐汁が散り、悪臭を放っている。あたしは吐き気をこらえながら、後退った。剣もきれなくなってきたし、そろそろ逃げた方がいい……。
そう判断し、あたしはとっさに逃げ出した。（3ルピー失う）

⇩300へ

363

波打ち際へ出た。そこは果てしなく広がる海。岸に荒々しく波が打ち寄せている。静かだった。が、きっと波のむこうには恐ろしい危険が待っているに違いない。
浜を見渡すと、イカダが見つかった。砂に半ば埋もれて隠れている。前の戦いの時、リンクが使ったものに違いない。
それを引きずり出し、あたしは大海原に乗り出していった。
せまくるしいポーチから出たファニーが、左肩の上にすわり、ため息をつく。
『一日中この中じゃ、窮屈でたまんないわ。ああ、いい気持ち』
「あらファニー、あなたはいいわよ。いつでも好きな時に出られるから。でもあたしは昼

の間、ずっと水晶球の中。外で何が起こっているかもわからないのよ」
『そうね、かわいそう。早くこの呪いを解いてあげたいわ』
あたしはリンクの入ったクリスタルムーンに、そっと手をやった……。
⇩288へ

364 Ⓒ

マジカルキーを使うと、鉄の扉は簡単に開いた。開けたとたん、まぶしい黄金の光があたしの目を射た！　トライフォースだ!!

それはまぎれもなく、〝知恵〟のトライフォースの断片だった。それを取ったあたしは、勇気百倍。（知恵のトライフォースひとつ入手。アイテムチェックシートに記入。ただし、一度ここを通った人は入手できません）
⇩302へ

365

ドサリ！　あたしは砂地に投げ出された。
かろうじて空間の穴には吸い込まれなかった。
あそこに入ったら、どこへ行っていたか……。
せっかく見つけた蜃気楼城（ミラージュ・キャッスル）は消え、同時にわずかな望みも消えてしまった……。
ガックリと肩を落とし、あたしは砂漠を歩き出した。

●東へ行く　…⇩343へ　●西へ行く　…⇩271へ　●南へ行く　…⇩263へ

366 C

次の瞬間、あたしは魔女の呪文によって金縛り（かなしば）りになっていた。（LIFEエネルギー♡ー1個失う）

どうもがいても動けない。

次第に気が遠くなっていく。

気がついた時、あたしは自分が立木に縛（しば）りつけられているのを知った。頑丈（がんじょう）な縄でグルグル巻きだ。

ふと、武器はどうなったかと思った。

闇の中、目をこらして見る。

剣や弓はすぐそばの地面の上にあった。

突如（とつじょ）、ものすごい唸（うな）り声が、静けさを破った。

深い森の向こうから、何かが近づいてくる。とがった耳、ブルドッグのような顔。モリブリンだ！　その手には矢がある。

あたしは必死にあがく。

●ホワイトソードを得ていれば⇩326へ　●なければ…………⇩350へ

367

あたしをからめ取ったツタは、ゆっくりと木の「口」に向かって動く。宙吊りのまま、とっさに弓をかまえた。力一杯引いて、それを射る！

矢はまっすぐ、「口」の中に突き刺さった。悲鳴こそあげなかったが、木は弓なりにのけぞり、苦しげに幹を震わせる。ツタの力が弱まり、あたしは地上へ投げ出された。

そのスキに、一目散に逃げ出した。

⇩286へ

368 C

ツノを低くかまえ、突進してくるドドンゴ。

あたしはその前方に、バクダンを3個置いた。するとどうだろう。ドドンゴはよほどお腹がすいていたらしく、そのバクダンをパックリとくわえて、一度に3個のみこんでしまったのだ。（チェックシートからバクダン3個消す）

ＢＯＭＢ!!

にぶい爆発音がし、サイの怪物は口と鼻から煙をはき出した。目を丸くして、その場に横だおしになる。そしてドドンゴは、口から1個のカギを吐き出し、息絶えた。マジカルキーだ！（マジカルキー入手。アイテムチェックシートに記入。ＬＩＦＥエネルギー♡2個得る。ルピー8個得る）

367〜368

367●巨大な食肉植物の触手が、あたしを絡(から)めとった！
カッと開かれたその口に向け、弓をかまえる。

あたしはそのカギを使い、床にある隠し扉を開ける。と突如、さんぜんと輝く黄金の光が、あたしの目を射抜いた！
トライフォースの光。〝知恵〟のトライフォースのうち半分が今ここで見つかったのだ！
（知恵のトライフォースひとつ入手。アイテムチェックシートに記入。ただし、一度ここを通った人は入手できません）

⇩312へ

369 C

リーバーはあたしに気づき、そのぶよぶよした触手を伸ばしてきた。たくみにかわしつつ。剣でつらぬく。引きぬくと、傷口から大量の粘液を噴き出し、怪物はぐにゃりと倒れた。そこに3ルピーあった。（3ルピー得る）
死骸を乗り越え、あたしは先へ進んだ。
おかしい。さっきもここを通ったような気がする……。

⇩314へ

370 C

ホワイトソードがないのは、ちょっと痛い。あたしは仕方なく怪物につかまらないようにし、壁に沿ってじりじりと歩く。こうなりゃ逃げるが勝ち。スキを見て、3匹のギブドの間をすり抜けた！

その時、左手をつかまれ、壁にたたきつけられてしまった。（LIFEエネルギー♡1個失う）

かろうじて立ち上がり、出口の扉へ――。

●白の扉から出る …………⇩346へ

●黄の扉から出る …………⇩292へ

371

右側の魔女をねらい、剣を振り降ろした。

ガツン！ その強い手答えは、剣が地面をえぐったものだ。縦に真っぷたつになったはずの魔女は、無傷のまま。剣は素通りしていたのだ！

あたしはもう一度――今度は横殴りに斬りかかった。剣は空を斬り、あたしはバランスを失い、ぶざまにも引っくり返った。

⇩366へ

372

無表情に立つアモスの像。

そっと近寄り、手を触れてみる。（勇気の人差し指！）

そのとたん、像は青白く光り、震え出した。しかも、8体全部だ！ 見る見るうちに、それらは半人半獣の兵士と化し、あたしを襲ってきた。

☆バトルF
基本ポイント　ゼルダ（　）　アモス（　）
276ページのバトル記号表を見て、Fの数字を基本ポイントにプラス。
●勝った……………⇩323へ　●負けた……………………⇩291へ

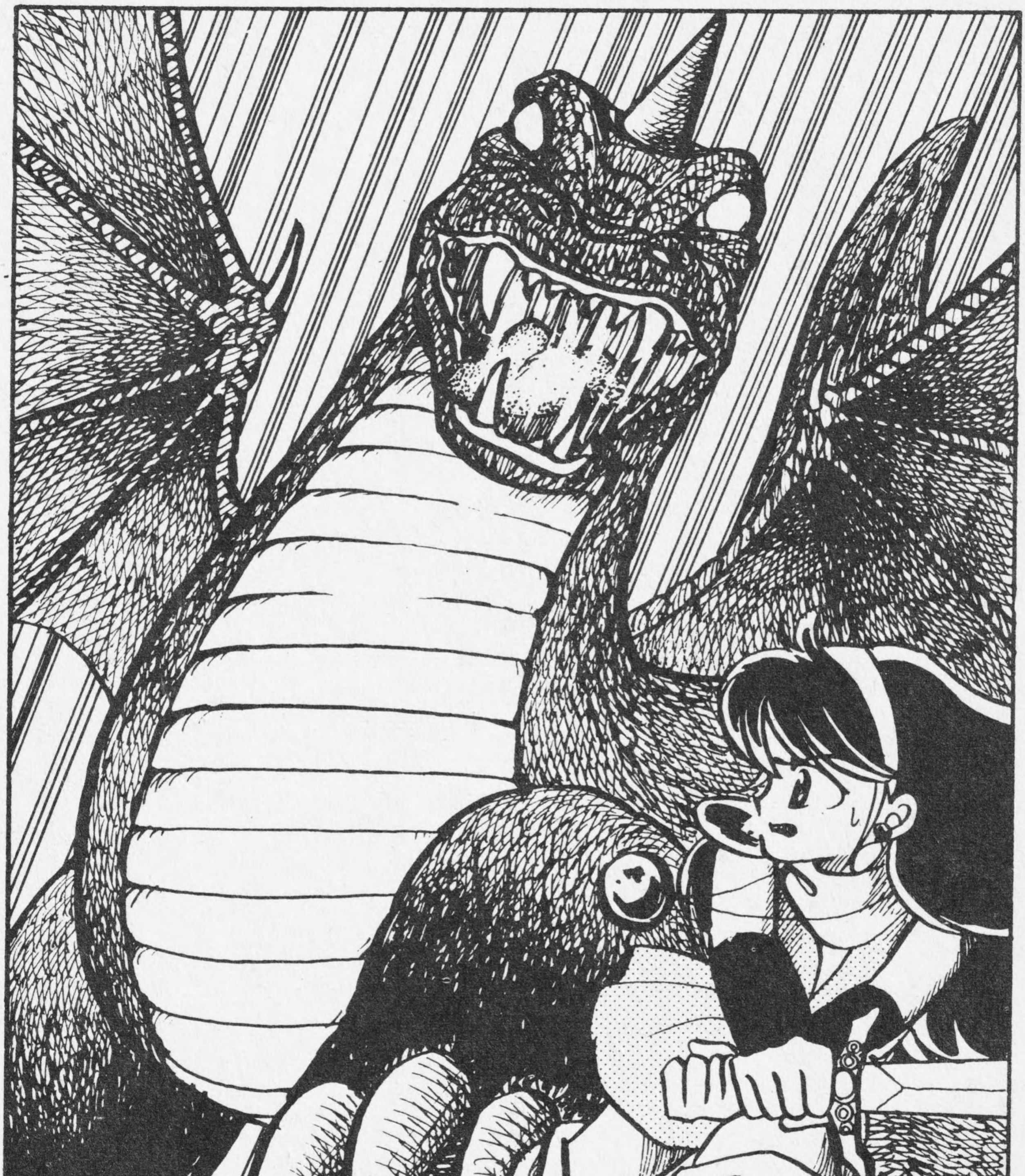
373

あたしは湖を去った。
さて、どっちへ向かって進もう？
●東へ……⇩267へ　●西へ　……⇩342へ　●南へ………⇩325へ

374

あたしは生ツバを飲み、扉を開けた。
突如(とつじょ)、天をもゆるがすうなり声。一角獣(いっかくじゅう)アクオメンタスがいたのだ。
全身を緑のウロコでおおわれた馬の怪物だ。眼は炎のようにらんらんと燃え、頭の上には見事な角。
だがこの怪物の武器は口から放(はな)たれるビームだ。恐るべきパワーを持った光線が3つ同時に放たれるのだ！

372〜374



374●紫の扉を開け、その部屋へ入る。そこには怪獣アクオメンタスがいた。ピラミッドに住む一角獣だ。

LIFEエネルギーは満杯で、マジックシールドはある？

●LIFEエネルギーも、シールドもOK……⇩329へ

●マジックシールドのみ……⇩382へ

●LIFEエネルギーのみ、または両方なし……⇩394へ

375

あたしはホワイトソードをかまえ、襲い来るライネルを迎え撃った。怪物は長大な剣を振りかざし、かかってくる。

鈍い金属音。火花が飛び散り、同時にあたしは地表に叩きつけられる。手強い！　一筋縄じゃいかない敵だ。

しかもぐずぐずしていると、背後から竜巻が迫ってくる。

●マジックシールドがあれば⇩295へ　●なければ……⇩339へ

376

ゾーラの眉間に矢が突き立った。

あたしは素早く鞘から2本目を取り弓を引き絞る。

2匹目の半魚人ののどをつらぬく。

残る1匹が光の球を放ってきた。だが、身をかわすのはたやすかった。間髪容れずに、3本目をそのゾーラの頭に射た。 ⇩385へ

377 C

穴の縁まではい上がったあたしは、休む間もなく走り出した。

すぐ目の前に蜃気楼城があった。蜃気楼というよりも、オーロラのように七色に光り、ゆれ動いている。無数の小塔が、ひとつひとつはっきりと見えた。

しかしはやる気持ちは、かえって行動をからまわりさせる。あたしは足をすべらせ、砂地につっぷした。無念の想いで顔を上げる。

城はその下方から、ゆっくりと消えていく。

まるで闇にのみ込まれていくように。（LIFEエネルギー♡1個失う） ⇩287へ

378

品物を買ったあたしは、礼もいわずにその洞を出た

森を進んでゆくと、前方に沼が見えてきた。どんよりとした水をたたえ、月を映している。

ポーチの中から、ファニーが顔を出した。水の香りに引かれたのだろう。だがここは、

この妖精が気に入るような澄んだ水たまりじゃないのだ。がっかりした顔のファニーは、ふと森の様子を見て、不安げに肩をすくめた。
『ゼルダ、ここは行き戻りの森よ』
「え？　行き戻りの森？」
『うん。一度迷い込むと、何度も同じ所に出る不思議な森なの』
どうすればいいのだろう？
●沼の右へ行く　……………⇩３１１へ　●沼の左へ行く　……………⇩２８４へ

３７９　C

地の底に続く穴へ降(お)りていった。
長い石段を下り終わると、そこに商人がいた。
「何かこうてくれや」毎度おなじみの台詞(せりふ)。
商人の前に並ぶ品物は３つ。
○マジックシールド――15ルピー　○マジカルロッド――20ルピー
○バイブル――20ルピー
（品物を買った人はアイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す）
「大して安くないのね」とあたしは愚痴(ぐち)をいった。

378〜379

379●地の底へ続く道を降りていった。突き当たりの部屋には緑の服の商人がいた。「何か買(こ)うてくれや」

「バーゲンセールの時は、のぼりでも立てておきまっせ。ヒャッヒャッ」

商人の不気味な笑いを背に、あたしはまた石段を登った。

⇩387へ

380 C

情けないけど、あたしは逃げ出した。

あんな強敵、今のあたしじゃちょっとかなわない。だいたいあたし、ムカデとピーマンは大嫌いなんだ。（LIFEエネルギー♡1個失う）

⇩302へ

381 C

あたしは腰のさやから、ホワイトソードをスラリと引きぬいた。うん。心強いこの重み。飛びかかってくるギブドを、斬りつける。ミイラ男は悲鳴ひとつあげず、倒れ、次の瞬間にはただの砂と包帯の塊になっていた。

「ええいっ!!」気合いと共に、残る2匹のギブドを斬る。1匹は床の石畳の上に倒れ、もう1匹は真っぷたつになって壁まで飛ぶ。そして、いずれもすぐに砂になってしまった。

（5ルピー得る）

剣を収め、出口をさがす。白と黄の扉があった。

●白の扉へ……………⇩346へ　●黄の扉へ……………⇩292へ

382

☆バトルF

基本ポイント　ゼルダ（　）　アクオメンタス（　）

276ページのバトル記号表を見て、Fの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……⇩303へ　●負けた……⇩394へ

383

カギがかかっているって事は、何か重要なものが隠されているに違いない。困ったな。マジカルキーなんて持ってないもの。あたしはすっかり落ちこんで、その滝の穴を出た。どこかでマジカルキーを得て、また戻ってこなきゃ。

●崖の洞窟へ行く……⇩357へ　●老木へ行く……⇩313へ

●その場を去る……⇩302へ

384

さて、ホワイトソードはあるが、うまくギーニに通用するか？
あたしはこの魔法の剣を構えた！

☆バトルL

基本ポイント　ゼルダ（　）　ギーニ（　）
276ページのバトル記号表を見て、Lの数字を基本ポイントにプラス。
●勝った……⇩278へ　●負けた……⇩399へ

385

島へ渡った。岩山に洞窟がある。一瞬迷ったが、せっかくここまで来たんだと思い、入ってみる事にした。
闇の中を手さぐりで歩いてゆく。前方にボッと松明（たいまつ）が点（つ）いた。そのそばに、赤い僧服の老婆がすわっていた。
「あんたぁ誰ね」
「あたしはゼルダ姫。蜃気楼城（ミラージュキャッスル）を求めて旅する者」
「ゼルダ姫。それならじいさまに授（さず）った手紙を持ってるけ？」
●持っている……⇩319へ　●持っていない……⇩305へ

386

街の中を歩いてみた。
誰か後をつけてくる者がいる。足音がかすかに静寂（せいじゃく）を乱している。振り返っても人の姿

384〜386

385●闇の中を手さぐりで進んでゆく。するとそこにはひとりの老婆がすわっていた。「あんた誰ね」

はない。が、足音は時間がたつにつれ、増えてくるようだ。
あたしは足を止め、またふり返った。
大勢の人影が、よろめきながら路地から出て来た。それは死人(ゾンビ)の群れだった!
ホワイトソードはある?
●YES ……………………⇩304へ　●NO ……………………⇩334へ

387

夜明けが近づいてきた。
ファニーはあたしのまわりを飛びまわり、金色の鱗粉を空中にひいている。
枯木の林は相変わらず立ちはだかり、時折その枝の上で鴉(カラス)が赤い目を光らせている。こっちを見張っているのか。
●東へ行く ……………………⇩255へ　●北へ行く ……………………⇩265へ

388

LIFEエネルギーは充分。
あたしはさやから剣を抜き、両手でかまえた。
次の瞬間、刀身が七色に光った。

行けっ！　剣の先から刃の形をしたビームが飛び出した。それが波間に浮かぶゾーラの顔に刺さるや否や、半魚人は炎に包まれた。
しばらくして、海面のゾーラは1匹残らず死骸と化していた。ちょっと残酷だけど、これも聖なる使命のため。負けるわけにはいかない。

⇩324へ

389

ギーニはホワイトソードでないとやっつけられない。にもかかわらず、あたしはまだそれを得ていない。
どうしよう？

●戦う……………………⇩355へ
●逃げる…………………⇩395へ

390

朽ち果てた墓石の間を、あたしは歩いた。
時折、地面から青白い光がフワリと浮き出し、空中でパッと消える。ファニーが驚いて、ポーチの中に逃げ込む。
音のない花火。不浄の魂が光っているのだ。たて続けに目の前で、パッパッと光った時、あたしは目が眩みそうになった。

と、その光がぱったりと現われなくなった。
あたしは剣をぬき、身がまえる。
突如(とつじょ)、墓の向こうに白い衣をまとった人影が浮かび上がった。墓場の妖怪ギーニだ！　その蒼白(あおじろ)い顔は死顔(デスマスク)の不気味さをたたえている。そして見る見るうちに、あちこちの墓石から無数のギーニが出現した。
『本物は1匹。あとは全部ニセ物よ』ファニーがテレパシーで叫ぶ。
ホワイトソードは持っている？

●YES……………⇩384へ　●NO……………⇩389へ

391

あたしは攻撃の手をゆるめ、イカダをこぐのに専念した。ゾーラは戦意を失ったらしく、追ってはこなかった。　⇩358へ

392　C

ムッとしたあたし。
ツカツカとその商人に歩み寄ると、力いっぱい頭をぶんなぐってやった。情けない事に、男は目をまわしてのびてしまった。頭の上で星が舞っていた。

390〜392

390●その墓地には、地上でもっとも強い化け物・ギーニが住んでいた。墓石から抜け出し襲ってくる！

レディのする事じゃないって？　フン。あたしは王子様に守ってもらうだけの、ひよわなお姫様じゃないのよ。

木の洞を出ると、驚いた事に、あたりの様子が一変していた。確かうっそうとした深い森だったのに、今あたしの前にあるのはどこまでも広がる草原。しかもすぐそばにあるのは、美しい妖精の泉。

ファニーがポーチから飛び出した。泉のほとりを飛びまわり、手招きをする。あたしはうなずき、泉に行く。

（持ているハートの分だけ、ＬＩＦＥエネルギーを満杯に）

再び歩き出す。

●南へ行く……………⇩２５６へ　●北へ行く……………⇩２７２へ
●東へ行く……………⇩２７０へ　●西へ行く……………⇩３６１へ

３９３ Ⓒ

リーバーはそのいやらしい触手を伸ばし、あたしの脚に巻きついてきた。ものすごい力で引っ張られる。

岩をつかむ手もしびれてくる。

とっさに覚悟を決め、岩を離した！　リーバーに引き寄せられながら、剣をかまえ、突

き出す。そしてあたしは、怪物の体を深々と刺しつらぬいてやった。
リーバーは傷口から青い血をふき、しぼんでいく。その姿はまるで、水でふくらんだ風船のようだった。（5ルピー得る）
青い血は穴の底で湖のようにたまり、そしてすぐにまた砂に吸い込まれてゆく。
あたしは斜面を登ろうとあがいた。砂がくずれてうまく登れない！

⇩377へ

394 Ⓒ

あたしはその強敵と必死に戦った。
だが、アクオメンタスのビームを受け、その場に倒れてしまった。絶体絶命の危機！　勝ち誇ったように吠え、あたしを踏み殺そうと迫ってくる一角獣。（LIFEエネルギー♡1個失う）
その時だった。突如ポーチから飛び出したファニーが、アクオメンタスのまわりを飛びまわった。怪物はその小さな妖精に気を取られ蝶を追う犬のように躍びはねては吠えた。
『今よ、ゼルダ。逃げて！』
ファニーの合図と共に、あたしは手近な扉から抜け出した。一瞬おいて、ファニーも扉の隙間から飛び出してきた。
後には怒り狂ったアクオメンタスの吠え声が残された。

⇩292へ

395 [C]

とっさに逃げる事にした。
だが、宙に浮かぶギーニは、恐ろしい速さで追ってくる。
何とか墓地の外まで逃げきった時、あたしは二度と立てないほど疲れ切っていた。（LIFEエネルギー♡2個失う）

⇩387へ

396 [C]

飛んでくるビームをさけながら、あたしは死にもの狂いで突進した。
剣と剣がまじわる鋭い音が響く。ライネルの長剣が、手を離れて宙を舞った。
今だ！
あたしは怪物の横っ腹に切っ先を突き立て、柄まで押し込む。
恐ろしい悲鳴と共に、ライネルは横倒しになった。（LIFEエネルギー♡1個得る）

⇩328へ

397

四角い、何もない部屋。4つの壁は全て石で造られ、何の仕掛けもない。
扉は3方に――。

●緑の扉へ…⇩349へ　●黒の扉へ…⇩374へ　●茶の扉へ……⇩346へ

398 C

井戸の縁に手をかけ、底をのぞいてみた。

空井戸だったけど、驚いた事に底で何かの明かりが灯っている。あたしは縄を伝って降りてみた。そこに商人がいた。

松明のそばに筵が敷かれ、品物が並んでいる。

「何かこうてくれや」と商人はいった。

○ホワイトソード――10ルピー　○マジカルブーメラン――20ルピー

○マジックシールド――10ルピー　○バクダン（5個）――7ルピー

○ハシゴ――7ルピー

（品物を買った人はアイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す）

あたしは再び縄を伝い、井戸の上に登っていった。

⇩386へ

399 C

さしものホワイトソードも、無数のギーニの前にはあまり効果がない。決定的なミスは、あたしが本体のギーニを見失ってしまったという事だ。

フワリフワリと変幻自在に飛びまわるギーニは、斬っても突いてもてごたえがない。

とっさに逃げる事にした。剣を大きく振りかざして威嚇（いかく）し、そのスキに脱兎（だっと）の如（ごと）く逃げ出した。

ギーニたちは追ってきたが、墓場の外まで逃げきると追ってこなくなった。まさに悪夢のような出来事。（LIFEエネルギー♡1個失う）

⇩387へ

400

とっさにぼくは、銀の矢を使った。

弓につがえるのももどかしく、両手で握（にぎ）った。

それを、大鴉（おおがらす）の胸――心臓に突き立てる。

GYAOOOOH!!

すさまじい絶叫と共に、大鴉――魔将軍（ゼネラル）ガイアは塵（ちり）と化し、消えていった。

それからぼくが何をしたかって？

決まっているじゃないか。おしとやかな姫に戻り、ぼくを待っていた愛しいゼルダに駆け寄り、熱い口づけをかわしたのさ。

ファニーのヤツがひとりむくれたけど、この時ばかりはなだめてやる余裕はなかった。

HAPPY END

399〜400

400●とっさに銀の矢を力いっぱい大鴉（おおがらす）の胸に突き立てた！　すさまじい絶叫と共にガイアは息絶えた。

エピローグ

それから3日後。
蜃気楼城(ミラージュ・キャッスル)はハイラル地方東部、緑の丘と呼ばれる場所に突如(とつじょ)出現、羊飼いの少年の小屋を押しつぶした。
少年は幸運にも外出していて助かったが、帰ってきて腰をぬかした。粗末(そまつ)な木造の小屋が、巨大な城になっていたためだ。
それっきり、城は二度と消えなくなった。
リンクとゼルダ、そして妖精ファニーは、城門を開いて外へ出た。
ひとりの老人が、そこで彼らを待っていた。
「あっ、あんた！」リンクが叫ぶ。
老人は白い髭(ひげ)をゆらしてニヤリと笑った。
「お主ァ、これで晴れてハイラル一の剣士になったわけじゃ。フォッフォッ」
「いったいあんた、誰なんだ？」

「わしはある目的により、お主らをあそこへ導いたじいじゃ」

「導いた……？　するとあちこちでぼくたちが出会った老人は？」

「そう。すべてわしの変装じゃ。ある時はヒントじいさん。またある時は手紙の老婆。またある時は謎の行商人。エトセトラ、エトセトラ――。して、その実体は!!」

彼は口髭（くちひげ）を勢いよくむしり取った。バリッと激しい音がした。

「イテテテテッ！」

「あ、お父様じゃないの」ゼルダが叫んだ。

「そう。わしはゼルダの父、国王グレアムII世」

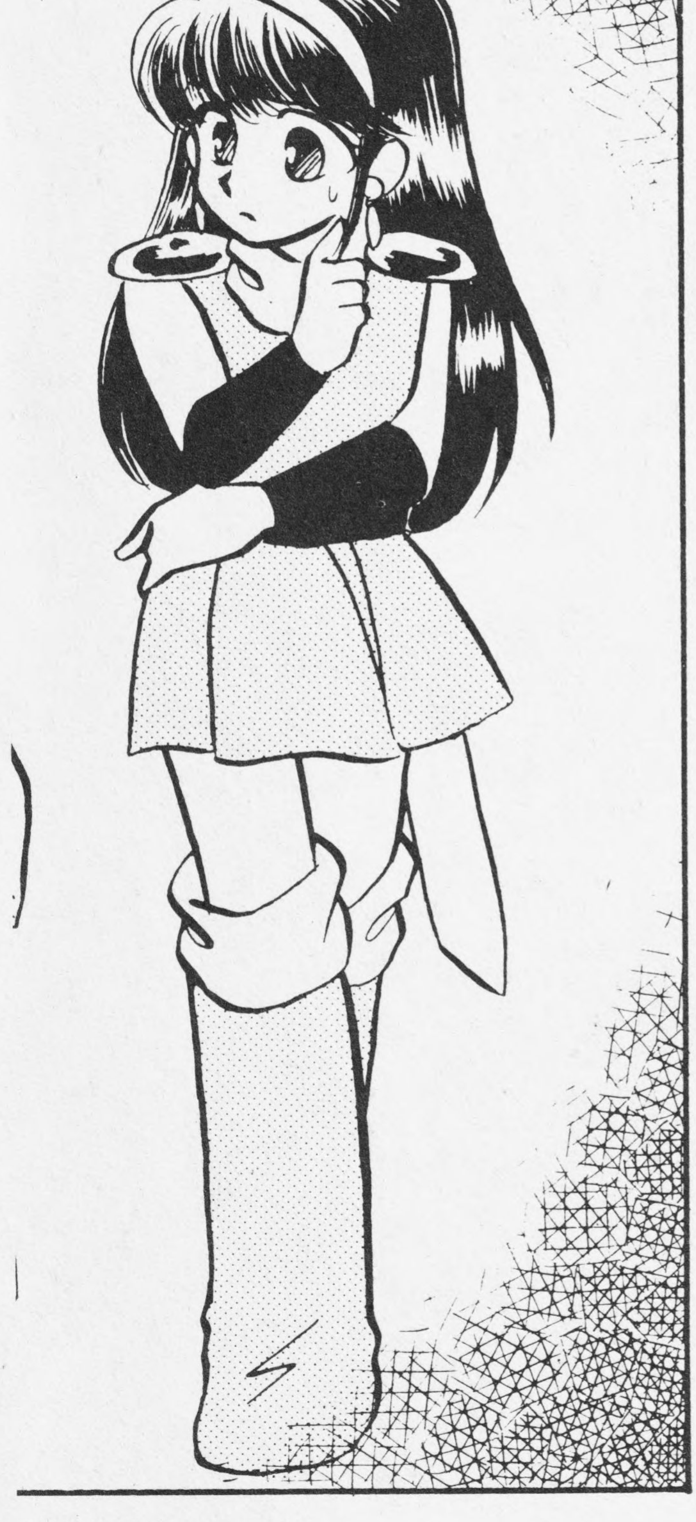
老人は――いや国王は、さらに顔のメイクを落としながら理由（わけ）を話した。

「わしの父、つまりゼルダのじいさまの遺言（ゆいごん）でな。ゼルダの花婿（はなむこ）になる男は、ハイラルで一番の剣士でなければならなかった。

あの魔王ガノンが倒れた後、お前たちふたりの恋愛は急速に進んでおった。ところがそんな時、世界一の魔道士と称する男が、ゼルダを嫁にくれといってきた。それが魔将軍（ゼネラル）ガイアじゃった。断われば、このハイラルに呪いをかけるという。そして本当に奴はそれを実行した。お前たちもそれに巻き込まれたわけだ。

だがわしは考えた。ひょっとしてこれは、リンクをためすいいチャンスかもしれん、とね。果たしてそうなったわい。わはははは」

国王は大口を開け、のけぞって笑った。
「花婿も決まり、トライフォースも取り返し、国には平和が戻ってきた。これ以上のハッピーエンドはないよのゥ。満足満足」
笑い続ける国王に背を向け、リンクたちはあきれ顔で見つめ合った。
『なんちゅー、父親なのよ！　バカみたい』リンクの頭の上で、ファニーがいきまいた。
少なくとも3人にとって、この話はありきたりの物語のハッピーエンドじゃないようだ。
妙な話さ、まったくね。
さて、リンクとゼルダの運命がそれからどうなったか、これをお話ししなければならないだろう。
だけどそれは別のお話。いつかまた、別の時に話す事にしよう。なーんちゃってね。

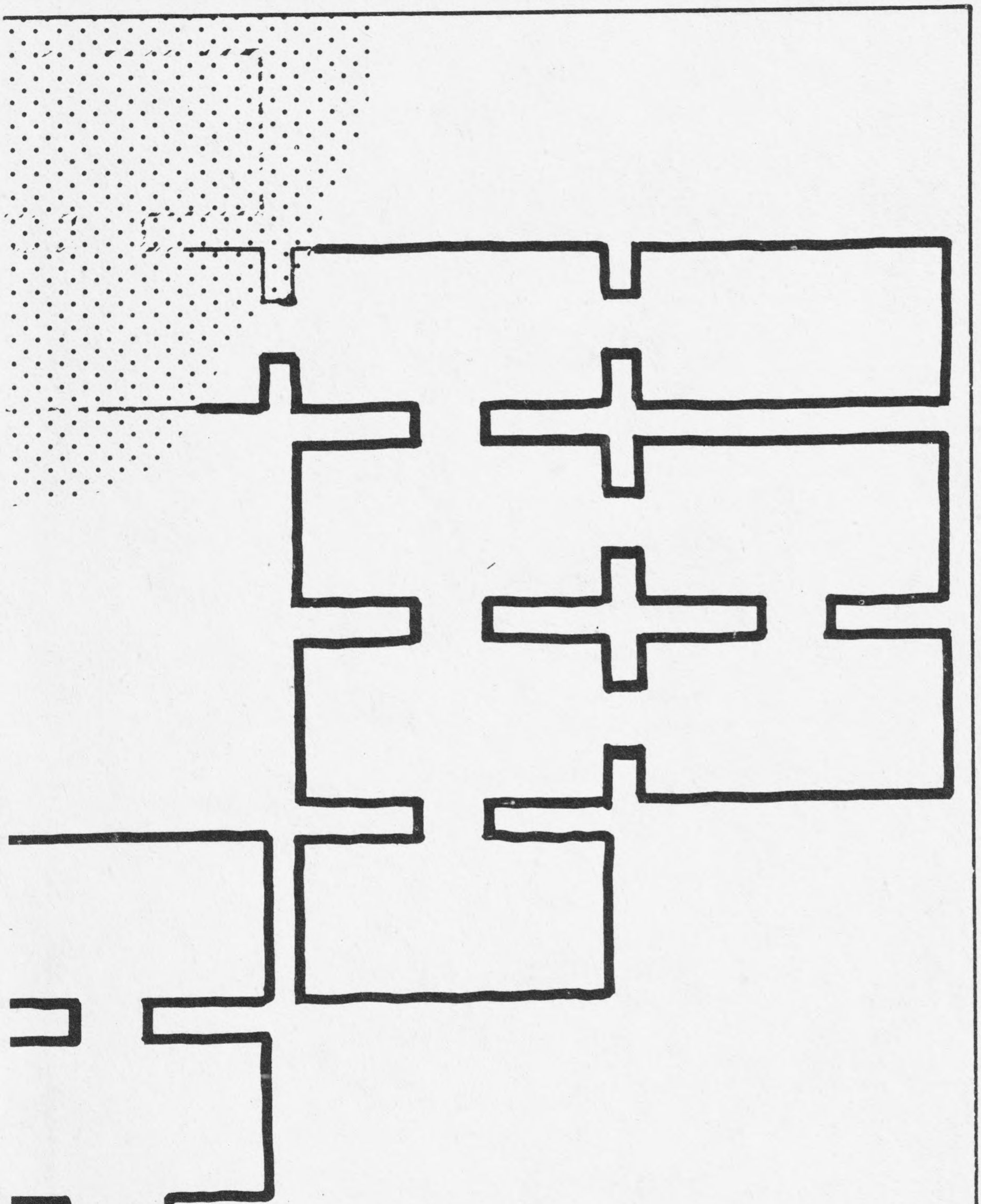


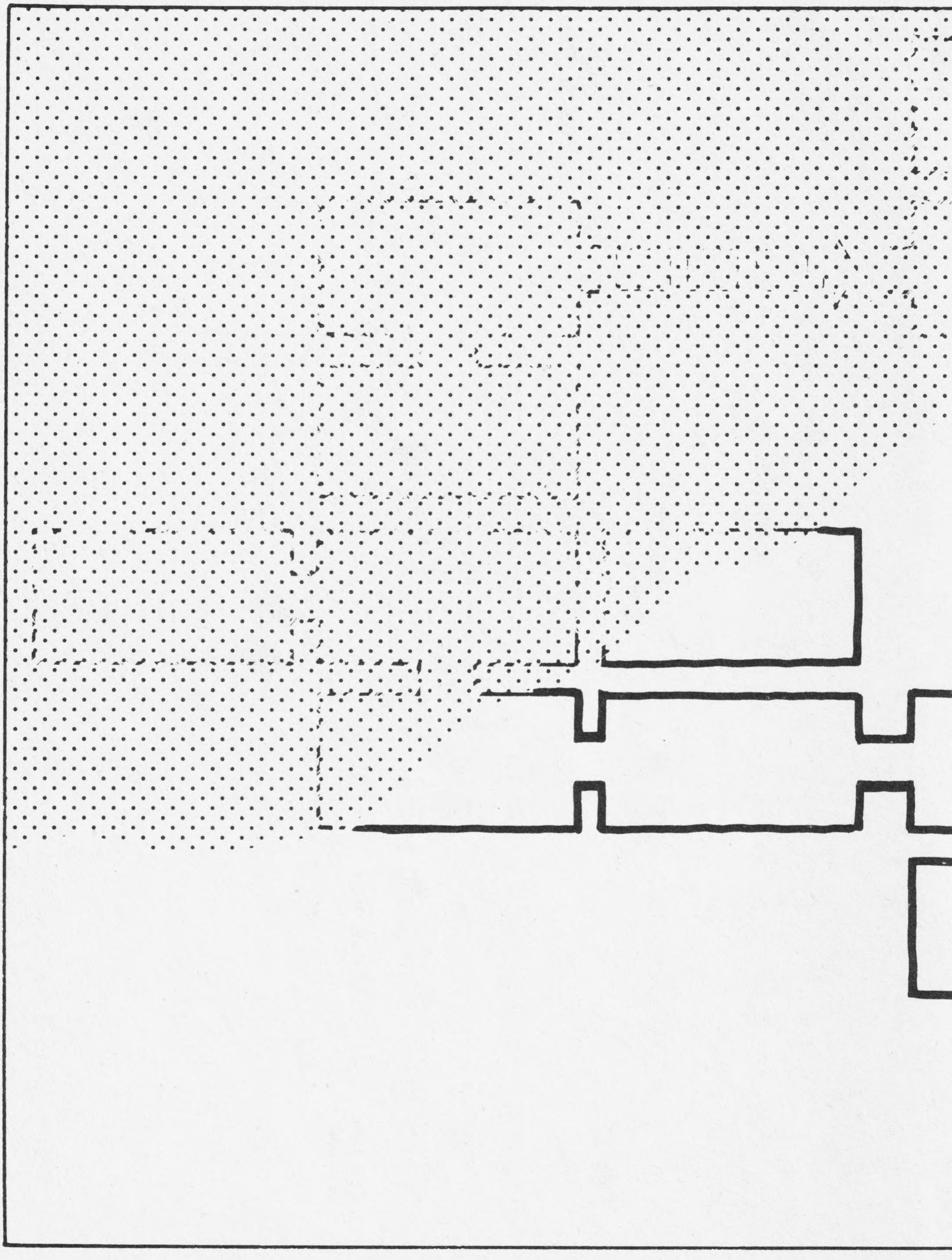
ハイラル地方地図

霧の草原
のこぎり山
赤い砂
迷いの洞
死霊の街
海
池
クリスタル
キャッスル
ピラミッド
岩場
行き戻りの
墓地
白い砂
巨大ガメの背

蜃気楼城内見取り図

ミラージュ・キャッスル





作者あとがき

ぼくが昔、夢中になって読んだ本に、小林信彦『オヨヨ大統領シリーズ』、井上ひさし『ブンとフン』、北杜夫『船乗りクプクプの冒険』などがあった。
それらに共通するのは、荒唐無稽な内容と、文章を使った大胆な「遊び」ってこと。
『ゼルダの伝説』のGB化の時、それができないか、と思った。ないない知恵を絞り、油虫軍団の襲撃にMGC・ベレッタM93Rで対抗しつつ、徹夜で仕上げた作品がこれ。
いい出来である。（本人談）――何しろ昼と夜とで、ふたりの主人公が交代して活躍するという豪華さ。かつてこんなGBがあっただろうか？（あったりして）
話は突然かわるのだが、アメリカのベストセラー作家、スティーヴン・キングが書くモダンホラー小説。（たとえば『呪われた町』とか『霧』）こんなタイプのGBが書けないかと思っている。もちろんオリジナルで。
キングの作品みたいに、人間の仕事や生活を描き込み、リアリティを生み出すのは至難の業だけど、もしできるなら凝ってみたいものだ。

っている。(何とまあ、ゼイタクな本!)

この『ゼルダ——』、コミカルなキャラ設定でありながら、実はホラーの要素もずい分入っている。(何とまあ、ゼイタクな本!)

てなわけで、編集をして下さったハードの皆様。御苦労様でした。いつもメ切りに遅れてすいません。

ではまた、次回作で——。

●筆者紹介

樋口明雄(フリーライター)

1960年、山口県岩国市生れ。明治学院大学卒業後、雑誌記者等を経てフリーに。『ルパン三世 黄金のデッドチェイス』でデビュー。ハードボイルド小説愛好家。

バトル記号表

基本ポイントに、下のバトル記号のワクの数字をプラス。どちらがより**9**に近い——？

リンク or ゼルダ	バトル記号	敵
4	A	3
1	B	4
5	C	1
3	D	2
4	E	4
2	F	3
3	G	5
1	H	2
5	I	1
1	J	4
2	K	2
3	L	3
4	M	5
1	N	1
3	O	5

冒険記録紙

アイテム・チェックシート

リンク	
ゼルダ	

リンクとゼルダが取るアイテムは、それぞれ取った本人しか使えません。別々にチェックしていきましょう。

冒険記録紙

バクダン・チェックシート

リンク	5➡
ゼルダ	5➡

リンクとゼルダ別々にチェックしてください。

経過日数ゲージ

ルピー・チェックシート

リンク	20➡
ゼルダ	20➡

リンクとゼルダ別々にチェックしてください。

冒険記録紙

LIFE エネルギー♡チェックシート

リンク	5➡
ゼルダ	5➡

リンクとゼルダ別々にチェックしていきましょう。

ステップメモ

1												

冒険記録紙

アイテム・チェックシート

リンク	
ゼルダ	

リンクとゼルダが取るアイテムは、それぞれ取った本人しか使えません。別々にチェックしていきましょう。

冒険記録紙

バクダン・チェックシート

リンク	5➡
ゼルダ	5➡

リンクとゼルダ別々にチェックしてください。

経過日数ゲージ

ルピー・チェックシート

リンク	20➡
ゼルダ	20➡

リンクとゼルダ別々にチェックしてください。

冒険記録紙

LIFEエネルギー♡チェックシート

リンク	5➡
ゼルダ	5➡

リンクとゼルダ別々にチェックしていきましょう。

ステップメモ

1												

編集部から

好評、「ファミコンゲームブックシリーズ」第3弾、いかがでしたか？　今回の『ゼルダの伝説』では、主人公が二人で交代に冒険をするという、新しい試みに挑戦してみました。ハッピーエンドにたどりつく確率はごくわずか。あなたは、任務を遂行することができましたでしょうか？

当編集部では、今後とも、ファミコンゲームを素材にしたゲームブックを、次々と発売していく予定です。

つきましては、この本のタイトル、ならびにあなたの年齢を明記して「ゲームブックシリーズ」に対する御意見、御感想をお寄せ下されば幸いです。また、これからゲームブック化して欲しい素材、ゲームブックに対する希望などもお待ちしております。

〈あて先〉〒162　東京都新宿区東五軒町3番28号（株）双葉社「ファミコン冒険ゲームブックシリーズ」編集部

お寄せいただいた方の中から抽選でゲームブックの最新刊をプレゼントいたします。

企画・構成／スタジオ・ハード　樋口明雄
制作／池田美佐　漢那早美　高橋信之
文／樋口明雄
作画／田中夕子
©Nintendo 1986
ファミリーコンピュータ・ファミコンは任天堂の商標です

ゼルダの伝説
蜃気楼城の戦い

双葉文庫　ファミコン冒険ゲームブックシリーズ③す 02-4

昭和61年９月28日　第１刷発行　　定価 420円
昭和62年８月１日　第８刷発行

著　者　樋　口　明　雄
制　作　スタジオ・ハード
発行者　清　水　文　人
発行所　株式会社双葉社
〒162　東京都新宿区東五軒町３番28号
TEL　東京(268)5111（代表）
振替　東京 8-117299
印　刷　慶　昌　堂　印　刷㈱
製　本　㈱若林製本工場

©Akio Higuchi/ST・HARD 1986 Printed in Japan
（落丁・乱丁はお取りかえいたします）
ISBN4-575-76013-7　C0193

ファミコン冒険ゲームブック

リンクの冒険／魔界からの逆襲

闇に葬り去ったはずの大魔王ガイア。しかしその魂は滅んではいなかった⁉　ガイアの魂は、リンクとゼルダ姫を過去に呼び寄せたのだ‼　再び、宿敵ガイアを前に、リンクの死闘が始まる。だが、最後にリンクを待ちうけていたのは、想像もしなかった恐るべき相手だった‼　『ゼルダの伝説』のヒーロー、リンクが再び大活躍！　今回もキミは、ガノンを倒せるか⁉

発売中
定価420円

ポートピア連続殺人事件
――密室殺人の謎――

御存知、ボス＆ヤスの名コンビがゲームブックになって帰ってきた！　悪徳サラ金業者、山川耕三が殺された。さっそく事件究明に乗り出すボス＆ヤスのコンビ。だがさらに、第二、第三の事件が……。キミも、本格的推理ゲームブックに挑戦だ！

発売中
定価420円

ファミコン冒険ゲームブック

ドラゴンクエスト／蘇る英雄伝説

平和な王国アレフガルドが、ある日突然、怪物の徘徊する魔境と化した。昔、勇者ロトが魔物たちを封じ込めたという光の玉を悪魔の化身・竜王に奪われてしまったのだ！
ロトの血を引く勇者よ立ち上がれ！ 竜王を倒し、光の玉を奪い返すのだ。キミも、大人気のゲームブックに挑戦！ アレフガルドに平和を取りもどすのは、キミだ!!

発売中
定価420円

ドラゴンクエストII
——悪霊の神々（上・下）——

爆発的人気『ドラゴンクエストII』が、ゲームブック初の上下巻で登場!! 壮大なストーリー展開とより複雑なゲーム構成で、おもしろさは、絶頂点！
さあ、キミは、この大作を征服することができるか!?

発売中
定価420円

ファミコン冒険ゲームブック

スーパーマリオブラザーズVOL1

—マリオを救え!—

話題の「スーパーマリオブラザース」ゲームブック、第一弾!
ファミコン大好き少年のボクは、ある日、マリオのS0Sの声を聞いた。その瞬間、ファミコンの世界に入り込んでしまったのだ!!
果たしてキミは、マリオを救うことができるか!?

発売中
定価380円

スーパーマリオブラザーズVOL2

—大魔王ネオクッパの挑戦—

大好評、マリオシリーズ、第2弾!!
突然の爆発で、500年近くも未来にタイムスリップしてしまったマリオ。そこにはなんと、サイボーグ化したネオクッパがいた!!
果たしてキミは、強大化したクッパを倒すことができるか!?

発売中
定価350円

210

ファミコン冒険ゲームブック

スーパーマリオブラザーズVOL3

―マリオ軍団出撃!―

大人気「マリオシリーズ」、いよいよ第三弾、登場!! なんと第二作目で倒したはずのクッパが復活! マリオたちの新たな冒険が始まる。ゲームブック初、三人一組のパーティープレイ。難易度は最高だ。それでもキミは、挑戦するか!?

発売中
定価420円

高橋名人のBugってハニー

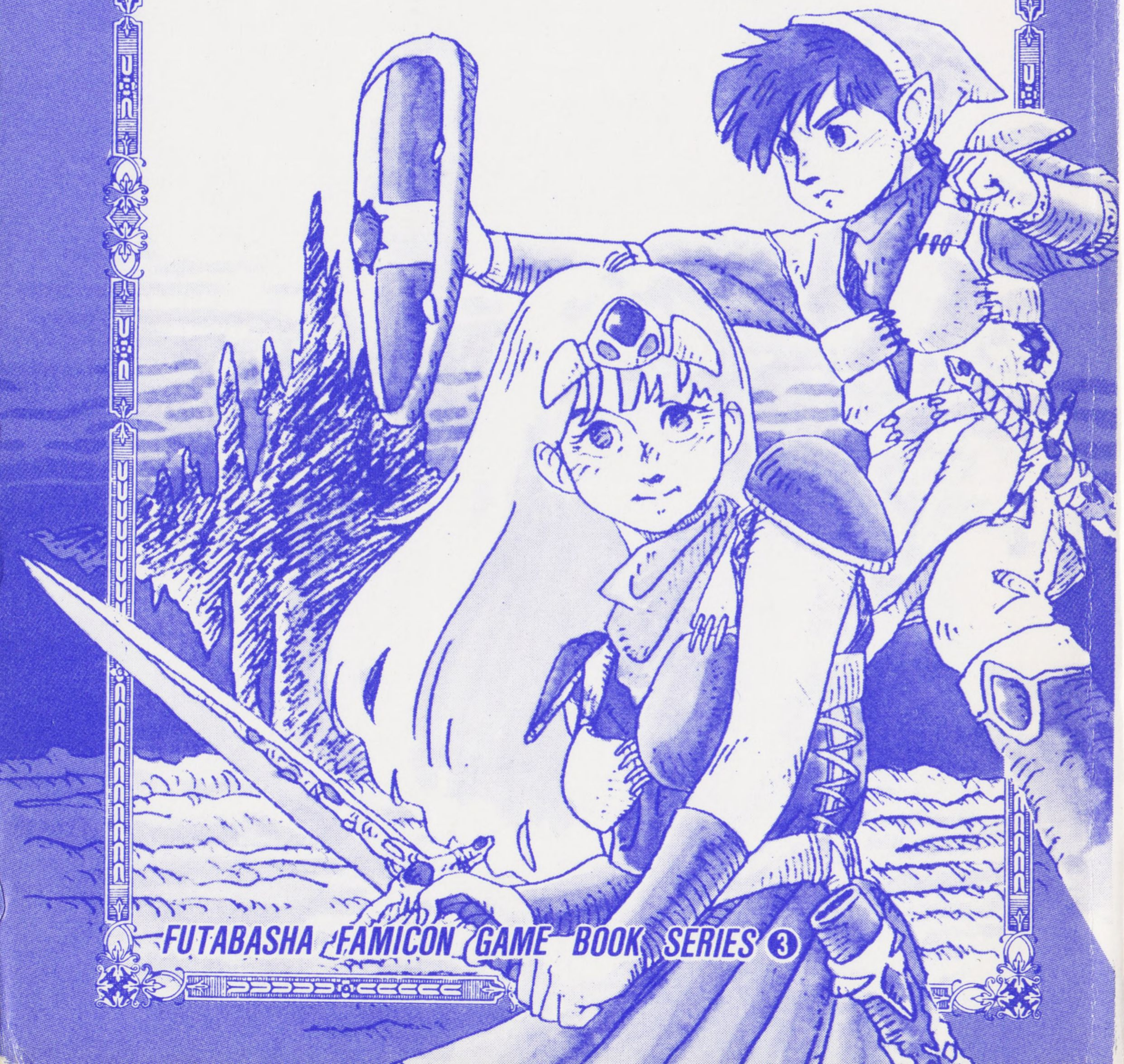
―ゲーム世界危機一髪―

トイコン・クラブ三人の目の前で、ゲームの中の高橋名人が消えた!! ハニーの導きで、名人を探しにファミコン世界に入り込んだ三人だが……。果たして、名人と三人の運命はいかに!?
前作『冒険島』に続いて、今回も高橋名人が大暴れだ!!

発売中
定価380円

ゼルダの伝説

蜃気楼城の戦い



FUTABASHA FAMICON GAME BOOK SERIES ③

GAME BOOK

ゼルダの伝説

蜃気楼城の戦い

FUTABASHA FAMICON GAME BOOK SERIES ③

双葉文庫

ストーリー

勇者リンクの活躍で、平和をとり戻したハイラル地方。しかし、それも長くは続かなかった。闇の世界から、また新たな敵がやって来たんだ。

そいつの名は、魔将軍(ゼネラル)ガイア。リンクに敗れて死んだ大魔王ガノンの弟だ。

トライフォースは奪われ、ふたたび魔界と化すハイラル地方。おまけに、リンクとゼルダも、ガイアに呪いをかけられてしまった。日の出と日没をさかいに、ふたりは変わる変わる魔法の球クリスタルムーンの中に閉じ込められてしまうんだ。

ガイアの呪いを解き、ハイラルに平和をとり戻す日はいつか!? さあ、新しい冒険への旅立ちだ!!

カバーイラスト／MARUDAだ
カバーデザイン／碇　三津子

ファミコン冒険ゲームブック③

ゼルダの伝説

蜃気楼城の戦い

双葉文庫　ゲームブックシリーズ

GAME BOOK

ゼルダの伝説

蜃気楼城の戦い

スタジオ・ハード編
樋口明雄 著

双葉文庫
す
02-4
420

FUTABASHA FAMICON GAME BOOK SERIES ③

ゼルダの伝説

蜃気楼城の戦い

ファミリーコンピュータ・ファミコンは任天堂の商標です。ⒸNintendo 1986

ISBN4-575-76013-7　C0193　¥420E　定価420円 双葉文庫

FUTABASHA GAMEBOOK SERIES

ファミコン冒険ゲームブックシリーズのご案内

1 スーパーマリオブラザーズVol.1／マリオを救え！
2 グラディウス／未知との戦い
3 ゼルダの伝説／蜃気楼城の戦い
4 謎の村雨城／不思議議時代の旅
5 メトロイド／ゼーベス侵入指令
6 スーパーマリオブラザーズVol.2／大魔王ネオクッパの挑戦
7 ドラゴンクエスト／蘇る英雄伝説
8 ポートピア連続殺人事件／密室殺人の謎
9 悪魔城ドラキュラ／古城の死闘
10 がんばれゴエモン！からくり道中／東海道五十三景
11 高橋名人の冒険島／ティナを救い出せ！
12 ミシシッピー殺人事件／リバーボートの冒険
13 パルテナの鏡／神殿の悪魔を倒せ！
14 リンクの冒険／魔界からの逆襲
15 所さんのまもるもせめるも／アクアク大冒険
16 さんまの名探偵／桂文珍殺人事件
17 ポケットザウルス／恐竜島漂流記
18 月風魔伝／魔暦元年の戦い
19 熱血硬派くにおくん／番長連合をぶっとばせ！
20 アルゴスの戦士／解かれたる封印
21 22 ドラゴンクエストII／悪霊の神々（上・下）
23 スーパーマリオブラザーズVol.3／マリオ軍団出撃！
24 高橋名人のBugってハニー／ゲーム世界危機一髪！